

【歴史基礎文化学系】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
6601001	系共通科目(日本史学)	講義	2-4	4	通年	水5	吉川 真司		歴史基礎文化学系1
6701001	系共通科目(東洋史学)	講義	2-4	4	通年	火2	吉本 道雅		歴史基礎文化学系2
6801001	系共通科目(西南アジア史学)	講義	2-4	4	通年	水2	磯貝 健一		歴史基礎文化学系3
6901001	系共通科目(西洋史学)	講義	2-4	4	通年	火4	金澤 周作		歴史基礎文化学系4
7003001	系共通科目(先史学)	講義	1-4	4	通年	火1	吉井 秀夫		歴史基礎文化学系5
6631009	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	火2	上島 享		歴史基礎文化学系6
6631002	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	三宅 正浩		歴史基礎文化学系7
6631001	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	谷川 穰		歴史基礎文化学系8
6631003	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	笹川 尚紀		歴史基礎文化学系9
6631016	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	吉江 崇		歴史基礎文化学系10
6631017	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	吉江 崇		歴史基礎文化学系11
6631014	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	木3	熊谷 隆之		歴史基礎文化学系12
6631015	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	木3	熊谷 隆之		歴史基礎文化学系13
6631004	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	岩城 卓二		歴史基礎文化学系14
6631005	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	岩城 卓二		歴史基礎文化学系15
6631008	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	岩崎 奈緒子		歴史基礎文化学系16
6631012	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	高木 博志		歴史基礎文化学系17
6631013	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	高木 博志		歴史基礎文化学系18
6631020	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	西山 伸		歴史基礎文化学系19
6631006	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	福家 崇洋		歴史基礎文化学系20
6631007	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	市 大樹		歴史基礎文化学系21
6631019	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	宇佐見 隆之		歴史基礎文化学系22
6631010	日本史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	藤原 重雄		歴史基礎文化学系23
6631018	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	金4	鍛冶 宏介		歴史基礎文化学系24
6631011	日本史学	特殊講義	3-4	2	後期	火5	内山 一幸		歴史基礎文化学系25
6640002	日本史学	演習I	3-4	4	通年	金3	吉川 真司		歴史基礎文化学系26
6640003	日本史学	演習I	3-4	4	通年	火3	上島 享		歴史基礎文化学系27
6640001	日本史学	演習I	3-4	4	通年	水1	三宅 正浩		歴史基礎文化学系28
6640004	日本史学	演習I	3-4	4	通年	金2	谷川 穰		歴史基礎文化学系29
6642001	日本史学	演習II	4	4	通年	木1	吉川 真司,谷川 穰,上島 享,三宅 正浩		歴史基礎文化学系30
6646001	日本史学	基礎演習	2-4	4	通年	木5	吉川 真司,谷川 穰,上島 享,三宅 正浩		歴史基礎文化学系31
6650001	日本史学	講読	2-4	4	通年	金4	吉川 真司		歴史基礎文化学系32
6650002	日本史学	講読	2-4	4	通年	月1	木土 博成		歴史基礎文化学系33
6660001	日本史学	実習	3-4	2	前期	水3,水4	谷川 穰,木土 博成		歴史基礎文化学系34
6660002	日本史学	実習	4	2	前期	水3,水4	谷川 穰,木土 博成		歴史基礎文化学系35
6660003	日本史学	実習	3-4	2	後期	水3,水4	上島 享,木土 博成		歴史基礎文化学系36
6660004	日本史学	実習	4	2	後期	水3,水4	上島 享,木土 博成		歴史基礎文化学系37
6731001	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	吉本 道雅		歴史基礎文化学系38
6731002	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	吉本 道雅		歴史基礎文化学系39
6731003	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	中砂 明德		歴史基礎文化学系40
6731004	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	中砂 明德		歴史基礎文化学系41
6731005	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	木1	高嶋 航		歴史基礎文化学系42
6731006	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	木1	高嶋 航		歴史基礎文化学系43
6731007	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	小野寺 史郎		歴史基礎文化学系44
6731009	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	木5	箱田 恵子		歴史基礎文化学系45
6731010	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	上田 信		歴史基礎文化学系46
6731011	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	辻 正博		歴史基礎文化学系47
6731012	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	辻 正博		歴史基礎文化学系48
6731013	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火1	矢木 毅		歴史基礎文化学系49
6731014	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火1	矢木 毅		歴史基礎文化学系50
6731018	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	承 志		歴史基礎文化学系51
6731019	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	承 志		歴史基礎文化学系52
6731021	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	太田 出		歴史基礎文化学系53
6731022	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	太田 出		歴史基礎文化学系54
6731023	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	宮宅 潔		歴史基礎文化学系55
6731024	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	宮宅 潔		歴史基礎文化学系56
6731025	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	村上 衛		歴史基礎文化学系57
6731026	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	村上 衛		歴史基礎文化学系58
6731027	東洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水1	古松 崇志		歴史基礎文化学系59
6731028	東洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水1	古松 崇志		歴史基礎文化学系60
6741001	東洋史学	演習I	3-4	2	前期	金3	吉本 道雅		歴史基礎文化学系61
6741002	東洋史学	演習I	3-4	2	後期	金3	吉本 道雅		歴史基礎文化学系62
6743001	東洋史学	演習II	3-4	2	前期	火5	中砂 明德		歴史基礎文化学系63
6743002	東洋史学	演習II	3-4	2	後期	火5	中砂 明德		歴史基礎文化学系64
6745001	東洋史学	演習III	3-4	2	前期	金1	高嶋 航		歴史基礎文化学系65
6745002	東洋史学	演習III	3-4	2	後期	金1	高嶋 航		歴史基礎文化学系66
6749001	東洋史学	演習	3-4	2	前期	月2	石川 禎浩		歴史基礎文化学系67
6749002	東洋史学	演習	3-4	2	後期	月2	石川 禎浩		歴史基礎文化学系68
6749003	東洋史学	演習	3-4	2	後期	水3	小野寺 史郎		歴史基礎文化学系69
6750001	東洋史学	講読	2-4	4	通年	水4	中砂 明德		歴史基礎文化学系70
6750002	東洋史学	講読	2-4	4	通年	水2	中砂 明德		歴史基礎文化学系71
6761001	東洋史学	実習	3-4	2	通年	水5	吉本 道雅,中砂 明德,高嶋 航		歴史基礎文化学系72

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
6831004	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	木3	仁子 寿晴		歴史基礎文化学系73
6831005	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	山口 元樹		歴史基礎文化学系74
6831006	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	稲葉 穰		歴史基礎文化学系75
6831007	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	帯谷 知可		歴史基礎文化学系76
6831009	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	五十嵐 大介		歴史基礎文化学系77
6831011	西南アジア史学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	磯貝 健一		歴史基礎文化学系78
6840001	西南アジア史学	演習I	3-4	4	通年	火3	磯貝 健一		歴史基礎文化学系79
6842001	西南アジア史学	演習II	3-4	4	通年	火2	磯貝 健一		歴史基礎文化学系80
6844001	西南アジア史学	演習II	3-4	2	前期	金3	伊藤 隆郎		歴史基礎文化学系81
6844002	西南アジア史学	演習II	3-4	2	後期	金3	伊藤 隆郎		歴史基礎文化学系82
6850001	西南アジア史学	講読	3-4	4	通年	金1	今松 泰		歴史基礎文化学系83
6851001	西南アジア史学	講読	3-4	2	前期	水2	東長 靖		歴史基礎文化学系84
6851002	西南アジア史学	講読	3-4	2	前期	月2	磯貝 健一		歴史基礎文化学系85
6851003	西南アジア史学	講読	3-4	2	後期	月2	稲葉 穰		歴史基礎文化学系86
6861001	西南アジア史学	実習	3-4	1	後期	月4	磯貝 健一		歴史基礎文化学系87
6861002	西南アジア史学	実習	3-4	1	前期	月4	磯貝 健一		歴史基礎文化学系88
9604001	西南アジア史学	語学	2-4	4	通年	水3	西尾 哲夫	学部共通科目	歴史基礎文化学系89
9608001	西南アジア史学	語学	3-4	4	通年	金2	杉山 雅樹	学部共通科目	歴史基礎文化学系90
9616001	西南アジア史学	語学	1-4	4	通年	月4	山口 周子	学部共通科目	歴史基礎文化学系91
9620001	西南アジア史学	語学	3-4	4	通年	金1	森 若葉	学部共通科目	歴史基礎文化学系92
9633001	西南アジア史学	語学	1-4	4	通年	金5	小松 久恵	学部共通科目	歴史基礎文化学系93
9639001	西南アジア史学	語学	3-4	2	前期	火3	手島 勲矢	学部共通科目	歴史基礎文化学系94
9640001	西南アジア史学	語学	3-4	2	後期	火3	手島 勲矢	学部共通科目	歴史基礎文化学系95
6931003	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	南雲 泰輔		歴史基礎文化学系96
6931004	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	水谷 智		歴史基礎文化学系97
6931005	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	竹下 哲文		歴史基礎文化学系98
6931006	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	竹下 哲文		歴史基礎文化学系99
6931007	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	伊藤 順二		歴史基礎文化学系100
6931008	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	伊藤 順二		歴史基礎文化学系101
6931009	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	見瀬 悠		歴史基礎文化学系102
6931010	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	関師 宣忠		歴史基礎文化学系103
6931011	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	小関 隆		歴史基礎文化学系104
6931012	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	小関 隆		歴史基礎文化学系105
6931014	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	藤原 辰史		歴史基礎文化学系106
6931015	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	藤原 辰史		歴史基礎文化学系107
6931016	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	火5	藤井 崇		歴史基礎文化学系108
6931017	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	火5	藤井 崇		歴史基礎文化学系109
6931018	西洋史学	特殊講義	3-4	2	前期	水5	小山 哲		歴史基礎文化学系110
6931019	西洋史学	特殊講義	3-4	2	後期	水5	小山 哲		歴史基礎文化学系111
6971001	西洋史学	演習I	3-4	2	前期	金5	藤井 崇		歴史基礎文化学系112
6971002	西洋史学	演習I	3-4	2	後期	金5	藤井 崇		歴史基礎文化学系113
6972001	西洋史学	演習II	3-4	2	前期	金5	佐藤 公美		歴史基礎文化学系114
6972002	西洋史学	演習II	3-4	2	後期	金5	佐藤 公美		歴史基礎文化学系115
6973001	西洋史学	演習III	3-4	2	前期	金5	小山 哲		歴史基礎文化学系116
6973002	西洋史学	演習III	3-4	2	後期	金5	小山 哲		歴史基礎文化学系117
6974001	西洋史学	演習IV	3-4	2	前期	金5	金澤 周作		歴史基礎文化学系118
6974002	西洋史学	演習IV	3-4	2	後期	金5	金澤 周作		歴史基礎文化学系119
6947001	西洋史学	演習V	4	4	通年	金2	小山 哲,金澤 周作,藤井 崇		歴史基礎文化学系120
6950001	西洋史学	講読	2-4	4	通年	水1	富井 眞	英書講読	歴史基礎文化学系121
6955003	西洋史学	講読	2-4	2	前期	火2	佐藤 夏樹	英書講読	歴史基礎文化学系122
6955004	西洋史学	講読	2-4	2	後期	火2	成田 千尋	英書講読	歴史基礎文化学系123
6956001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	火1	藤井 崇	独書講読	歴史基礎文化学系124
6956002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	火1	藤井 崇	独書講読	歴史基礎文化学系125
6957001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	木1	小山 哲	仏書講読	歴史基礎文化学系126
6957002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	木1	小山 哲	仏書講読	歴史基礎文化学系127
6958001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	火3	伊藤 順二	露書講読	歴史基礎文化学系128
6958002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	火3	伊藤 順二	露書講読	歴史基礎文化学系129
6959001	西洋史学	講読	2-4	2	前期	水4	村瀬 有司	伊書講読	歴史基礎文化学系130
6959002	西洋史学	講読	2-4	2	後期	水4	村瀬 有司	伊書講読	歴史基礎文化学系131
6961001	西洋史学	講読	3-4	2	前期	火4	小山 哲	ポーランド書講読	歴史基礎文化学系132
6960001	西洋史学	実習	3-4	2	通年	水2	小山 哲,金澤 周作,藤井 崇		歴史基礎文化学系133
7031001	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	吉井 秀夫		歴史基礎文化学系134
7031002	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	吉井 秀夫		歴史基礎文化学系135
7031003	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	火3	小方 登		歴史基礎文化学系136
7031004	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	岡村 秀典		歴史基礎文化学系137
7031005	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	岡村 秀典		歴史基礎文化学系138
7031006	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	杉山 淳司		歴史基礎文化学系139
7031007	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	中川 尚史		歴史基礎文化学系140
7031008	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	中務 真人		歴史基礎文化学系141
7031009	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	金3	下垣 仁志		歴史基礎文化学系142
7031010	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	下垣 仁志		歴史基礎文化学系143
7031011	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	中久保 辰夫		歴史基礎文化学系144
7031012	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	月5	吉井 秀夫,富井 眞,下垣 仁志,内記 理		歴史基礎文化学系145

講義コード	科目名		回 生	単 位	開 講 期	曜時限	担 当 者	備 考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
7031013	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	大賀 克彦		歴史基礎文化学系146
7031014	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	上峯 篤史		歴史基礎文化学系147
7031015	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	千葉 豊,伊藤 淳史		歴史基礎文化学系148
7031018	考古学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	向井 佑介		歴史基礎文化学系149
7031019	考古学	特殊講義	3-4	2	後期	火2	向井 佑介		歴史基礎文化学系150
7040001	考古学	演習I	3-4	4	通年	金2	吉井 秀夫		歴史基礎文化学系151
7042001	考古学	演習II	3-4	4	通年	金4	下垣 仁志		歴史基礎文化学系152
7045001	考古学	演習III	4	4	通年	金1	千葉 豊,吉井 秀夫,下垣 仁志		歴史基礎文化学系153
7050001	考古学	講読	2-4	4	通年	水1	富井 眞		歴史基礎文化学系154
7060001	考古学	実習	2-4	4	通年	火3,火4	千葉,伊藤,吉井,富井,下垣		歴史基礎文化学系155

歴史基礎文化学系1

科目ナンバリング		U-LET23 26601 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本史学)(講義) Japanese History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代史通論									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代史のうち、文献史料による研究が十分可能な3～11世紀、すなわち倭国時代から平安時代 摂関期までの歴史を通観する。いくつかのテーマを設定し、新しい研究や新しい史料を紹介しながら、 近年の日本古代史研究では何が明らかにされてきたか、いかなる方法が用いられてきたかを述 べる。列島社会に政治的なまとまりが生まれ、中央集権国家「日本」が誕生してくる歴史、それが 段階的に変容していく歴史を跡づけることにより、日本の社会・国家・文化の古層に関する豊かな 認識を得ることを目標としたい。なお、本講義で扱う時代幅はいささか限定的であるが、その前後 の時代を幅広く見通し、また日本史一般を理解する上で必要な知識・方法を述べるものであって、 日本史学全体についての研究入門と位置づけている。</p>											
【到達目標】											
<p>日本史、特に古代史に関する基本的な知識を身につけるとともに、歴史を認識・再構成するための 方法について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、理解度に応じて詳しく説明したり、 新しい発見を紹介することなどもあるため、各テーマの内容・回数・順序については柔軟に考える ことにする。</p>											
<p>第01回 序説：日本史・日本古代史の領域 第02回 邪馬台国 第03回 初期の倭王権 第04回 タニハの大県主 第05回 ホムタワケの登場 第06回 ワカタケル大王の時代 第07回 秦氏のヤマシロ移住 第08回 オホド大王の新王朝 第09回 仏教伝来 第10回 聖徳太子の実像 第11回 二つの王家 第12回 大化改新と難波宮 第13回 律令体制の形成とユーラシア 第14回 公民制と調庸制 第15回 方格と直線の地割 第16回 古代仏教のネットワーク 第17回 天平の疫病大流行 第18回 黄金郷の原像 第19回 女性天皇と太上天皇 第20回 交野行幸と百濟王氏</p>											
----- 系共通科目(日本史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(日本史学)(講義)(2)

- 第 2 1 回 古代王宮の変貌
第 2 2 回 承和の転換
第 2 3 回 古代荘園
第 2 4 回 楽舞と和歌
第 2 5 回 古代末期の地方寺院
第 2 6 回 摂関政治と貴族社会
第 2 7 回 国風文化
第 2 8 回 女真海賊事件の前後
第 2 9 回 古代から中世へ
第 3 0 回 総括：世界史の中の日本古代史

【履修要件】

高等学校等で「日本史B」を履修したこと、もしくはそれと同等の学力を有すること。

【成績評価の方法・観点】

毎回の小レポート(30点)、期末レポート(1回、70点)により評価する。
ともに到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

吉川真司『シリーズ日本古代史3 飛鳥の都』(岩波新書)ISBN:978-4004312734

吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』(講談社学術文庫)ISBN:978-4062924825

【授業外学修(予習・復習)等】

講義で基本史料や参考文献を示すので、できるだけ読んでおくこと。
講義でふれた遺跡・史跡については、できるだけ見学すること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系2

科目ナンバリング		U-LET24 26701 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(東洋史学)(講義) Oriental History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国専制国家の形成									
【授業の概要・目的】											
<p>秦始皇帝の天下統一（221BC）から清朝宣統帝の退位（1912）までの2000年あまり、中国では、皇帝が官僚を用いて集権的に人民を支配する専制国家が持続した。中国専制国家は自らを「中華」とし周辺諸民族を「四夷」とみなす「中華帝国」であった。「中華帝国」のもとで培われた政治文化は21世紀の現代に至るまでその痕跡をとどめている。本講義では秦の天下統一に至る歴史的推移を概観しつつ、中国専制国家の特質を考える。</p>											
【到達目標】											
中国史研究の最新の知見、および史料の批判的分析の方法論を習得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目を逐次論ずる。											
第1回 「中華帝国」の推移											
第2回 「中華帝国」起源論としての先秦史											
第3回 龍山期・二里头文化：国家の形成											
第4回 夏王朝											
第5回 殷前期・中期											
第6回 殷後期											
第7回 西周前期：周王朝の建国											
第8回 西周中期・後期：周王朝の変容											
第9回 『春秋』											
第10回 『左伝』											
第11回 『繫年』											
第12回 東遷期											
第13回 春秋前期前半：鄭莊公の小覇											
第14回 春秋前期後半：齊桓公の覇権											
第15回 春秋中期：晋文公の覇者體制											
第16回 秦											
第17回 楚											
第18回 呉											
第19回 春秋後期：晋覇の動揺											
第20回 『史記』											
第21回 孔子											
第22回 『竹書紀年』											
第23回 戦国前期：魏文侯・魏武侯											
第24回 戦国中期：魏恵王											
第25回 孟子											
----- 系共通科目(東洋史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(東洋史学)(講義)(2)

- 第26回 戦国後期：秦の独走
第27回 華夷思想
第28回 秦始皇帝の天下統一
第29回 前漢前期の秦史認識
第30回 「封建」と「郡縣」：伝統中国における専制国家批判

*フィードバック方法は授業中に説明する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。

【教科書】

講義資料は担当者が準備する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系3

科目ナンバリング		U-LET25 26801 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西南アジア史学)(講義) West Asian History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム世界史研究入門 An Introduction to the Study of History of the Islamicate World									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、初学者向けにイスラーム世界史の研究に必要な基礎的な知識を説明する。勿論、アフリカ大陸から東南アジアに及ぶ広大なイスラーム世界の歴史すべてを、一人の教員でカバーすることなど出来ない。従って、授業の内容は、イスラーム世界史の理解、研究に最低限必要な事項（たとえばイスラーム教の基本的な教義など）の説明に重点が置かれる。</p> <p>This course aims to explain students of such basic knowledge and skills required to engage in the research activity into history of the Islamicate world as essential teachings of Muslim religion, crucial events in its history, and so on.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界を理解するために最低限必要な専門的知識を獲得し、これにもとづきイスラーム世界の現状について自分自身の見解を持つことが出来る。 ・イスラーム世界史の研究に必要な基礎的知識を獲得し、自ら研究を開始することが出来る。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire necessary knowledge for understanding current picture of the contemporary Muslim world. (2) obtain essential knowledge required for the research activity into history of the Muslim world.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業で扱うトピック、および、各トピックに配当される目安となる授業時間は下記の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入：現代イスラーム世界の概観（2回） イスラーム世界の範囲、人口、ヨーロッパのムスリムなど ・イスラーム教の基礎知識（2回） コーランとハディース、および、その日本語訳書の紹介など ・イスラーム世界史の概観（12回） イスラーム教の成立、イスラーム世界の拡大過程、シーア派とスンナ派の形成、19世紀までのイスラーム世界など ・イスラーム法（3回） イスラーム法と法学派の形成、近代におけるイスラーム法の法典化など ・イスラーム世界史研究入門（3回） 各種工具書の紹介、研究対象となる時代・地域別に必要な言語、辞書、歴史資料の類型など ・ワクフ（2回） ワクフ制度の説明、ワクフ文書の実例紹介など ・知識の伝達（2回） 口承の重要性、マドラサとそのカリキュラムなど ・スーフィズム（2回） 「スーフィズム（イスラーム神秘主義）」の概要、歴史研究におけるスーフィズムなど ・イスラーム法廷（2回） 											
----- 系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(2)

「法廷文書」とその類型、法廷の役割、裁判のながれ、「法廷文書」の歴史資料としての可能性など

- Contour of the contemporary Islamic world (2 weeks)
- Basic teachings of the Muslim religion (2 weeks): al-Quran and Hadith (the traditions about the words and deeds of Prophet Muhammad)
- Brief explanation of history of the Muslim world (12 weeks)
- Islamic law (3 weeks)
- How to embark on the research into history of the Islamicate world? - dictionaries, tools, and typology of historical sources (3 weeks)
- Waqf (pious donation) (2 weeks)
- The way of transmitting knowledge in the pre-modern Islamicate world - the curriculum of madrasa (2 weeks)
- Sufism in history (2 weeks)
- Sharia court documents (2 weeks)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験（筆記）により評価する。

Final exam

【教科書】

使用しない

担当教員が作成するレジユメを教科書とする。尚、レジユメは紙媒体では配布せず、PDFファイルを配布する。ファイルの受信方法については、初回授業時に説明する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

初回授業を除き、必ず前回の授業内容を復習したうえで授業に臨むこと。また、前回の授業で参考書、関連URL等が提示された場合は、予めこれに目を通したうえで次回の授業に臨むこと。

Students should review class notes before attending each lesson.

系共通科目(西南アジア史学)(講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系4

科目ナンバリング		U-LET26 26901 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋史学)(講義) European History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋史学序説									
【授業の概要・目的】											
<p>授業全体のテーマ：ヨーロッパ史学史にみる歴史への接近法 過去は変えられない。しかし、歴史は変わる。歴史とは、過去の見方である。すなわち、歴史を学ぶとは、単に重要な過去の事実を幅広く記憶するというだけではなく、多分に、過去の見方の多様性や変遷を知ることにはかならない。そして、さまざまな見方に触れるほどに、現在や未来の諸課題にも、柔軟性をもって取り組むことができるであろう。そこで本講義では、近代歴史学の基礎をなし、現在もなお世界の歴史研究にとって重要なインスピレーションの源となっているヨーロッパの歴史叙述の歴史を概観する。それによって、けっして時代遅れでも有効期限切れでもない、しかも、互いに相いれないがいずれも説得的でもあるような、多彩な過去の見方を紹介し、歴史学的思考を深める素材を提供することを目的とする。そして、「西洋史学」の由来や現状や意義を解説する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・古代から現代にいたるヨーロッパ史の展開を把握し、各時代の全般的な状況について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識や歴史叙述の歴史についての基本的な知識を習得し、それぞれの時代の特徴について理解する。 ・ヨーロッパにおける歴史認識の特徴についての理解を深め、「西洋史学」という学問分野の歴史的特質と今日的課題について各自の関心に即して考察する。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなテーマをとりあげる予定。</p> <p>第1回 過去とは何か / 歴史叙述とは何か / 「西洋史学」とは何か 第2回 古代ギリシアと歴史の誕生 第3回～第4回 古代ローマの歴史叙述 第5回～第6回 中世ヨーロッパにおける歴史叙述 第7回 ルネサンスと歴史叙述 第8回 宗教改革の時代における歴史叙述 第9回 啓蒙の時代の歴史叙述 第10回～第11回 近代歴史学の誕生 ランケとブルクハルト 第12回～第13回 ヘーゲル・マルクス・ヴェーバー 第14回 歴史主義への反発 第15回 前期の授業内容をふまえた総括 (以上、前期) 第16回 論争する現代歴史学 第17回～第18回 アナール学派(第一世代) 第19回～第20回 アナール学派(第二世代) 第21回～第22回 アナール学派(第三世代)</p>											
----- 系共通科目(西洋史学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋史学)(講義)(2)

- 第23回～第24回 アナール学派（第四世代）
第25回 17世紀危機論争
第26回 「西洋の勃興」をめぐる論争
第27回 ジェンダーをめぐる論争
第28回 時代区分をめぐる論争
第29回 感情をめぐる論争

フィードバックについては授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

前期と後期に各1回、レポートの提出を求める。成績の評価は提出されたレポートにもとづいて行う。

授業でとりあげた文献のなかから各受講生が1ないし複数の文献を選択し、その内容について論述することをレポート課題の内容とする。レポートの評価にあたっては、文献の読解の正確さ、ヨーロッパ世界における歴史認識の特徴にかんする理解度、文章表現や論理構成の適切さなどを総合的に評価する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編 『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』（京都大学学術出版会、2010年）ISBN:978-4-87698-948-5（京都大学における西洋史学研究・教育への導入解説をおこなっており、本講義全体を通じて参考となるであろう。）

金澤周作監修 『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房、2020年）ISBN:978-4-62308-779-2

上記の本以外の参考文献については、テーマに応じて、授業中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業のなかで、関連する文献のリストを提示する予定である。受講者には、各自の関心にしたがってリストから文献を選び、読み進めていくことを期待する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)へ続く

系共通科目(西洋史学)(講義)(3)

オフィスの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系5

科目ナンバリング		U-LET27 17003 LJ38									
授業科目名 <英訳>		先史学（講義） Prehistoric Archaeology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		先史学概説									
【授業の概要・目的】											
本講義では、先史学についての基本的な概念・方法論を学ぶ（前期）。その上で、日本列島における先史考古学の認識の変遷と、旧石器時代・縄文時代の概説をおこなう（後期）。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 先史学の基本的な概念や方法論について理解できるようになる。 旧石器時代・縄文時代の日本列島における考古資料とその歴史的意義についての基本的な知識を身につける。 											
【授業計画と内容】											
概ね以下のような順序で講義を進める。											
（前期）											
第1回 ガイダンス											
第2回 先史学とは何か											
第3回 考古資料とその特質											
第4回 型式論											
第5回 層位論											
第6回 年代決定論（1）											
第7回 年代決定論（2）											
第8回 考古学と文化（1）											
第9回 考古学と文化（2）											
第10回 機能論											
第11回 先史学と環境（1）											
第12回 先史学と環境（2）											
第13回 先史学と環境（3）											
第14・15回 現代社会と先史学											
（後期）											
第1回 縄文文化・弥生文化の「発見」											
第2回 縄文土器・弥生土器編年の確立とその評価											
第3回 日本における旧石器時代の発見											
第4回 旧石器時代の環境と編年の大枠											
第5回 旧石器文化の編年と生活											
第6回 縄文時代のはじまり											
第7回 縄文時代の生業											
第8回 縄文文化の展開（1）											
第9回 縄文文化の展開（2）											
第10回 東アジア世界からみた縄文文化											
第11回 縄文文化の評価											
----- 先史学（講義）(2)へ続く -----											

先史学（講義）(2)

- 第12回 縄文から弥生へ（1）
第13回 縄文から弥生へ（2）
第14回 縄文から弥生へ（3）
第15回 総復習

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（小レポートなど）約30%
学年末試験 約70%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

講義内容について関心をもった内容については、参考文献などをもとにさらに理解を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系6

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上島 享			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世仏教の展開と転換									
【授業の概要・目的】											
<p>【授業の概要】 日本中世史研究を歩みを振り返り、研究の現状と課題を確認し、中世という時代全般を概観する。その上で、中世仏教の社会的浸透とその転換について考察する。</p> <p>【授業の目的】 講義の目的は、自説を展開できる論文が書ける能力を受講生が獲得することである。そのために必要な批判力や論理構成力の涵養を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>授業で示された具体的な研究事例を学び、その内容を批判的に検証することで、卒業論文執筆に必要な能力が修得できるようになる。つまり、歴史学の基礎をなす実証の方法、先行学説に対する向き合い方、自説を論理的に構成する能力などを獲得することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 日本中世史研究の歩み 第2回 日本中世史研究の歩み 第3回 時期区分論の現状と課題 第4回 中世600年を考える 第5回 中世社会の転換 蒙古襲来の歴史的意義 第6回 僧侶の活動と権門寺院 勧進と聖 第7回 僧侶の活動と権門寺院 修正会・田遊び・勧農 第8回 平泉の寺院と法会 第9回 中世熊野信仰の形成 第10回 金峯山信仰史の研究 第11回 蒙古襲来と神仏 第12回 蒙古襲来と神仏 第13回 権門体制の弛緩 六勝寺の解体と本末関係の衰退 第14回 権門体制の弛緩 祈祷と寺社 第15回 中世仏教の転換</p> <p>自身の研究の進捗状況により、上記の内容を変更することがある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末のレポート(50%)と授業のさいに実施予定の小レポート(50%)。 レポートにおいて、自らの見解を論理的あるいは実証的に論じているのかを評価基</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

準とする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

上島 享 『日本中世社会の形成と王権』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0635-4
その他については、適宜、授業で指示をする。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・事前に配布する史資料を読んだ上で、授業にのぞむこと。
- ・授業終了後は、授業内容を批判的に検討すること。

(その他(オフィスアワー等))

- ・質問などがあれば、メールにて連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系7

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世武家社会研究									
【授業の概要・目的】											
<p>近年の日本近世史研究は、史料批判をしつつ、一次史料にもとづいて政治過程を描き出す手法が求められる段階に到達している。従来の通説的理解を一次史料を駆使して塗り替えつつ、新たな方法論と論点を獲得する過程を示すことで、日本近世史研究の基礎的方法と面白さを示したい。</p> <p>担当者は、主に武家文書（書状・日記・法令などの一次史料と編纂史料などの二次史料）を用いて、近世前期の政治史を研究している。特に、大名家の政治構造や幕藩関係に着目しつつ、近世国家が如何なる過程を経て形成され、その結果として如何なる構造・特質を有することになったのかを中長期的に考えているところである。</p> <p>今年度は、近世初頭の武家の世代差という観点を念頭に、蜂須賀正勝・家政関係文書の分析をおこなう。</p> <p>授業では、具体的な史料を示し、その解釈を説明しながら論じていくことになる。知識ではなく、授業を通して示される研究手法をこそ学んでもらいたい。</p>											
【到達目標】											
<p>近世の史料、特に前期の政治史・武家社会に関する史料を読み解くための基礎的能力を獲得する。期末には、自分なりに、個別の史料をとりあげて読み込み、日本史学の方法論に基づいてレポートを作成できるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下に示したテーマ・回数・順番については固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況、また、担当者の研究進展状況や学界動向に伴い、変更がありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 近世国家形成過程をどう捉えるか 【2週】 2. 近世大名の文書【2週】 3. 蜂須賀正勝関係文書の分析【4週】 4. 蜂須賀家政関係文書の分析【6週】 5. まとめと総括【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポートで評価する											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献を読むほか、自分で史料をとりあげて分析し、レポートを作成する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系8

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 谷川 穰			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代日本社会史の研究 豚を中心に									
【授業の概要・目的】											
近代日本社会の形成・展開の一様相を論じる。中心課題となるのは、主として明治期の「豚」である。とはいえ、豚をめぐる歴史トリビア・こぼれ話を羅列的に開陳するものでは決してない。明治初年の養豚結社やその思想、受容した人々の動きを解き明かすとともに、それを起点に政治・文化・環境・軍事・貧困・宗教などさまざまな論点につらなる近代日本の見方を、歴史学の立場から講じる。											
【到達目標】											
近代日本社会の形成・変容の歴史に対する理解を深め、視野を広げられるようになる。また多様な史料（未刊行の手稿史料も含む）を用いて実証的に論じる歴史学の手法を習得するとともに、歴史研究の対象と自己との関係がいかにあるべきかを、重層的に考えられるようになる。さらに、講義内容を批判的に再考することで、自らの問題意識を反映した論文作成の基礎能力を得ることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回はイントロダクション、最終回（15回目）は「まとめ」。以下のトピックを受講生の理解度も勘案しつつ各1～2回講じる予定。 <ul style="list-style-type: none"> ・幕末までの豚と社会 ・養豚結社・協救社の成立 ・『協救社衍義草稿』の国益論と「文明開化」 ・ある養豚事業の行方 京都・両替商荒木家の場合 ・ある養豚事業の行方 東京・米屋田中家の場合 ・近代学知のなかの豚 畜産学と養豚手引書 ・豚をめぐる国際関係史 「豚コレラ」と豚（肉）貿易 ・養豚奨励法の成立とその政治史的意義 ・戦争と豚肉 ・豚肉食の定着と養豚の「記憶」 											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

期末のレポート(70%)と授業中に実施予定の小レポート(30%)で総合的に判断する。レポートにおいては、自らの見解を論理的、ないし歴史学的手法に即して実証的に論じることができているかを評価基準とする。

[教科書]

授業に際してはハンドアウト・史料プリントを配布する予定である。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講生が各自の興味関心にしながら独力で考え実践する。ただし授業において参考文献も示すので、適宜それを読み、自らの考えを深めるようとしてもらえればと思う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系9

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 笹川 尚紀			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代氏族の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>ヤマト王権の形成をめぐることは、古代氏族の役割を軽視することができない。なかでも、ヤマト王権の最高執政官たる大臣と大連を輩出した蘇我臣と物部連の動向を跡づけることは、その点を明らかにするうえで、すこぶる重要であるといえる。よって、本講義においては、両氏にかかわる事柄の分析を中心にして、ヤマト王権の発展過程について、私見を開陳していく。</p> <p>また、そういう課題を検討するに際しては、『古事記』と『日本書紀』を用いる必要が存する。けれども、それらの内容に対しては、事実に基づくものなのか、史料批判が不可欠になるといえる。このような点をはっきりさせるために、両書の成立や性格などについても、とかく考察を加えていく所存である。</p>											
【到達目標】											
日本古代史に関する基本的事項と研究方法を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 『古事記』と『日本書紀』(1)</p> <p>第3回 『古事記』と『日本書紀』(2)</p> <p>第4回 『日本書紀』の伝来と諸写本</p> <p>第5回 天皇の实在性</p> <p>第6回 氏と姓</p> <p>第7回 饒速日命・伊香色雄</p> <p>第8回 建内宿禰</p> <p>第9回 物部連目</p> <p>第10回 物部連麿鹿火</p> <p>第11回 蘇我臣の発祥地</p> <p>第12回 蘇我臣稻目</p> <p>第13回 物部連守屋</p> <p>第14回 蘇我臣馬子</p> <p>第15回 蘇我臣蝦夷・入鹿</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末レポートの内容によって評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点（100点満点）の絶対評価で評点する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献や配付資料に基づき、講義内容の理解を深める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系10

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 吉江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究 東大寺別当の成立									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、東大寺別当の成立に焦点をあてながら、宮廷社会の変質と寺院組織の変容との関係性について検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、東大寺別当の成立に焦点をあてながら、宮廷社会の変質と寺院組織の変容との関係性について検討する。まずは平安時代前期に登場する寺院別当制を概観し、寺院組織の変容に関する全体像を把握する。次いで、東大寺別当が成立する以前の東大寺の組織運営を整理し、それを踏まえて東大寺別当の成立時期とその意義について考察する。最後に、平安時代の東大寺が果たした役割を、宮廷社会の様相と関連づけながら検討する。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
イントロダクション(第1回)											
1 問題の所在 寺院別当制の成立意義 (第2回~第4回)											
2 奈良時代後半期における東大寺(第5回~第7回)											
3 造東大寺司の停廃と東大寺別当の成立(第8回~第10回)											
4 平安時代の東大寺と宮廷社会(第11回~第13回)											
総括(第14回)											
《期末試験》											
フィードバック(第15回)											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト（10点×2回）と学期末に課す期末レポート（80点）の合計素点（100点満点）で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系11

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 吉江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代宮廷社会の研究 四天王寺縁起にみる聖徳太子信仰									
【授業の概要・目的】											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、四天王寺縁起の記述内容に焦点をあてながら、宮廷社会における聖徳太子信仰の展開について検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、四天王寺縁起の記述内容に焦点をあてながら、宮廷社会における聖徳太子信仰の展開について検討する。まずは四天王寺縁起の出現と伝来に関する先行研究を概観し、問題意識を明確にする。次いで、四天王寺縁起の成立時期と構成を考察し、特に資財帳部分に関して、その記述内容を検討する。最後に、聖徳太子信仰の展開と宮廷社会との関係性を、四天王寺や法隆寺など聖徳太子関連寺院の動向から考える。 授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。											
イントロダクション（第1回）											
1 問題の所在 四天王寺縁起の出現と伝来（第2回～第4回）											
2 四天王寺縁起の成立時期と構成（第5回～第7回）											
3 資財帳としての四天王寺縁起（第8回～第10回）											
4 聖徳太子信仰の展開と宮廷社会（第11回～第13回）											
総括（第14回）											
《期末試験》											
フィードバック（第15回）											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識があることが望ましい。											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト(10点×2回)と学期末に課す期末レポート(80点)の合計素点(100点満点)で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業は講義形式で行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系12

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世の荘園と村落									
【授業の概要・目的】											
今期は、近江国の荘園と村落を題材に、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
日本中世の荘園と村落に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。											
第1回 荘園研究と現況調査											
第2回 荘園類型と立荘論											
第3回 近江国木津荘の引田帳と検注帳											
第4回 近江国木津荘域の条里プラン											
第5回 応永年間の木津荘と地殻変動											
第6回 古代の港木津と北陸道											
第7回 「記憶」の「記録」を作る(1)											
第8回 「記憶」の「記録」を作る(2)											
第9回 景観復元の試み(1)											
第10回 景観復元の試み(2)											
第11回 景観復元の試み(3)											
第12回 景観復元の試み(4)											
第13回 比叡荘・高島荘・木津荘											
第14回 近江国高島郡の荘園公領											
第15回 学習到達度の評価											
【履修要件】											
日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末に到達目標に即したレポート課題を提示し、その内容で成績評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも必ず目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系13

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 熊谷 隆之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鎌倉幕府政治史研究の可能性									
【授業の概要・目的】											
<p>今期は、鎌倉幕府政治史を題材に、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>鎌倉幕府の政治史に関する認識を深めるとともに、歴史の転換期としての当該期の意義とその分析方法を理解する。 また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。</p> <p>第1回 中世都市鎌倉の黎明 第2回 『吾妻鏡』をいかに扱うか 第3回 「古文書」をいかに扱うか 第4回 「系図」をいかに扱うか 第5回 「得宗専制論」の明と暗 第6回 「公権委譲論」の真と偽 第7回 守護研究の現在(1) 第8回 守護研究の現在(2) 第9回 守護研究の現在(3) 第10回 守護研究の現在(4) 第11回 室町幕府研究への影響 第12回 鎌倉幕府末期政治史研究(1) 第13回 鎌倉幕府末期政治史研究(2) 第14回 鎌倉幕府末期政治史研究(3) 第15回 学習到達度の評価</p>											
【履修要件】											
<p>日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末に到達目標に即したレポート課題を提示し、その内容で成績評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

前もってプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系14

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		17世紀近世社会論									
[授業の概要・目的]											
17世紀とはどのような社会であったのか。石見銀山を支配するために配置された幕領を対象に、中世社会が変容しながら近世社会が形成されていく過程について、幕領支配の変遷を中心に考えていく。授業は講義形式であるが、史料を読み込みという歴史学にとって必要な基礎的力を習得することを目的とする。そのため受講生は事前に配布する史料を読み込んで授業に臨むという姿勢が必要である。											
[到達目標]											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
1, 石見銀山と銀山附幕領の成立(2回) 2, 奉行による支配(3回) 3, 代官による支配(3回) 4, 地役人(3回) 5, 山野河海を支配する(3回) 6, まとめと総括(1回) * なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。											
[履修要件]											
一定の漢文読解力を必要とする。											
[成績評価の方法・観点]											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する史料の精読。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系15

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岩城 卓二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鉱山社会論									
【授業の概要・目的】											
日本近世において銀銅は日本の主要な輸出品であり、全国各地で銀山・銅山が開発された。銀山・銅山には採鉱・精錬を担う多くの人々が暮らしていたが、史料の制約から鉱山社会の実態はよくわかっていない。そこで本講義では、石見銀山附幕領内に所在した笹ヶ谷銅山を事例に、鉱山ではどのような社会が形成されていたのかについて講義し、日本の近世社会の諸相について考えていく。授業は事前に配布した史料を読み込みながら進めていく。											
【到達目標】											
近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
1 , 日本近世の鉱山(2回) 2 , 石見国笹ヶ谷銅山の開発(2回) 3 , 銅山師身分の制立(2回) 4 , 山内労働者(4回) 5 , 山内の改革(4回) 6 , まとめ(1回) * なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。 フィードバックの方法は別途連絡。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業の理解度を確かめる期末レポート											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業中指示する文献の精読、史料解釈											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系16

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合博物館 教授 岩崎 奈緒子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世後期の対外認識 10									
[授業の概要・目的]											
司馬江漢の著述を素材として、江漢の天文学と世界認識の特質を考究する。											
[到達目標]											
近世後期の世界認識の特質を学び、近代への移行を内在的に考察できる視角を得る。											
[授業計画と内容]											
以下の各項目について講述する。各項目には、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究史と本講義の視座【2週】 2. 司馬江漢について【2週】 「独笑妄言」・「春波楼筆記」から 3. 司馬江漢の天文学 「刻白爾天文図解」【2週】 「地転儀略図解」「地転儀示蒙」【3週】 4. 司馬江漢の地理学 輿地略説【2週】 地球全図略説【3週】 5. フィードバック【1週】 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に予習・復習すべきポイントを指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系17

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		物語と文化財、そして美術									
【授業の概要・目的】											
<p>近世から近代へと移行する中で、神話や物語は再編され、名所・旧跡は文化財として新たに価値づけられた。そのなかでも神武創業や南朝正統論などは典型であるが、その他、前近代に源平の戦いの表象にあった宇治には20世紀に国風文化の貴族や「源氏物語」の女性のイメージが付与された。近代天皇制が形成される中で、天皇陵や御物など「万世一系」を視覚化し、国民道徳をあらわす史蹟が生み出された。南画家の富岡鉄斎は明治維新から大正期まで文人として生きるが、彼の絵画は天皇崇敬の国民道徳を視覚化するものであった。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「物語と文化財、そして美術」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語と文化財 ・ 「歴史まちづくり法」と宇治 ・ 「歴史まちづくり法」と向日町 ・ 世界遺産と百舌鳥・古市古墳群 ・ 大山古墳と「仁徳天皇陵古墳」の名称 ・ 神武天皇陵の近現代 ・ 名教的文化財 ・ 南朝史蹟 ・ 赤穂浪士と旧跡 ・ 天皇陵の明治維新 ・ 「万世一系の神話」と天皇陵 ・ 「万世一系の神話」と御物 ・ 富岡鉄斎と明治維新 ・ 鉄斎が描いた南朝史蹟 ・ 鉄斎が描いた天皇行幸 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

高木博志ほか『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

高木博志『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

【授業外学修（予習・復習）等】

「物語と文化財、そして美術」に関わる巡見を希望者で行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系18

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		京都らしさと文化、社会を描く美術									
【授業の概要・目的】											
<p>日露戦後の20世紀には社会問題が浮上し、庶民の生活や労働を描こうとする画家たちが現れる。京都では第二高等女学校で教えながら貧困の中、市井の庶民を描いた千種掃雲、その弟子で花街の雇仲居や遊女を題材とした梶原緋佐子、奈落の吉原遊女に向き合った秦テルヲなど、京都画壇の周縁の新しい動向を取り上げる。同じように京都の花街・遊廓の買春の現実に向き合った竹久夢二・野長瀬晩花も考える。また大正期の民芸運動は、明治以来の古社寺保存法などで政府が困り込んだファイン・アートからはこぼれ落ちたものに光をあてた。柳宗悦・河井寛次郎・寿岳文章らの営みを紹介したい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「京都らしさと文化、社会を描く美術」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日露戦後の社会 ・ 第一次世界大戦後の大衆社会 ・ 社会を描く ・ 京都と遊廓・花街 ・ 「千種掃雲日記」を読む ・ 梶原緋佐子が描く社会 ・ 秦テルヲと花街・遊廓 ・ 国画創作協会の若き才能 ・ 鴨東カルチェラタン ・ 京都と舞妓表象 ・ 大正期の祇園もの、南蛮憧憬 ・ 柳宗悦と民芸運動 ・ 寿岳文章と『紙漉村旅日記』 ・ 芹沢銈介と染織工芸 ・ 河井寛次郎 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

高木博志ほか 『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

【授業外学修（予習・復習）等】

「京都らしさと文化、社会を描く美術」に関わる巡見を希望者で行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系19

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 西山 伸			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「京都大学百二十五年史」を読む 1									
【授業の概要・目的】											
1897年に創立された京都大学は、2022年に創立百二十五周年を迎えた。その間、1947年までは京都帝国大学、2004年までは京都大学、以後は国立大学法人京都大学と位置づけを変化させながら研究教育活動を行ってきた。その軌跡を一次資料に基づいて考察することによって、近現代日本史・高等教育史のなかで京都大学がいかなる存在であったのかを検証することを本講義の目的とする。今年度は、創立から敗戦までを対象とする。											
【到達目標】											
近代日本における高等教育の概要を把握し、一次資料に基づいて京都大学の歴史を理解する。合わせて日本近代史史料を読み込む能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 京都帝国大学の創立 3 大学像の模索 4 「大学自治」をめぐる 5 大正期の高等教育改革と諸制度の整備 6 学生の諸相 7 社会運動の展開 8 滝川事件(1) 9 滝川事件(2) 10 戦時下の諸動向(1) 11 戦時下の諸動向(2) 12 兵役と学生 13 戦争末期の状況 14 敗戦 15 まとめ(フィードバック) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の授業終了時に提出するコメントとレポート試験により評価する。その割合はコメント30%、レポート70%とする。											
【教科書】											
使用しない											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

京都大学百二十五年史編集委員会編 『京都大学百二十五年史』（京都大学学術出版会、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で提示する参考文献、一次資料の典拠などを各自調べること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系20

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		歴史研究事始									
【授業の概要・目的】											
<p>概要：講師の専門（近現代日本の社会運動史、社会思想史、史学史）に基づく、歴史研究の導入教育。</p> <p>目的：講師が歴史研究のプロセスを受講者に開示する。歴史研究における問題意識・目的・方法などを受講者が批判的に検討することで、自身の歴史研究や社会認識の糧にしてもらうことが本講義の目的である。なお、本講義は必ずしも他分野の歴史研究の参考となるわけではないことをご理解いただきたい。</p>											
【到達目標】											
歴史研究の意義を理解し、その目的・方法を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 テーマ設定、先行研究の整理と分析 3 施設見学と資料調査1 4 施設見学と資料調査2 5 施設見学と資料調査3 6 施設見学と資料調査4 7 その他の資料調査（古書、聴き取り） 8 収集資料の整理・保存と研究活用 9 資料の読解1 10 資料の読解2 11 資料の読解3 12 歴史を叙述する1 13 歴史を叙述する2 14 歴史を叙述する3 15 まとめ <p>なお、COVID19の状況や授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。</p>											
【履修要件】											
必須ではないが、歴史研究に従事する意志があればありがたい。受講者の人数によっては別途選抜につき検討する。											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート(40点)と期末レポート(40点)、平常点(20点)等により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系21

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学研究科 教授 市 大樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジアのなかの日本古代宮都									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代史の史料は限られているが、発掘調査を通じて、新たな知見が次々と明らかにされつつある。本講義では、既存の文献史料に加え、新たな考古資料も積極的に活用しながら、飛鳥時代（6世紀末～8世紀初頭）を中心に宮都の展開過程を跡づけ、日本古代国家の形成過程に迫ってみたい。その際、日本古代史を一国史にとどめるのではなく、東アジア史の文脈のなかに位置づけるように注意したい。</p>											
【到達目標】											
<p>資料の取り扱い方法を習得する。日本古代史の主要な論点を理解する。東アジア史の文脈で、日本古代史像をイメージできるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記のように講義を進める予定である。ただし、受講者の理解状況に応じて詳しく説明したり、新たな知見を紹介することなどもあるため、各テーマの内容などについては柔軟に考えることにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、イントロダクション 古代宮都の概観 2、遣隋使の派遣と小墾田宮 3、飛鳥岡本宮から百濟宮へ 4、7世紀中葉の東アジア情勢と百濟大寺 5、難波諸宮の展開 6、大化改新と難波宮 7、白村江の戦い前後の王宮 8、飛鳥浄御原宮と関連施設 9、複都構想と東アジアの都城 10、藤原京の誕生 11、大宝律令の施行と藤原京 12、平城京遷都の歴史的意義 13、日唐王宮の空間構成 14、門からみた日本古代王宮の特質・展開 15、授業全体のまとめ 											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末のレポート（70％）と授業中に実施予定の小レポート（30％）で総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する
プリントを配布して授業をおこなう。

[参考書等]

（参考書）

川尻秋生他 『シリーズ古代史をひらく 古代の都』（岩波書店，2019年）ISBN:9784000284967
市大樹 『飛鳥の木簡』（中央公論新社，2012年）ISBN:9784121021687C1221
必要に応じて授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で言及した参考文献を図書館などで見てみる。飛鳥などの遺跡を訪れてみる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系22

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀大学 教育学部 教授 宇佐見 隆之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		在地に残された史料からみた中世の社会									
【授業の概要・目的】											
<p>日本史を学ぶ基礎として、歴史学が史資料によって形作られていることへの理解を目指す。原則対面授業を行う予定であるが、感染症の状況によってオンライン講義になる可能性があるので留意すること。</p> <p>日本史の古代・中世で扱う史料の多くは、寺社や公家、武家に残された史料である。中世の古代との違いは、そのような支配者側に残された史料だけでなく、在地の史料が残されていることである。これらを読み解くことにより政治、制度だけではわからない、人々の生活や営みに触れることができる。そして中世の根底にある荘園制を理解することにもつながり、近世への連続性を知ることができる。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 的確な史料解釈の方法を学び、応用することができる。 2 史料をもとにした歴史叙述ができる。 3 中世の社会経済・生活について理解し、説明することができる。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、イントロダクション【1～2週】 扱う史料の例示、中世という時代とは 2、若狭の史料と鎌倉時代の村々【3～5週】 秦文書、若狭国惣田数帳 3、近江の史料と室町時代の村々【6～9週】 国宝菅浦文書、大嶋奥津嶋神社文書、今堀日吉神社文書 4、村と都市を結ぶもの【10～13週】 商業、流通、戦国大名 5、まとめ、近世への展望【14週】 6 フィードバック【15週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末のレポート8割とする（人数が多い場合試験になることがある）。</p> <p>必要に応じて小レポート課し、2割の平常点とする予定。</p>											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
必要な文献は授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

2単位の科目に応じた予習、復習を行うこと。プリントで配布する史料は、全部とはいわないが大体の大意をつかむことが出来るように復習すること。また参考文献を読み、史料から歴史記述への間の作業を理解すること。

(その他(オフィスアワー等))

初回授業時にメールアドレスを示すので、それで連絡すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系23

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学 史料編纂所 准教授 藤原 重雄			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本中世絵画史料論									
【授業の概要・目的】											
<p>前近代日本史研究の基礎に、文書・記録等の文献史料の読解があることは疑いない。一方、過去の人々の営み全体を対象とする歴史学にとって、文献の精緻な読み解きそれ自体は方法であり目的とはいえ、多様な素材を対象に取り込んで、豊かな歴史の諸相を照らし出すこともまた課題である。</p> <p>本講義では、主に12～16世紀の絵画作品から異なるジャンルの事例を取り上げ、絵画としての特性を踏まえた上で、歴史史料としてどのような分析が可能なのか、これまでの研究の蓄積を紹介しながら、新しい課題にも取り組みたい。日本中世史に関する専門的な講義であるが、視覚的な情報の領域・比重が高まる現代社会においても共通する論点のあることを意識する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・日本中世史研究における史料論の現状を理解する。 ・史料批判を基礎とした歴史学の方法について理解する。 ・視覚的イメージを批判的に捉える態度を習得する。 ・図書館・博物館・美術館およびデジタル的な学術環境について、現状を把握し将来像を展望する。 											
【授業計画と内容】											
<p>下記のジャンルから、実際に展示で作品を見る機会がある、現地を各自で見学することが可能な事例などを優先して扱う予定。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2・3回 絵巻物と『常民生活絵引』 第4・5回 肖像画 第6・7回 宮曼荼羅・荘園絵図 第8・9回 掛幅縁起絵と説話・地理 第10・11回 参詣曼荼羅 第12・13回 洛中洛外図屏風 第14回 好古図譜『聆涛閣集古帖』とデジタル公開 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

・レポート。到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

教科書は使用しない。講義にあたってはプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

黒田日出男 『増補 姿としぐさの中世史』 (平凡社ライブラリー、2002年) ISBN:4582764452 (「**画像の歴史学**」を収録)

石上英一編 『日本の時代史 30』 (吉川弘文館、2004年) ISBN:4642008306 (藤原「**中世絵画と歴史学**」を収録)

藤原重雄 『史料としての猫絵』 (山川出版社、2014年) ISBN:9784634546912

ピーター・バーク (諸川春樹訳) 『時代の目撃者 資料としての視覚イメージを利用した歴史研究』 (中央公論美術出版、2007年) ISBN:9784805505489

吉田ゆり子・八尾師誠・千葉敏之編 『画像史料論 世界史の読み方』 (東京外国語大学出版会、2014年) ISBN:9784904575321

個別には講義にて紹介する。

(関連URL)

<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fujiwara/lecture.html>(過去の講義の参考文献などを掲載しています。)

[授業外学修(予習・復習)等]

・短期間の集中講義ですので、参考書の上2件に事前に目を通して頂くと、理解がしやすいかと思います。

・キャンパスメンバーズの権利を行使して、京都国立博物館・奈良国立博物館で平常展(絵画は定期的に展示替えをしており、観覧無料です)を見る習慣を身につけて下さい。

(その他(オフィスアワー等))

集中講義のため、オフィスアワーは特に設けないので、質問等は各回の授業後に行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系24

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都先端科学大学 人文学部 教授 鍛治 宏介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		江戸時代の京都									
【授業の概要・目的】											
江戸時代は文字通り、「江戸」が政治、経済、文化の中心として栄えた時代ですが、京都は、天皇の住む都、各藩が呉服を購入するため藩邸をおいた産業都市、寺の本山が集まる宗教都市、学者たちが集まる学術都市、芸術活動や出版業が盛んな文化都市、観光客が多く集う観光都市として栄えていました。この授業では、江戸時代における京都の歴史を、丸竹夷の通り名歌、水戸黄門、生類憐れみ令、天皇陵、遊所祇園、さまざまなトピックをとりあげながらみていきます。											
【到達目標】											
講義を通じて、江戸時代の特色を把握すること、多角的に収集した史料を読解して時代を読み解いていく歴史学の手法を理解すること、また毎回の講義で紹介する史料のなかに広がる豊かな世界を知ることが講義の主たる目標とします。またインターネットや図書館や博物館で、史料を探す手法も身につけてください。専攻とする分野が異なる人、興味のあるテーマが異なる人も、本講義を自らの研究の刺激として、自らの研究に取り組んでください。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の内容について講義します。ただし講義の進捗状況等により、順序や講義回数を変更することがあります。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス この授業の概要とレポートについて 2 京都通り名歌の歴史 3 生類憐れみの令と京都の捨て子 4 水戸黄門と京都のお公家さん 5 重要文化財「大日本史編纂記録」を分解する 6 江戸時代の武士と文化都市京都 7 うんちの歴史 8 朝廷官位と年齢詐称 9 天皇陵の管理と修復 10 蚕の社と西陣 11 京都で暮らす女性たち 12 祇園遊所と一生不通養子娘 13 祇園遊所と幕府の政策 14 祇園遊所で遊ぶ人々 15 幕末京都と新選組 											
----- 日本史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中の発言・コメント紙回答30% レポート70%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

学期末のレポートが、一定以上の水準のものになるように、各自、興味をもった内容について、図書館やネットで、学術書や論文、史料を読んで、準備をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

毎回の講義冒頭で前回の授業にだされたコメント用紙について20分ほどかけて回答を行う。面白い質問がでた場合、講義予定を変更して、その回答で一回分を費やす場合もある。毎回、振り返り20分、講義1時間、コメント記入10分を目安として授業を行う。なお質問のある方はこちらにお願いします(kaji.kosuke@kuas.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系25

科目ナンバリング		U-LET23 36631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪経済大学 経済学部 准教授 内山 一幸			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		武士の近代									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、担当者がこれまで執筆した論文を素材に、武士たちが近代日本においてどのような存在であったのかを考えていく。講義において毎回論文1篇ずつ解説を行う。論文執筆の際に、着眼点はどこにあったのか、具体的にどのような作業を行ったのか、論文発表時点での学界の反応はどうであったのか、単著にまとめる際にどのような修正を行ったのか、現在、その論文を自分自身がどう評価しているか、といった内容を話す。</p>											
【到達目標】											
<p>上記の講義内容を通じて、「武士の近代」というテーマを理解することに加えて、論文を書くための能力も養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 講義担当者の研究の概要 2 「旧藩主の家政と家令・家扶」(『日本歴史』699号、2006年) 3 「旧藩主家における意思決定と家憲」(『九州史学』146号、2006年) 4 「明治前期における旧藩主家と地域社会」(『日本歴史』723号、2008年) 5 「明治前期における大名華族の意識と行動」(『日本史研究』576号、2010年) 6 「明治十年代における旧藩主家と士族銀行」(『史学雑誌』124-1、2015年) 7 『明治期の旧藩主家と社会』(吉川弘文館、2015年)第2部第1章 8 同上、第3部第1章 9 同上、第3部第3章 10 「東京の中の旧藩」(『年報近現代史研究』8号、2016年) 11～15については、上記の講義での反応を見ながら、さらに論文の解説を行うのか、近年の研究動向の説明をするか判断する。 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点 40%</p> <p>期末レポート 60%</p>											
----- 日本史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
論文のコピーおよびレジュメを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)
内山一幸 『明治期の旧藩主家と社会』 (吉川弘文館、2015年)

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に論文のコピーないしPDFファイルを準備するが、講義で内容の紹介も行うため、事前に読まなくても授業を理解することもできなくはない。しかし、精読の上、講義に臨んだ方が理解度は高まると思われる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系26

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本古代史総合演習									
【授業の概要・目的】											
<p>日本古代史に関する基礎的素養を身につけるため、(1)『続日本紀』の精読、(2)基本論文の選読、の二つのことを毎週行なう。</p> <p>『続日本紀』は六国史の第二にあたり、文武元年(697)～延暦十年(791)の歴史を記した書物である。政治・社会・文化に関するさまざまな記事が立てられ、奈良時代史のみならず日本前近代史の基本史料と言ってよい。本演習では毎週、輪読形式でその精読を行なう。それとともに、毎週一本ずつ日本古代史の基本論文を選読する。</p>											
【到達目標】											
日本古代史に関する基礎的知識と史料読解能力を得る。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 日本古代史および『続日本紀』の概要を説明する。使用すべき辞書・工具書、および基本的な概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回：『続日本紀』の精読と基本論文の選読 『続日本紀』を天平十一年紀から精読し、内容について討論する。記事の内容と担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね『新訂増補国史大系』の半ページ程度を読み進めることになる。調査が十分でなかった部分については、補足調査を課す。これに加え、毎週一本ずつ日本古代史の基本論文を選読する。出席者は論文を入手し、800字の要約文を作成して提出する。授業では各論文の視角・方法や研究史的意義などを解説する。</p> <p>第30回：まとめ 史料精読・論文選読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について討論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(40点)と年度末レポート(60点)による。											
----- 日本史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

日本史学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

『新訂増補国史大系 続日本紀』（吉川弘文館）（前篇・後篇の2冊とも必ず購入すること）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・史料の次回読み進める部分を必ず読んでおく。
- ・論文を読み、800字要約を作成する。意見・質問を付加することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系27

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上島 享			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本中世史総合演習									
【授業の概要・目的】											
<p>日本中世史に関する基礎的知識と史料読解能力を身につけるため、 中世荘園史料の精読 基本論文の精読 を行う。</p> <p>では、丹波国大山荘の史料（『兵庫県史』所収）をとりあげ、一字一句を正確に解釈するとともに、その背景にある政治・社会・文化に関する基礎知識を身につけることを目的とする。</p> <p>では、最新の研究成果を含めて、日本中世史の重要論文を精選し、その論点を整理し、研究上の意義や課題について議論を行う。</p>											
【到達目標】											
日本中世史に関する基礎的知識と史料読解能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 丹波国大山荘およびその史料に関する概要を説明する。また、使用すべき辞書や参考書を紹介し、今後の授業の進め方と発表の方法を周知したうえで、受講生の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回 丹波国大山荘史料と基本論文の精読 毎回、数通の文書を精読する。担当者はレジュメを作成し、史料を解釈するとともに、当該史料が発給された政治・社会・文化的背景を考察する。また、基本論文の精読では、論文の要旨と問題点等を確認して、研究史の意義と今後の展望を明示する。授業では、担当者の発表にもとづき、参加者全員で議論を深めることとする。</p> <p>第30回 まとめ 史料・論文の精読の成果をまとめ、今後の課題を討論する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（40点）と年度末レポート（60点）による。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 日本史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

日本史学(演習Ⅰ)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・史料を精読し、解釈した上で、授業にのぞむこと。
- ・論文を熟読し、成果と課題を考察した上で、授業にのぞむこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系28

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習Ⅰ) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近世の史料(「池田光政日記」)を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>近世(概ね16世紀末~19世紀前半)の一般的な史料の読解方法と、史料から歴史を考察する方法や視点を学ぶ。具体的には、近世前期の大名である池田光政(備前岡山31.5万石)の記した日記を取り上げるが、近世の多くの史料に応用しうる視角と方法論を学ぶことになる。</p> <p>史料の文脈を把握し、登場人物や事項を調査し、当該時期の時代状況をふまえつつ、史料を正確に読解できるようにする。加えて、近世国家や社会のしくみについての基礎的理解を深める。なお、テキストは活字史料を用いるが、原文書との対照作業も合わせて行う。</p>											
【到達目標】											
<p>近世史料の読解、人物や地名、歴史用語などの調べ方についての基本的な技術を習得する。また、幕藩関係や藩の政治組織のあり方を中心に、近世国家・社会についての理解を深め、歴史分析の方法についてさまざまな示唆を得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回目 導入 史料の概要、報告の仕方、関連資料について説明する。</p> <p>第2回目~29回目 報告と討議 受講者が、あらかじめ担当部分を調べてきて報告し、討議する。</p> <p>第30回目 まとめ 成果をまとめ、残された課題や疑問点について確認する。</p> <p>初回の授業で担当を決め、予習方法などについて説明するので必ず出席すること。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(授業での分担部分の個人報告、討議への参加度、提出物、レポートを総合して評価)で評価する。											
----- 日本史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

日本史学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない

使用する史料は授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中、特に第1回目に詳しく説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系29

科目ナンバリング		U-LET23 36640 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習 I) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 谷川 穰			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		明治初期の建白書を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>大部の史料集『明治建白書集成』に収録されている、明治初期に政府へ提出された建白書を精読する。本演習では、単なる「教科書的政治史」にとうてい収まらないその多様な内容を読み解くことと、それに関わる発表を求める。それらをつうじて、近代日本社会の形成過程を考察・討議すること、その際史料を精緻に読むとともに関連史料の探索という基礎的技量を高めること、あくまで史料に基づく実証的な歴史研究の能力を涵養すること、などを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>史料を「読解」する能力（ただ字面を正確に読む、だけではない）を高めるとともに、関連する多様なレベルの史料や研究文献を積極的に探索する技量を身につける。直接に扱う対象は明治初期であるけれども、それを起点として展開する近代日本の諸問題を捉え展望することで、各自の問題意識を深められるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回はガイダンスと出席者の担当史料の決定。発表は単位取得の絶対条件であり、したがって担当箇所を決める初回の出席は必須となる。 第2回～第30回は各自の発表にあてる予定である。 なお出席者の状況を勘案し、発表の進め方を検討しなおしたり、新たな史料群の読解へ発展的に変更したりする可能性もある。また、適宜研究文献の選読なども行っていきたい。</p>											
【履修要件】											
日本近代史に関する通史的知識をある程度備えておくことが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（発表と、議論への積極的参加。50%）、および期末レポート（50%）。 レポートにおいては、史料の正確な読みと先行研究の探索を踏まえて、自らの見解を論理的、ないし歴史学的手法に即して実証的に論じることができているかを評価基準とする。</p>											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 日本史学(演習 I)(2)へ続く -----											

日本史学(演習 I)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

基本的に受講生が各自独力で考え実践すべきことだが、授業で得た断片的知識を立体的・有機的につなげるよう、日本近代史に関する通史的著作や学術的研究成果に親しむこと。

(その他(オフィスアワー等))

演習授業は学部生にとって学修の軸となるものですから、基本的に全て出席することを前提としています。無断欠席等についての扱いは授業初回に申し伝えます。

討議の場では、史料に基づいた丁寧な問い、根源的な問いを積極的に発することが求められます。十分な予習をもとに、拙くとも多くのクエスチョンを携えて出席すること。何の疑問も持たずに史料の字面をなぞる、あるいは先行研究を鵜呑みにする「素直さ」からは脱却されますように。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系30

科目ナンバリング		U-LET23 46642 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(演習II) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司 文学研究科 教授 上島 享 文学研究科 教授 谷川 穰 文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	木1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本史上の諸問題									
[授業の概要・目的]											
卒業論文の提出予定者全員が、論文の構想や研究内容を発表し、学史を踏まえたテーマ設定、史料の調査・分析、立論や論述などについて、基本的な方法を修得する。											
[到達目標]											
独自の史料分析と学史理解に立脚した、優れた卒業論文を作成する。											
[授業計画と内容]											
4～5月には論文のテーマを考え、先行研究や論拠とされた基本史料について調査する。7月には第1回の中間発表を行なう。先行研究の到達点と問題点を把握し、研究課題を明確にすることが発表の最低ラインであるが、史料の調査・読解を独自に進めていることが望まれる。10月には第2回の中間発表を行なう。史料の分析を深め、独自の論点を見出し、論文の骨格を見定めていることが求められる。											
第1回 卒業論文作成にあたっての概要説明 第2回 希望テーマの提出 第3～4回 各自のテーマの内容・研究史・史料などについての発表 第5～15回 各自の研究内容の中間発表(7月に集中形式で行なう) 第16～29回 各自の研究内容の発表(10月に集中形式で行なう) 第30回 論文執筆要領の説明											
[履修要件]											
今年度卒業論文提出を予定する者は、全員かならず受講すること(昨年度提出せず、留年した場合にも、再度の履修が必要)。											
[成績評価の方法・観点]											
中間発表と卒業論文の総合評価による。											
[教科書]											
使用しない											
----- 日本史学(演習II)(2)へ続く -----											

日本史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

先行研究を読破・整理するとともに、さまざまな史料を調査・分析した内容をまとめて中間報告を行ない、最終的に卒業論文に結実させる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系31

科目ナンバリング		U-LET23 26646 SJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(基礎演習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司 文学研究科 教授 上島 享 文学研究科 教授 谷川 穰 文学研究科 准教授 三宅 正浩			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	木5	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		日本史の古代から近代まで									
[授業の概要・目的]											
日本史研究の基本となる論文を精読し、それぞれの内容について全員で討論する。古代・中世・近世・近代の各時代に関する基本的知識を培うとともに、研究の動向やその到達点・課題を理解することを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の各時代に関する基本的知識を身につける。 ・日本史研究の動向を把握し、到達点と課題を理解する。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：イントロダクション 授業の進め方と準備・発表の方法を周知し、全員の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回：論文精読と議論 毎回2編ずつの論文を精読する。発表担当者はレジュメを作成して、論文の要旨および意見・疑問点などを報告する。他の出席者も必ず論文を読み、意見・疑問点をまとめてくる。その上で各論文について全員で討論する。</p> <p>第30回：まとめ</p>											
[履修要件]											
できる限り2回生時に履修すること。											
[成績評価の方法・観点]											
<p>平常点評価を行なう。</p> <p>その際には準備・参加状況(50点)、担当回の報告内容(20点)、討論の参加状況(30点)を組み合わせで評価する。</p> <p>なお、古代・中世・近世・近現代のすべての時代の授業に出席していることを要件とする。</p>											
[教科書]											
<p>使用しない</p> <p>テキストとなる論文は、前もって配布する。</p>											
----- 日本史学(基礎演習)(2)へ続く -----											

日本史学(基礎演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

論文の末尾などに示された参考文献を参照すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

各回取り上げる論文を必ず読み、意見・疑問点をまとめる。また、参考文献として挙げられた先行研究も併せ読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系32

科目ナンバリング		U-LET23 26650 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(講読) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉川 真司			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		平安時代政治社会史史料									
【授業の概要・目的】											
<p>竹内理三編『伊賀国黒田荘史料』に収められた古文書を精読し、古代・中世日本人が書いた漢文史料の解釈法を学ぶ。</p> <p>伊賀国黒田荘は現在の三重県名張市にあった荘園である。領主東大寺から歩いて一日の距離にあり、中世を通じて寺院経済を支える重要な荘園であった。東大寺文書には多数の関係文書が含まれるが、『伊賀国黒田荘史料』は年代順にこれらを集成したものである。本講読では、同書に収められた史料のうち、古代から中世の過渡期にあたる10～11世紀の古文書を読んでいく。</p>											
【到達目標】											
日本史の基礎史料の読解力を得る。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 伊賀国黒田荘および『伊賀国黒田荘史料』の概要を説明する。使用すべき辞書・工具書、および基本的な概説書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、各出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第29回：『伊賀国黒田荘史料』の精読 『伊賀国黒田荘史料』に収録された10～11世紀の古文書を精読し、内容について討論する。記事の内容と担当者の読解力によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね古文書1～2通程度を読み進めることになる。担当者は割り当てられた部分について詳しく調べ、発表する。その際には文学部古文書室に架蔵される古文書写真帳・影写本に必ず当たり、釈文が正しいかどうかを確認する。これは古文書原本を読むための基礎トレーニングでもある。</p> <p>第30回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験（筆記試験）による。史料読解力そのものを評価する。											
----- 日本史学(講読)(2)へ続く -----											

日本史学(講読)(2)

[教科書]

使用しない
テキストを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次回読み進める部分を読んでおく。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系33

科目ナンバリング		U-LET23 26650 LJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(講読) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 木土 博成			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		江戸時代の朝鮮人来聘記を読む									
【授業の概要・目的】											
江戸時代に朝鮮通信使が日本を訪れた際、日本国内の武士や学者、民衆は通信使について、見聞きしたことを記録に残している。そのなかでも、淀藩士の渡辺善右衛門が著した「朝鮮人来聘記」は、もっとも詳細な部類に属し、そこには、通信使の迎接のための準備や、通信使との交流の実態が克明に記されている。これを精読することで、史料の基本的な扱いを学ぶとともに、江戸時代人の朝鮮認識や、武家の思考回路の一端に触れる。											
【到達目標】											
テキストを一字一句正確に読解する能力を身につけるとともに、関連する触や記録・日記などの多様な関連史料を探索し、それらと付き合わせ、近世日本の歴史を立体的に捉えるという研究の基本姿勢を習得する。											
【授業計画と内容】											
第1～2回 イン트로ダクション 「朝鮮人来聘記」の概要を説明する。また、近世史において使用すべき辞書・基本的な概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。											
第3回～第29回 「朝鮮人来聘記」の精読 テキストを精読し、内容について討論する。記事の内容と担当者の習熟度・参加人数によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、1人2回は報告できるよう読み進めていく。											
第30回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読できなかった場合、この回を補充に充てることもある。											
フィードバックは、講読という形態の特徴から、基本的に毎回の授業の討論・指導の中で行われるものであるが、適宜、古文書閲覧室（文学部陳列館）にて受け付ける。											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本史学(講読)(2)へ続く -----											

日本史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（授業中の応答が30%、発表が70%）。とくに重要視される発表は単位取得の絶対条件であり、したがって担当箇所を決める初回の出席は必須である。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

発表予定者以外にも、授業中に指示して回答を求めらるので、毎回該当箇所を精読してくる。辞書・人名辞典・年表などを傍らにおき、語句・文意・背景などを各自がきちんと事前に調べつつ史料に向き合うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系34

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 助教		谷川 穰 木土 博成	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		近代の古文書(初級)									
【授業の概要・目的】											
古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、京都大学総合博物館所蔵の明治期の書簡史料を解読することを通して、くずし字を正確に読み取り、記載内容を理解する力を養成するとともに、近代文書の種類や性格を理解し、近代文書を適切に扱う技能を獲得することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を習得する。 ・近代文書を適切に扱う技能を獲得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 対象とする文書の性格、使用すべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。</p> <p>第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の近代文書の解読 主に教員2名とティーチングアシスタント1名により、マンツーマン方式で指導する。</p> <p>第15回 総括と期末試験</p>											
【履修要件】											
原則として日本史学専修に在籍する学生を対象とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)と実習終了時に行う試験(50%)で総合的に判断する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する。『くずし字解読辞典』『くずし字用例辞典』などは各自で用意すること。											
----- 日本史学(実習)(2)へ続く -----											

日本史学(実習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業での指示に従い、近代文書に関する知識を自学すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系35

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 助教		谷川 穰 木土 博成	
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		近代の古文書(中級)									
【授業の概要・目的】											
古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、京都大学総合博物館所蔵の明治期の書簡史料を熟覧・解読することを通して、くずし字を正確に解読し、記載内容を理解する力を高めるとともに、近代文書の特徴についてさらに理解を深め、近代文書を適切に扱う技能に熟達することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を向上させる。 ・近代文書の特徴について理解を深める。 ・近代文書を適切に扱う技能をより高める。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨN 対象とする文書の性格、使用すべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。</p> <p>第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の近代文書の解読 主に教員2名、ティーチングアシスタント1名により、マンツーマン方式で指導する。</p> <p>第15回 総括と期末試験</p>											
【履修要件】											
原則として日本史学専修に在籍する学生を対象とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)と実習終了時に行う試験(50%)で総合的に判断する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 日本史学(実習)(2)へ続く -----											

日本史学(実習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する。『くずし字解読辞典』『くずし字用例辞典』などは各自で用意すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業での指示に従い、近代文書に関する知識を自学すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系36

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 助教		上島 享 木土 博成	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		古代・中世の古文書（初級）									
【授業の概要・目的】											
古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、京都大学総合博物館所蔵の古代・中世文書を熟覧・解読することを通して、くずし字を正確に解読し、記載内容を理解する力を養成するとともに、古文書学の基礎的な知識及び考え方を身につけ、古代・中世文書を適切に扱う技能を獲得することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を習得する。 ・古文書学の基礎的な知識及び考え方を習得する。 ・古代・中世文書を適切に扱う技能を獲得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 古代・中世文書の扱い方の基本を説明し、使用すべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。</p> <p>第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の古代・中世文書の解読 東大寺、宝積寺、淡輪、畑田、西山地蔵院、松尾月読社、祇園社などの文書を順次とりあげ、教員2名、ティーチングアシスタント1名がマンツーマン方式で指導する。</p> <p>第15回 総括と期末試験</p>											
【履修要件】											
日本史学専修の学生を対象としたものである。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50％）と実習終了時に行う試験（50％）を総合的に判断する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 日本史学(実習)(2)へ続く -----											

日本史学(実習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

『くずし字解読辞典』 『くずし字用例辞典』などは各自で用意すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

・授業での指示に従い、古文書学についての知識を自学すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系37

科目ナンバリング		U-LET23 36660 PJ36									
授業科目名 <英訳>		日本史学(実習) Japanese History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 助教		上島 享 木土 博成	
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		古代・中世の古文書（中級）									
【授業の概要・目的】											
<p>古文書を正確に読解するとともに、それを適切に扱う能力は、日本史を研究する上での基礎的な素養といってよい。本授業では、「古代・中世の古文書（初級）」の受講済の学生を対象として、初級で養った能力を向上させることを目的とする。具体的には、京都大学総合博物館所蔵の古代・中世文書を熟覧・解読することを通して、くずし字を正確に解読し、記載内容を理解する力を高めるとともに、古文書学のより深い知識及び考え方を身につけ、古代・中世文書を適切に扱う技能を磨くことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・くずし字を正確に読解し、記載内容を理解する能力を高める。 ・古文書学の深い知識及び考え方を習得する。 ・古代・中世文書を適切に扱う技能を獲得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 使用すべき辞書・参考書を紹介した上で、授業の進め方を周知する。 第2～14回 京都大学総合博物館所蔵の古代・中世文書の解読 東大寺、宝積寺、淡輪、畑田、西山地蔵院、松尾月読社、祇園社などの文書を順次とりあげ、教員2名、ティーチングアシスタント1名がマンツーマン方式で指導する。 第15回 総括と期末試験</p>											
【履修要件】											
<p>日本史学専修の学生を対象としたものである。 「古代・中世の古文書（初級）」の受講済の学生を対象とする。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（50％）と実習終了時に行う試験（50％）を総合的に判断する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p>											
----- 日本史学(実習)(2)へ続く -----											

日本史学(実習)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

『くずし字解読辞典』 『くずし字用例辞典』などは各自で用意すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

・授業での指示に従い、古文書学についての知識を自学すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系38

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		秦史研究序説									
【授業の概要・目的】											
1970年代以降の秦簡の出土により、前3世紀後半については、従来とは比較を絶する緻密な秦史の実態が解明されつつある。対するに、前3世紀半ば以前の秦史に関する認識は、『史記』になお最も大きく依存している。本講義では、戦国後期～前漢前期における秦史認識と比較することで、『史記』の秦史認識の特徴ないし独自性を確認する。											
【到達目標】											
中国古代史研究の最新の知見、および中国古代文献の批判的分析の方法論を習得する。											
【授業計画と内容】											
以下の項目を逐次論ずる。 第1回 序論 第2回 秦史記述の疎密 第3回～第4回 秦の起源 第5回 秦の建国 第6回 穆公 第7回 秦＝戎狄説 第8回 献公 第9回～第10回 孝公～莊襄王 第11回～第14回 統一秦 第15回 結論 *フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

講義資料は担当者が準備する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系39

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		孟子とその時代									
[授業の概要・目的]											
孟子の経歴については、武内義雄・錢穆の先行研究があるが、年代学・歴史文献学的に問題があり、とりわけ先秦時代の歴史的事実および『孟子』の編纂上の特徴に対する理解が決定的に不十分であった。このような批判的視点に立ちつつ、戦国中期までの歴史的推移を概観し、『孟子』を解析することによって、中国専制国家形成過程としての先秦史に孟子を位置づける。											
[到達目標]											
先秦史研究の最新の知見、および中国古代文献の批判的分析の方法論を習得する。											
[授業計画と内容]											
以下の項目を逐次論ずる。 第1回 序論 第2回～第5回 春秋中期～戦国中期の歴史的推移 第6回～第7回 孟子の歴史認識 第8回 『孟子』の定量的分析 第9回～第10回 『孟子』各篇の章次 第11回～第14回 孟子の経歴 第15回 結論											
*フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
講義の感想を中心とする毎回の小レポート(30点)と期末レポート(70点)に基づき総合的に評価する。											
[教科書]											
講義資料は担当者が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系40

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世世界におけるカトリック教会の位相									
【授業の概要・目的】											
<p>1 7世紀のフランドルのイエズス会士、Cornelius HazartのKerckelycke historie van de gheheele werelt 『世界教会史』第一巻を読むことで、近世世界におけるカトリック教会の位相を探る。全四巻からなる本書のうち、第一巻にはヨーロッパ外の各地域におけるカトリックの布教状況が取り上げられる。著者はプロテスタントに対して polemical な著作を多く残しており、本書執筆の意図もそこにあるが、ここではそうした宗派的文脈よりも、イエズス会そしてカトリック教会の世界布教の構図を浮かび上がらせる材料として本書を読み解きたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1 , イエズス会のグローバルな活動を通じて近世世界の輪郭が把握できる 2 , 各地間の布教状況の差異から、比較史的考察が可能になる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 , 著者について 2 , 日本 (1) オランダ人の記録 3 , 日本 (2) 布教 4 , 日本 (3) 迫害 5 , 中国 (1) 開教 6 , 中国 (2) 発展 7 , ムガル 8 , 南インド 9 , ペルー 10 , メキシコ 11 , ブラジル 12 , フロリダ、カナダ 13 , パラグアイ、マラニャン 14 , アダム・シャルル 15 , フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによる評価。レポートはこの授業で紹介する史料ないし研究にもとづいて作成してもらう。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の受講に備えること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系41

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世の世界におけるオランダの活動									
【授業の概要・目的】											
<p>オランダの両インド会社や個人の活動を通じて、17世紀の世界を俯瞰する。 両インド会社のうち、東インド会社のほうが注目されがちだが（日本では特にそうである）、旧会社は半世紀しか存続しなかった西インド会社の活動にも近年注目が集まりつつある。 本講義では、時系列に沿って、大西洋世界も含めた世界各地におけるオランダ人あるいは会社の傘下で活動した人々の活動を追跡し、とくに彼らの世界認識を探ることで、近世世界の歴史的特質の一端を捉えることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>1 , 17世紀のオランダの世界史的意義を把握できる 2 , 蘭学の源流について知ることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 , イントロダクション 2 , 蘭学の世界 3 , 1612年 イスタンブル 4 , 1621年 アグラ 5 , 1623年 イスファハーン 6 , 1630年代 平戸 7 , 1634年 アユタヤ 8 , 1635年 キュラソー 9 , 1637年 レシフェ 10、1646年 ニュー・アムステルダム 11、1654年 アンボン島 12 , 1656年 北京 13 , 1664年 モスクワ 14 , 1668年 ダッペル 『アフリカ』 15 , フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読むことによって、問題点を確認するとともに次週の授業に備える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系42

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		帝国日本のスポーツ									
【授業の概要・目的】											
<p>私はかつて『帝国日本とスポーツ』（2012年）を書いて、内地中心の日本スポーツ史を批判した。その後、朝鮮や台湾のスポーツに関する良質の研究が出てきたものの、それらはなお植民地と宗主国の二者関係に視野が限られ、帝国全体を見渡すものとはなっていない。帝国全体を描くうえでネックとなっているのが満洲のスポーツ史であり、その研究はいま着実に進みつつある。その具体的な成果は後期の授業で紹介することにし、前期は日本内地、朝鮮、台湾、満洲などでスポーツが発展し、帝国に統合される過程、スポーツを通じた「文明化の使命」が日中戦争期の占領統治へと引き継がれていく過程、そしてできれば戦後東アジアにもたらした遺産（レガシー）を概観する。</p>											
【到達目標】											
<p>スポーツというテーマはまだ歴史学ではまっとうな扱いを受けていないが、東京オリンピックや北京冬季オリンピックの状況が示すように、近現代社会を考えるうえで重要なテーマとなるはずである。そんなスポーツ史の魅力と可能性を伝えたい。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>下記の内容について論じる。準備の都合や時々状況により内容は多少出入りすることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．日本（内地）のスポーツ（4週） 2．朝鮮のスポーツ（2週） 3．台湾のスポーツ（2週） 4．満洲のスポーツ（2週） 5．帝国日本のスポーツ（3週） 6．帝国日本の遺産（2週） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業のコメントと小レポート（60点）、学期末レポート（40点）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書） 高嶋航 『帝国日本とスポーツ』（塙書房）ISBN:9784827312539</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

高嶋航 『スポーツからみる東アジア史』 ISBN:978-4-00-431906-1

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する参考書や論文に目を通すこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系43

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		満洲とスポーツ									
【授業の概要・目的】											
<p>満洲（現在の中国東北地区）は、これまでスポーツ研究では看過されてきた地域である。しかし、満洲は日本を考えるうえでも、中国を考えるうえでも、さらには東アジアを考えるうえでも重要な地域である。なぜならそこでは、日本（朝鮮を含む）と中国が併存し、対立し、混交するなかでスポーツが発達してきたからである。</p> <p>本講義では、日本、中国、朝鮮の状況を踏まえつつ、戦前および戦時中の満洲におけるスポーツの概要と、個別の興味深い問題について論じる。</p>											
【到達目標】											
<p>東アジアでは、北京（2008）、平昌（2018）、東京（2020）、北京（2022）とオリンピックが立て続けに開かれている。スポーツの世界で東アジアのプレゼンスが高まるなかで、東アジアのスポーツの歴史を理解することは、スポーツを通じてよりよい東アジアを築き上げる基礎となる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 満洲におけるスポーツの始まり 2. 満鉄とスポーツ 3. 満洲と野球 4. 満洲と甲子園 5. インドアベースボールと東アジア 6. 大連YMCAと「文明化の使命」 7. 満洲スポーツの父、岡部平太 8. 満洲とスケート 9. 満洲の軍隊とスポーツ 10. 満洲の中国人スポーツ 11. 満洲における日中スポーツ交流 12. 満洲と明治神宮大会 13. 満洲国とスポーツ 14. 満洲国のナショナルチーム 15. フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業のコメント、小テスト(60点)、期末レポート(40点)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

高嶋航 『帝国日本とスポーツ』(塙書房,2012) ISBN:4827312532

高嶋航 『国家とスポーツ:岡部平太』(KADOKAWA,2020) ISBN:4044004943

高嶋航、金誠 『帝国日本と越境するアスリート』(塙書房,2020)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する参考書、論文に目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系44

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 小野寺 史郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近現代中国における軍事と社会									
【授業の概要・目的】											
清末から中華人民共和国に至る時期の中国知識人における軍事と平和をめぐる議論の展開を概観する。中国近現代史に対する理解を深めるとともに、近現代中国の軍事と平和に対する見方がどのような特徴をもつのか、それらの特徴はどのような原因によって生じたのか、それらの特徴は中国に特有のものかそれともより普遍的なものか、といった諸問題について考察することを通じて、現在の中国を歴史的に捉える視点を身につける。											
【到達目標】											
東アジア、とくに中国の歴史と現状について、資料と先行研究にもとづいて考察する視座と方法を獲得し、批判的に理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 近代以前の中国の軍事制度の概観 第3回 19世紀末の諸反乱と「督撫重権」 第4回 日清戦争と日本モデル 第5回 「軍国主義」と軍事観の変容 第6回 辛亥革命と民国初期の徴兵制論 第7回 第一次世界大戦と東西文明の評価 第8回 1920年代のミリタリズム 第9回 国民革命と社会への影響 第10回 南京国民政府期の軍事と社会 第11回 日中戦争下の徴兵をめぐる問題 第12回 日中戦争から国共内戦へ 第13回 中華人民共和国の軍制と社会 第14回 講義のまとめ 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点とレポートによる。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

あらかじめ資料を配付する場合はこれを読んだ上で出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系45

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36											
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学 文学研究科 准教授				箱田 恵子	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		清末中国における近代外交の形成											
【授業の概要・目的】													
この講義では、清末中国における対外姿勢の変容、近代外交の形成過程について、とくに米国との関係を中心に解説する。中国の漸進的改革の支援を主張した協力政策や留美幼児（米国への官費留学生）の派遣、米国による門戸開放主義の提唱と留美幼童出身者を中心とした清朝外務部の反応など、米清間の友好関係や米国の対中政策が清末の中国外交に与えた影響を考察する。それと同時に、米国における中国人移民排斥とそれに対する反米ボイコット運動など、対米関係が中国における愛国主義形成に与えた影響も取り上げ、清末中国における対外姿勢が、夷務から洋務、外務、そして民族主義的な外交へと変化していくことを考察する。													
【到達目標】													
受講生はまず、清末中国をめぐる国際関係を理解し、さらに特殊な関係と呼ばれる米中関係が、中国における近代外交の形成に与えた影響を理解し、近代中国と諸外国との関係をより広い視野から理解する。													
【授業計画と内容】													
基本的に以下の予定にそって講義を進めるが、講義の進み具合や受講生の理解などに応じて、講義内容の順序や同じテーマの講義回数を調整することがある。													
<ol style="list-style-type: none"> 1.前近代における清朝の対外態勢 2.米清関係の始まりと相互イメージ 3.協力政策とバーリンゲーム使節団 4.留美幼児の派遣 5.米清の友好関係と移民問題 6.新しい移民条約をめぐる交渉 7.清朝の対外紛争と米国の周旋・仲介・仲裁の試み 8.日清戦争後の変化と門戸開放通牒 9.義和団事件 10.米清通商航海条約交渉と自開商埠 11.日露戦争への対応 12.反米ボイコット 13.門戸開放政策と満洲問題 14.ドル外交とその影響 15.外務から外交へ 													
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----													

東洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加状況（20点）、学期末のレポート（80点）で成績を評価する。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
毎回資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）
岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』（ミネルヴァ書房，2019年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書の関連項目を事前に読むなどして、授業で扱う外交交渉に関する基礎知識をもって授業に臨むようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

現在の中国や日本にも関わる問題なので、参考文献を読むだけでなく、ニュース報道などにも注意してみてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系46

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立教大学 文学部 教授 上田 信			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		史的システム論に基づく東ユーラシア圏域史									
【授業の概要・目的】											
<p>人類はいま歴史的な転換点に立っている。地球温暖化に起因する異常気象、COVID-19などのパンデミック、深刻な経済格差、民主主義の機能不全と権威主義の台頭、さらに全人類の人口がまもなく減少に転ずると予測されている。私たちはよりよい一歩を踏み出すために、長期に亘る歴史的な展望を持つ必要に迫られている。</p> <p>本講義では展望を得るための方法論として「史的システム論」を提示し、日本が立地する空間軸として「東ユーラシア圏域」を措定する。現在を相対化する時間軸として16世紀から20世紀までを範囲として、下記のトピックを取り上げて検討する。</p> <p>明代民間知識人が観た日本 人口の視点で見た17世紀以降の中国・朝鮮・日本 ペストをめぐるアジアの歴史</p>											
【到達目標】											
地球全体の歴史を俯瞰する視点（鳥の目）と地域社会の歴史から仰視する視点（虫の目）とを架橋しうる知的な跳躍力を身につけ、自らの思索と実践に活かせるようにする。歴史的に生起するさまざまな事象について、モノ・ヒト・イミの次元から、全体的に分析していく力を養う。											
【授業計画と内容】											
第I部（初日）史的システム論と東ユーラシア圏域											
第1回 システム論的な思考法											
第2回 モノ・ヒト・イミの3つの次元											
第3回 東ユーラシア圏域と生態環境											
第II部（2日目）明代民間知識人が観た日本											
第4回 ヒト（人物）の歴史											
第5回 16世紀の海域アジア											
第6回 明代知識人の諸相											
第7回 鄭舜功『日本一鑑』を読む											
第III部（3日目）人口から観た17世紀以降の中国・朝鮮・日本											
第8回 歴史人口学的研究の方法											
第9回 18世紀中国の人口爆発はなぜ起きたのか											
第10回 20世紀から現在にいたる中国人口史											
第11回 朝鮮と日本の人口史											
第4部（4日目）ペストをめぐるアジアの歴史											
第12回 雲南の風土病から世界的パンデミックになるまで											
第13回 関東軍731部隊による細菌戦											
第14回 戦争における責任について考える											
総括											
第15回 人類史上の転換期における歴史学の役割											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

本講義は担当者（上田信）の特異な歴史観に基づいて展開されるため、事前に下記の教科書・参考書を読んでおくことが期待される。なお、直接に講義に関する部分については、抜粋して事前にネット経由で送付する予定。

[成績評価の方法・観点]

評価60%：講義への参画度。講義では質疑応答・討議の時間を多く設ける。これらの機会での積極的な発言や参与を評価する

評価40%：レポート。本講義で展開される方法論に基づいて、各自の問題関心を展開し、レポートにまとめる。

[教科書]

上田信『歴史を歴史家から取り戻せ！ 史的な思考法』（清水書院、2018年）ISBN:978-4-389-50084-9（史的システム論を概説しています）

上田信『岩波講座世界歴史 12巻』（岩波書店、2022年近刊）（上田担当の「展望A」で、15～18世紀の東ユーラシア圏域の歴史を取り上げています。）

上田信『人口の中国史 先史時代から19世紀まで』（岩波書店、2020年）ISBN:9784004318439（本講義と直接関わる箇所は第4章～第6章。なお電子書籍版は間違いが修正されている。）

上田信『ペストと村：七三一部隊の細菌戦と被害者のトラウマ』（風響社、2009年）ISBN:9784894891357（フィールドワークに基づく著作。史的システム論の実践例となる。）

講義と直接に関わる部分を抜粋して、事前にネット経由で送付する。事前に読んでおくこと。講義のあとでも構わないが、書籍の全体を読了することが望ましい。

[参考書等]

（参考書）

上田信『中国の歴史9 海と帝国 明清時代』（講談社、2021年）ISBN:978-4-06-522777-0（学術文庫版。ハードカバー版（2005年出版）の誤りを修正し「あとがき」を加筆。）

上田信『シナ海域 屋気楼王国の興亡』（講談社、2013年）ISBN:978-4-06-218543-1（源義満（足利義満）・鄭和・王直・鄭成功などを取り上げる。海域アジア史の列伝。）

上田信『東ユーラシアの生態環境史』（山川出版社、2006年）ISBN:978-4-634-34830-1（モノ（茶葉・銅）から見た東ユーラシア圏域の歴史。）

講義のあとに読んでおくことが期待される。

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に送付するテキストを集中講義の前に読了し、質問・コメントができるように準備しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

電子メール <ueda@rikkyo.ac.jp>

件名の冒頭に必ず【京都大学集中講義】と明示すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系47

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 辻 正博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		隋唐王朝の国制 概観と淵源									
【授業の概要・目的】											
<p>古代日本にも多様な形で影響を与えた隋唐王朝の国制（統治機構）については、これまで膨大な研究の蓄積がある。この講義では、北朝末から唐代前期までの政治制度について、政治史の動向にも目を配りつつ、概観する。ともすれば、静的なイメージで捉えられがちなこの時代の政治制度が、大きな変貌を遂げていることを改めて認識していただければと思う。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本の「律令制」に大きな影響を与えた隋唐時代の国制について、その背景となった政治動向を踏まえ、総合的に理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について、おおむね2週を目途に講義を進める。 なお、初回授業（ガイダンス）時に、学期の授業計画および講義で必要される諸事項について説明を行うので、必ず出席すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．隋唐王朝の成立事情と国制 <ol style="list-style-type: none"> (1) 周隋革命と開皇の国制 (2) 唐王朝の成立事情と唐初の国制 2．開元官制の成立 『周礼』とのかかわり <ol style="list-style-type: none"> (1) 中央官制 (2) 地方官制 3．隋唐の律と令 <ol style="list-style-type: none"> (1) 律 (2) 令 4．礼制 5．軍制 6．税役制度 7．まとめとフィードバック 											
【履修要件】											
<p>中国史に関する概説的知識を身につけていること（事前に、概説書を一読しておくこと）。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポートの成績による。(100%)

レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対して、高い評価を与えます。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

適宜、講義資料を配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

中国史に関する概説書(「参考書等」に掲げる参考文献もその一つ)を事前に一読しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

事前に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系48

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 辻 正博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		唐史研究史料論									
【授業の概要・目的】											
<p>「唐史研究史料論」 今期の講義では、唐史研究で用いる史料について、使用するテキスト（版本）に焦点を当てて論じる。いわゆる「通行本」がいかなる経緯を経てその地位を得たのか、通行本のテキストに問題はないのか、などの点について検討を加えてゆきたい。</p>											
【到達目標】											
唐史研究史料に関する基礎的な知識を身につけるとともに、史料の伝存・整理事情についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマにつて、おおよそ1~2週を目処に講義を進める。</p> <p>0. ガイダンス.....学期の授業計画および講義で必要とされる諸事項について説明する</p> <p>1. 正史 『旧唐書』と『新唐書』</p> <p>2. 『資治通鑑』 『通鑑考異』と胡三省注</p> <p>3. 『通典』 政書（1）</p> <p>4. 『文献通考』 政書（2）</p> <p>5. 『唐会要』 政書（3）</p> <p>6. 『大唐六典』</p> <p>7. 『唐大詔令集』 唐代の詔勅</p> <p>8. 『冊府元龜』 類書について</p> <p>9. 石刻史料</p> <p>10. 敦煌・トルファン出土文献</p> <p>11. まとめとフィードバック</p>											
【履修要件】											
中国史、特に秦漢～隋唐史に関する基本的な事項（概説レベル）を理解していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポートの成績による。（100％） レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。 よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対して、高い評価を与えます。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処します。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
必要に応じてプリントを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

講義中に紹介した参考文献を自主的に閲読し、講義内容に対する理解を各自深めること。

(その他(オフィスアワー等))

事前に連絡して日時を調整すること。(学生番号、氏名を明記してメールしてください。)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系49

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮史詳説(近世篇3)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮時代後期(17~18世紀)の政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国・日本)の歴史と関連づけながら朝鮮の歴史を理解することを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 朝鮮時代史とその史料 第2講 礼訟の時代 第3講 己亥・甲寅の礼訟 第4講 庚申の獄 第5講 老論と少論 第6講 唐米の輸入 第7講 荒唐船の出没 第8講 常平通寶 第9講 新銀問題と対日外交 第10講 正徳度通信使 第11講 定界碑 第12講 萬東廟と大報壇 第13講 家禮源流と斯文處分 第14講 丁酉獨對 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。											
【教科書】											
使用しない 講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社)ISBN:9784634462137
姜在彦『歴史物語 朝鮮半島』(朝日新聞出版)ISBN:9784022599063
矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』(塙書房)ISBN:9784827331110
矢木毅『韓国の世界遺産 宗廟』(臨川書店)ISBN:9784653043713

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系50

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 矢木 毅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮史詳説(近世篇4)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮時代後期(17~18世紀)の政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界(特に中国・日本)の歴史と関連づけながら朝鮮の歴史を理解することを目的とする。											
【到達目標】											
基本史料(漢文)を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1講 辛壬士禍 第2講 蕩平策 第3講 戊申・李麟佐の乱 第4講 銓郎権の撤廃 第5講 常平通寶の増鑄 第6講 均役法 第7講 乙亥・尹志の獄 第8講 壬午禍變 第9講 外戚の争い 第10講 奎章閣 第11講 華城の造営 第12講 辛亥通共 第13講 正祖朝の學藝 第14講 五晦筵教 第15講 まとめ(史料講読)											
【履修要件】											
中国古典文(漢文)の基礎的な読解能力(高等学校履修程度)を身につけていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期中に2回、レポート課題(各50点)を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は PandA を経由して行う。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に PandA で配信する。

[参考書等]

(参考書)

李成市ほか『朝鮮史1』(山川出版社) ISBN:9784634462137

矢木毅『韓国の世界遺産 宗廟』(臨川書店) ISBN:9784653043713

矢木毅『韓国・朝鮮史の系譜』(塙書房) ISBN:9784827331110

姜在彦『歴史物語 朝鮮半島』(朝日新聞出版) ISBN:9784022599063

(関連URL)

<http://db.history.go.kr/>(韓国史データベース(韓国・国史編纂委員会))

[授業外学修(予習・復習)等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系51

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
<p>マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン（女真）人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と講読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業ではマンジュ語入門と基礎文法、史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。</p>												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ</p>												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
平常点（授業での発表など）60点、期末レポート40点												
[教科書]												
<p>使用しない 読解史料は、授業の際にプリントを配布する。</p>												
[参考書等]												
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>												
[授業外学修（予習・復習）等]												
授業前の予習を必須とする。												
（その他（オフィスアワー等））												
<p>質問などがある場合には、Email (chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>												

歴史基礎文化学系52

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36										
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 基盤教育機構 教授				承 志
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		マンジュ語『内国史院档』の研究										
[授業の概要・目的]												
マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン(女真)人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と購読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業では史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。												
[到達目標]												
<ul style="list-style-type: none"> ・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。 ・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。 ・史料を読み解くことができるようになること。 												
[授業計画と内容]												
第1回 イン트로ダクション 第2回 『内国史院档』の研究史とその内容 第3回～14回 『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論 第15回 まとめ												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
平常点(授業での発表など)60点、期末レポート40点												
[教科書]												
読解史料は、授業の際にプリントを配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学修(予習・復習)等]												
授業前の予習を必須とする。												
(その他(オフィスアワー等))												
質問などがある場合には、Email(chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

歴史基礎文化学系53

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 太田 出			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国近世の訴訟と地域社会									
【授業の概要・目的】											
<p>明清時代を対象とする中国近世の法制史研究では、近年、地域社会において実は訴訟を起こすこと自体がかなり身近なものであり、「健訟」（盛んに訴訟を行う）と呼ばれるような状況が現出していたことが明らかにされている。本講義では、明清時代の裁判機構、法典、裁判文書について概要を説明した後、明清時代の裁判の性格をめぐる議論を整理しながら、地域社会の秩序形成を紛争と調停、判決の性格といった視点から捉えなおしてみる。史料としては、基本法典のほか、行政最末端の地方官庁レベルの裁判史料、さらに司法官が自らの名裁きを誇示するために出版した判決集＝判牘を用いることにする。</p>											
【到達目標】											
中国近世の法と裁判について基本的な事項を理解するとともに、古典漢文や中国語史料の読み方・使い方を学び、自ら史料分析を行う能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス 第2回：明清時代の裁判機構 第3回：明清時代の法典 第4回：明清時代の裁判文書（一） 中央档案と地方档案 第5回：明清時代の裁判文書（二） 判牘 第6回：明清時代の紛争と調停 第7回：明清時代の判決の性格 第8回：明清時代の人々にとって訴訟はどれくらい身近なものだったか？ 第9回：誰が訴状を書いたか？ 代書 第10回：当時、弁護士はいたか？ 訟師 第11回：訴訟関係者はどのようにして呼び出されたか？ 胥吏・衙役 第12回：訴訟関係者はどこに宿泊したか 歇家 第13回：州県行政から見た裁判と徴税 第14回：明清時代の訴訟と地域社会 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点50%、授業中に行う小テスト50%で総合的に判定する。詳細は初回授業にて説明する。											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にレジユメを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に参考すべき論文や図書を紹介するから、それらを予習として読んだうえで授業に参加するか、あるいは復習として授業後に読んで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系54

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 太田 出			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国近世の民間信仰と国家 関羽信仰を事例として									
【授業の概要・目的】											
<p>中国の文化はいろいろな意味で、周辺各国・地域におよんでいる。日本でも人気のある『三国志演義』もそうした中国から伝播してきた文化の一つであるといっていよう。それは単に小説として人気を集めただけでなく、華僑・華人によって民間信仰としても運ばれていった。本授業では、おもに中国明清時代以降、『三国志演義』の英雄・関羽がいかにして「人」から「神」へと変貌を遂げ、それがモンゴル、新疆、チベット、台湾などにどのように伝播していったか、関羽に関する靈威伝説がいかにか創出され、人びとのあいだに受容されていったかについて、ユーラシア東部を広く見渡しながらか位置づけてみたい。中国における民間信仰のあり方に関する知見を広めるとともに、民間信仰に関する歴史史料の読解力についても身につけてもらいたい。</p>											
【到達目標】											
<p>中国の民間信仰に関する歴史文献とフィールドワーク、歴史学・人類学といった各学問のディシプリンを乗り越えた研究手法を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス 第2回：領域統合と民間信仰 第3回：唐朝から明朝における関羽の神格化 第4回：清朝と関聖帝君の「顕聖」(1) 第5回：清朝と関聖帝君の「顕聖」(2) 第6回：関帝廟という装置 第7回：「白蓮」の記憶(1) 第8回：「白蓮」の記憶(2) 第9回：清朝のユーラシア世界統合と関聖帝君(1) 第10回：清朝のユーラシア世界統合と関聖帝君(2) 第11回：清朝の版図・王権と関羽信仰(1) 第12回：清朝の版図・王権と関羽信仰(2) 第13回：国家と宗教(1) 第14回：国家と宗教(2) 第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中に行う小テスト50%（持ち込み不可）、平常点50%で総合的に評価を行なう。詳細は初回授業にて説明する。

[教科書]

太田 出 『関羽と靈異伝説 清朝期のユーラシア世界と帝国版図』（名古屋大学出版会、2019年）
ISBN:978-4-8158-0961-4
詳細は初回の授業において説明するので、必ず出席すること。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書のほか、参考にすべき論文や図書を紹介するから、それらを予習として読んだうえで授業に参加して欲しい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系55

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 宮宅 潔			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古代制度史と出土文字史料									
[授業の概要・目的]											
近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。											
[到達目標]											
新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス 2．中国簡牘史料の発見史 3．楚簡の概観 4．秦簡の概観 5．墓葬出土漢簡の概観 6．辺境出土漢簡の概観 											
初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。											
[履修要件]											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポート（50点）と平常点（授業内での質問・発言、小テスト 50点）を総合して評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系56

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 宮宅 潔			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		簡牘から見た始皇帝の時代									
[授業の概要・目的]											
近年公表されている秦代の出土文字史料（岳麓書院所蔵簡・里耶秦簡など）を活用しつつ、始皇帝の時代について講義する。始皇帝個人の一生を紹介したうえで、中国全土を支配することになった秦王朝が如何なる問題に直面し、そのためにどのような制度が整えられていたのかを分析する。特に秦による征服と統治の展開を、制度面から跡づけていく。こうした考察を通じて、中国古代の専制国家の姿について、理解を深めることを目指す。											
[到達目標]											
中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につけたうえで、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ガイダンス 2．始皇帝の人生 3．統一戦争の諸相 4．多元世界の統一 5．占領統治の実態 											
初回のガイダンスの後、各単元を3～4回に分けて講義する。											
[履修要件]											
中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポート（50点）に平常点（授業内での質問・発言、小テスト 50点）を加味して評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モノからみる中国近代史									
【授業の概要・目的】											
<p>近年における中国の台頭は中国の経済成長が原因であり、中国経済の動向は中国の今後を決めるだろう。中国近代史も戦争や革命などに目を奪われがちであるが、実は中国経済の動向に大きく左右されてきた。本講義では、中国近代経済史上、重要な役割を果たした商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆の生産・流通およびそれが中国近代史に与えた影響について概説し、新たな視点から中国近代史を理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>中国の「伝統的」な経済の仕組みをふまえつつ、中国近代において重要な商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆がどのような地域で誰によって生産され、どのような人々の手を経て流通していたのかを把握する。そのうえで、これらの商品の貿易が中国経済のみならず、中国の政治外交・社会に与えた影響について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国経済の仕組み 3. 中国茶貿易の発展 4. アジア間競争と中国茶の行方 5. アヘン貿易の発展 6. 中国アヘンの発展 7. 日中戦争とアヘン 8. 中国の米生産と動乱 9. 外国米貿易の発展 10. 羊毛貿易の勃興 11. 羊毛と内地経済 12. 大豆貿易の発展と満洲の開発 13. 大豆貿易と中国政治 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- 東洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近代中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展したことによって、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割は年々大きくなってきている。例えば、企業が海外のある地域の企業と提携する場合、現地の言語・習慣に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わってしまう可能性は高い。新型コロナウイルスによって人間の移動が著しく制限されたことによって、様々なビジネスに支障が生じたため、仲介者の果たしてきた役割はあらためて注目されている。本講義はこうした仲介者の意義について、近代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>開港場とそれ以外の地域（内地）を媒介するという近代中国における仲介者の役割を把握したうえで、前近代の中国や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 明清時代の商業と牙行 3. 清代海上貿易の展開と仲介者 4. アヘン貿易と仲介者 5. 開港場貿易：外国人商人と買弁（1） 6. 開港場貿易：外国人商人と買弁（2） 7. 苦力貿易と客頭（1） 8. 苦力貿易と客頭（2） 9. 開港場貿易の発展と行棧（1） 10. 開港場貿易の発展と行棧（2） 11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡 12. 前近代東南アジア海域の仲介者 13. 前近代地中海世界の仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>前期・後期ともに履修することが望ましい。</p>											
----- 東洋史学(特殊講義) (2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系59

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古松 崇志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
【授業の概要・目的】											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
【到達目標】											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（1回） 2. 石刻学・石刻研究史の概観（2～3回） 3. 石刻史料へのアクセス（伝統的な石刻文献を含めた典籍文献、新出史料集、ウェブ上のデータベースなど）概観（2～3回） 4. 石刻史料積読（7～9回） 5. まとめ（1回） <p>積読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。</p> <p>基本的に以上の予定にしたがって講義を進めるが、回数など変更の可能性があることに留意されたい。</p>											
【履修要件】											
実際に漢文で書かれた石刻史料を会読するので、漢文文献史料を自分で読む意欲を持っていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
----- 東洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

積読史料は、プリントなどを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

積読する史料を指定してからは、受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系60

科目ナンバリング		U-LET24 36731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古松 崇志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国石刻史料の研究									
[授業の概要・目的]											
中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。											
[到達目標]											
漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。											
[授業計画と内容]											
1．ガイダンス（1回） 2．石刻史料精読（13回） 3．まとめ（1回） 精読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。											
[履修要件]											
前期からつづけて履修することが望ましい。実際に漢文で書かれた石刻史料を会読するので、漢文文献史料を自分で読む意欲を持っていること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点											
[教科書]											
精読史料は、プリントなどを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
精読する史料は受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系61

科目ナンバリング		U-LET24 36741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系62

科目ナンバリング		U-LET24 36741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習I) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学(中国古典注釈学)の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系63

科目ナンバリング		U-LET24 36743 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		茅元儀『石民四十集』の書簡を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>明末に『武備志』という浩瀚な兵書を著したことで知られる茅元儀の文集『石民四十集』に収録される書簡を主に読む。今年度は天啓七年(1627)から崇禎四年(1631)までの書簡と上奏を読む。新しい皇帝が即位すると、彼も再浮上し、いったん失脚したものの、再び戦いの前線に立つことになる。しかし、それもつかの間に終わり、福建に流罪となる。彼の人生の中でもとりわけ起伏の激しい時期であり、明朝にとっても激動の時期であった。この授業では、彼の視点を通して崇禎初年の明朝国家のありようを眺めることも目的としている。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文テキストを読むことで、自力で句読する能力が身に付く。 2、書簡を歴史史料としてどのように読むべきかを知ることができる。 3、明人の政治・文化観を知ることができる。 											
[授業計画と内容]											
<p>進度については、受講生次第なので、確言できない。第1回目に、これまで五年間本書を読んできたことをもとにした解説を行い、新規受講者に予備知識を与える。 以下、2回目～14回目まで、毎回書簡を1本ないし2本を読む。 15回目 フィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
テキストはこちらから配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
前もってテキストを配布するので、十分に予習しておくこと。担当者には訳稿の提出を求める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系64

科目ナンバリング		U-LET24 36743 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『明清档案』									
【授業の概要・目的】											
<p>中央研究院が刊行中の『明清档案』に収録されている清朝順治年間の文書を読み、中国制圧の過程を清朝サイドから見てゆく。明清の王朝交代は、日本では「華夷変態」として、またヨーロッパでも宣教師によってそのニュースが紹介されるなど、大事件として受けとめられていた。しかし、明末清初の動乱に関する歴史記述とそれを承けた研究は、満州人王朝の世界史的意義が強調されるようになった今日においてもなお「敗者」の側に片寄りすぎている。あらためてこの史料集を読むことで、勝者の視点から冷静に支配確立の過程を見てゆきたい。</p> <p>今年は順治六年(1649)の档案を読む。清朝支配の試行錯誤の過程を、文書を通じてたどってゆく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1、白文に取り組むことで、自力で句読を行う能力を身につけることができる。 2、行政文書の形態に習熟できる。 3、清朝の中国征服史について理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1回 『明清档案』のテキストの性格を説明し、昨年読んだところについて言及しながら、順治元年～五年にわたる政治情勢について解説する。1コマにつき一、二本を読む予定。 2～14回でとりあげる予定の档案のテーマは以下のとおり。 15回 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 東洋史学(演習II) (2)へ続く -----											

東洋史学(演習II) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

1週間前に当番を決めて、文書1本ないしその一部を担当してもらうので、それについては責任をもって予習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系65

科目ナンバリング		U-LET24 36745 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梁啓超『飲冰室合集』選読									
[授業の概要・目的]											
梁啓超の文集『飲冰室合集』から重要な文章を選読する。											
[到達目標]											
<p>近現代中国を考えるうえで、梁啓超を避けて通ることはできない。新しい文体によって、梁が切り拓いた新しい地平は、いまから見れば、近代以降の中国の政治、学術、社会の基盤を提供するものであった。</p> <p>梁啓超の文章を正確に理解することが第一の目標である。さらにすすんで、当時の知識人たちが抱えていた問題意識、世界観、日本の影響などを読み解くことが第二の目標である。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>初回はガイダンスで二回目から読み進める。梁啓超の著作集『飲冰室合集』から、適当な文章を選んで読んでいく。</p> <p>一回に二頁程度読む。履修者には、原文を現代中国音で読み、訳注を作成することを課す。</p> <p>一五回目はフィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
プリントをコピーして配布する。											
[参考書等]											
<p>(参考書)</p> <p>梁啓超『新民説』(平凡社,2014) ISBN:4000291874</p> <p>狭間直樹『梁啓超：東アジア文明史の転換』(岩波書店,2014) ISBN:4000291874</p> <p>梁啓超『梁啓超文集』(岩波書店,2020) ISBN:4003323416</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1週間前に当番を決めるので、少なくとも担当部分については責任をもって予習すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系66

科目ナンバリング		U-LET24 36745 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習III) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梁啓超『飲氷室合集』選読									
[授業の概要・目的]											
梁啓超の文集『飲氷室合集』から重要な文章を選読する。											
[到達目標]											
<p>近現代中国を考えるうえで、梁啓超を避けて通ることはできない。新しい文体によって、梁が切り拓いた新しい地平は、いまから見れば、近代以降の中国の政治、学術、社会の基盤を提供するものであった。</p> <p>梁啓超の文章を正確に理解することが第一の目標である。さらにすすんで、当時の知識人たちが抱えていた問題意識、世界観、日本の影響などを読み解くことが第二の目標である。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>初回はガイダンスで二回目から読み進める。梁啓超の著作集『飲氷室合集』から、適当な文章を選んで読んでいく。</p> <p>一回に二頁程度読む。履修者には、原文を現代中国音で読み、訳注を作成することを課す。</p> <p>一五回目はフィードバック</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
プリントを使用する。											
[参考書等]											
<p>(参考書)</p> <p>梁啓超『新民説』(平凡社,2014) ISBN:4000291874</p> <p>狭間直樹『梁啓超:東アジア文明史の転換』(岩波書店,2014) ISBN:4000291874</p> <p>梁啓超『梁啓超文集』(岩波書店,2020) ISBN:4003323416</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1週間前に当番を決めるので、少なくとも担当部分については責任をもって予習すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系67

科目ナンバリング		U-LET24 36749 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の歴史決議を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>中国共産党は結党100周年にあたる2021年に、党の歩みを振り返る文書を決議として採択した。これは同党の歴史上、歴史について出された三つ目の決議ということになる。この授業ではまず、以前の1945年、1981年に採択された二つの歴史決議がどのように制定され、どのような内容と目的を持っていたかを明らかにする。とりあえずは、二つの決議を読解・分析し、決議で述べられているそれぞれの歴史事象がどのようなものだったかを調べ、党の歴史のアウトラインをたどることにする。</p>											
【到達目標】											
<p>中国共産党の基本的文献である歴史決議を精読することによって、単に中に書かれていることの概要を知るだけでなく、それら歴史事象と党の時々々の党の活動（政治運動）がどのような関係にあったかを知ることができるだろう。歴史決議というそれ自体が歴史文書である文献の精読を通じて、歴史とその歴史への評価・認識の両者を重層的に把握することができるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1-2回 基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。 3-8回 1945年に採択された「若干の歴史問題に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 9-14回 1981年に採択された「建国以来の党の若干の歴史問題に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 15回 第1、第2の決議に関して総合討論を行う。</p>											
【履修要件】											
<p>決議文自体は日本語に翻訳されているが、配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。</p>											
----- 東洋史学(演習)(2)へ続く -----											

東洋史学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

決議文に書かれている歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET24 36749 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の歴史決議を読む(続)									
【授業の概要・目的】											
<p>中国共産党は結党100周年にあたる2021年に、党の歩みを振り返る文書を決議として採択した。これは同党の歴史上、歴史について出された三つ目の決議ということになる。この授業では以前の二つの歴史決議の起草・採択の経緯をおさえた上で、三つ目の決議の起草・制定の経過を探り、どのような内容と目的を持っていたかを明らかにする。三つの決議を比較・検討し、決議を制定することで、現政権が何を求めようとしているのかを分析する。</p>											
【到達目標】											
<p>中国共産党の基本的文献である歴史決議を精読することによって、単に中に書かれていることの概要を知るだけでなく、それら歴史事象と党の時々々の党の活動(政治運動)がどのような関係にあったかを知ることができるだろう。歴史決議というそれ自体が歴史文書である文献の精読を通じて、歴史とその歴史への評価・認識の両者を重層的に把握することができるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1-2回 基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。 3回 1945年に採択された「若干の歴史問題に関する決議」の概要を紹介する。 4回 1981年に採択された「建国以来の党の若干の歴史問題に関する決議」の概要を紹介する。 5-12回 2021年に採択された「党の百年にわたる奮闘による大きな成果と歴史的経験に関する決議」をテキストとして、受講生がそれぞれに割り当てられた決議の中から興味を感じた部分について順番に報告を行い、討議を行う。 13-14回 三つの決議それぞれの特徴とその違いについて総合的に討議を行う。 15回 フィードバック。</p>											
【履修要件】											
<p>決議文自体は日本語に翻訳されているが、配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(50点)と期末レポート(50点)の総合的評価による。</p>											
----- 東洋史学(演習) (2)へ続く -----											

東洋史学(演習) (2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

決議文に書かれている歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系69

科目ナンバリング		U-LET24 36749 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 小野寺 史郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近現代中国思想史に関する文献の講読									
[授業の概要・目的]											
近現代中国の思想史を扱った、研究史上重要な論文や研究書を講読する。特に、それらがどのような文脈や史料状況、問題意識の下で書かれたものか、論証の過程や結論にどのような特徴があるか、同分野の研究の展開にどのような影響を及ぼしたか、といった点から検討を加えることで、それらの研究のもつ意味についての理解を深める。											
[到達目標]											
中国近現代史に関する文献の読解能力および理解力を身につける。											
[授業計画と内容]											
近現代中国の政治・社会・思想に関する研究書を読解し、問題の所在や証明の方法について検討する。 テキストの担当を決め、担当者が内容要約と解説、コメントを行い、それについて参加者全員で討議を行う。 第1回 ガイダンス、授業の進め方や分担の決定。 第2回 教員によるテキスト講読 第3-14回 受講者によるテキスト講読 第15回 フィードバック また、必要に応じて論文作成に向けての研究報告とコメント、討議を行う。											
[履修要件]											
中国語を履修していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
報告に関する評価および授業への取り組みなどの平常点。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
演習という形式上、担当者だけでなく、受講者全員に相応の予習・復習を要求する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系70

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『資治通鑑』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>長らく為政者の必読書とされてきた『資治通鑑』を読むことによって、漢文読解の力を養うだけでなく、中国の知識人が歴史から何を読み取ろうとしたかを考える機会を提供する。</p> <p>なお、本授業は東洋史学専修進学者の必修単位であるので、東洋史に進もうと考えている者は2回生のうちに履修しておくのが望ましい。</p> <p>他の専修に進む予定の人も歓迎する。「最後の漢文学習の機会」と考えて参加してほしい。</p>											
【到達目標】											
<p>1、漢文史書の読解力の基礎ができる。</p> <p>2、漢文史書の叙述のスタイルを体得できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>今年北魏の東西分裂に関係する部分を中心に選読する。なお、南朝の動向については華北の情勢と関係しない限りは取り上げない。授業の進捗については受講生次第なので、明確に計画を示すことはできないが、次のように予定している。</p> <p>1回 『資治通鑑』がいかに読まれてきたかを紹介 2～5回 爾朱榮の台頭(526～529) 6～11回 爾朱榮の殺害(530) 12～18回 高歡の台頭(531～535) 19～25回 兩雄の激突(536～543) 26～29回 高歡の死(544～547) 30回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----											

東洋史学(講読)(2)

[教科書]

プリントしたものを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

一回前の授業で次の授業分のテキストを配布する(B4用紙で1, 2枚)ので、そのなかの担当分について予習し、あらかじめ訳稿を提出すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系71

科目ナンバリング		U-LET24 26750 LJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋史学(講読) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中砂 明德			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>今年、M.S. Saarela, The Early Modern Travels of Manchu: A Script and Its Study in East Asia, 2020を読む。本書は大清帝国のリンガ・フランカである満洲語および満洲文字に対して、漢人、朝鮮人、日本人、そして欧州人がどのようにアプローチしてきたかを追究したものである。満洲語自体のそれぞれの社会における影響力は小さなものだが、満洲語にトライした人々の言語学的アプローチは、それぞれの言語観と密接に関連しており、本書は比較言語・文化論としても読みうるだろう。なお、本授業は東洋史の必修である漢文講読とは異なり、必修ではない。東洋史に進もうとする学生やすでに東洋史に在籍している学生ではなくても、近世のグローバル・ヒストリーに関心を持つ人の受講を歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<p>1 , 正確な英文和訳の力を身に着けることができる。 2 , 言語・文字について多角的に考えることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>イントロダクション(1回) Introduction. A Cultural History of the Manchu Script (2 ~ 3回) Chapter 1. To Follow Fuxi or Kubilai Khan? Written Manchu Before 1644 (4 ~ 6回) Chapter 2. The Beijing Origins of Manchu Language Pedagogy, 1668 ~ 1730 (7 ~ 10回) Chapter 3. Phonology and Manchu in Southern China and Japan, c. 1670 ~ 1716(11 ~ 13回) Chapter 4. Manchu Words and Alphabetical Order in China and Japan, 1683 ~ 1820s (14 ~ 16回) Chapter 5. Leibniz ' s Dream of a Manchu Encyclopedia and Kangxi ' s Mirror, 1673 ~ 1708 (17 ~ 19回) Chapter 6. The Manchu Script and Foreign Sounds from the Qing Court to Korea, 1720s ~ 1770s (20 ~ 22回) Chapter 7. The Invention of a Manchu Alphabet in Saint Petersburg, 1720s ~ 1730s (23 ~ 25回) Chapter 8. The Making of a Manchu Typeface in Paris, 1780s ~ 1810s (26 ~ 28回) Conclusion (29回) フィードバック(30回)</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 東洋史学(講読)(2)へ続く -----											

東洋史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点。

[教科書]

授業で配布する

[参考書等]

(参考書)
特になし

[授業外学修(予習・復習)等]

担当範囲の英文を日本語訳して提出する。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系72

科目ナンバリング		U-LET24 36761 PJ36											
授業科目名 <英訳>		東洋史学(実習) Oriental History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授	吉本 道雅	文学研究科 教授	中砂 明德	文学研究科 教授	高嶋 航
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	実習	使用 言語	日本語		
題目		東洋史学(実習)											
【授業の概要・目的】													
全教員3人によるリレー担当。東洋史学研究のうち、特に中国史の全時代にわたって、先行研究をどのようにして探るか、古文書をどのようにあつかうか、コンピューターを研究にどのように用いるかなど実習させるとともに、自らテーマを選んで「小論文」を発表させる。													
【到達目標】													
東洋史の卒論を書くにあたって基本的なスキルを習得できるようにする。													
【授業計画と内容】													
第1回～第30回： 主に3回生を対象とする。東洋史学専修の全教員が1年間にわたり、東洋史学を研究するにあたってのツール(工具)を教え、学生に実際に使わせる。先行研究の探し方を教えるとともに、優れた先行研究を選んで学生に読ませ、先人の達成したものを学びつつ、自らがおかれた研究状況を考えさせる。 11月頃までにツールの修得や先行研究の選読を終え、自らの問題関心に即した研究テーマを選ばせる。それまでに修得した知識と方法をもとにして、自ら先行研究を探し、あるいは原典の一部を読むことによって、自らの問題に解答を与えさせる。1月中頃にこれを「小論文」として授業で発表させる。 *フィードバック方法は授業中に説明する。													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
平常点と「小論文」の発表を評価する。													
【教科書】													
授業中に指示する													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
毎回提出される課題を準備しておくこと。一年間を通して卒論のテーマを絞り込めるようにつねひごろから関心を持っておくこと。													
(その他(オフィスアワー等))													
授業は各教員の研究室で行う													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 仁子 寿晴 研究員			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム言語哲学史研究									
【授業の概要・目的】											
<p>《授業全体のテーマ》</p> <p>通常のイスラーム思想史ではほとんど顧みられないのだが、或る類の言語哲学形態（なにがしかの意味でアラビア語から立ち上げられる言語哲学）がイスラーム思想の歴史において重要な柱であったと私は思う。昨年度の講義では、ロジェ・アルナルデス（Roger Arnaldez）がイブン・ハズム（西暦1064年歿）を論じた研究書（Grammaire et Theologie chez Ibn Hazm de Cordoue, Paris, 1956）を採り上げた。残念ながらその研究書全体を扱うことが出来なかった。今年度は、やや趣向を変えてフランスにおけるイスラーム思想研究の一つの流れに焦点を当てたい。ロジェ・アルナルデスの研究書は、イブン・ハズム／ザーヒル主義研究の金字塔であるばかりでなく、イスラーム思想を言語思想の方向から読むという点で画期的であった。それを継承するのが、ジャック・ランガド（Jacques Langhade）の研究である（Du Coran a la Philosophie, Damas, 1994）。ランガドがアルナルデスの全面的な指導の下に同書を完成させたのは、同書序に見えるとおり。</p> <p>本講義では、アルナルデスのイブン・ハズム研究書の後半部分とランガドの研究書を扱う。詳細は、授業計画をご覧ください。アルナルデスの研究書は、イスラーム思想研究に重要な示唆を与える点が多々あった。取り分けて日本人にとって重要なのは、井筒俊彦の英文著作群に意味論という方法論を与えるものであったことだ。アルナルデスでは、まだ萌芽的であった意味論が、ランガドでは、徹頭徹尾使い尽くすし方で扱われているのが興味深い。井筒の意味論が如何なるものであったかは、アルナルデス、ランガドのフランス語圏イスラーム思想研究での意味論研究の深まりと比較することなくして十分な評価ができないのではないか。</p> <p>ランガドの研究対象は、クルアーンやハディース（ムハンマドの言行録）の意味論から、アラビア文学、いわゆる宗教諸学を經由して、ファーラービー（西暦950年歿）の言語論に至る。その意味論の探究は、イスラーム文化が言語を如何に認識したかに焦点が当てられる（その分析に意味論が使われる）。現在、イスラーム哲学（ファルサファ）研究は、ほぼ同時代のイスラーム思想（コンテクスト）を無視する形で行われるが、ランガドの研究書は、その状況を打破する格好の素材であろう。</p> <p>なお二つの研究書は仏文であるが、事前に和訳と原文テキストを配布する。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義は「イスラーム言語哲学史研究」と銘打った。イスラーム思想において「言語／アラビア語」を研究対象とするのは、限られた思想家だけでない。或る意味で既にクルアーンにおいてそうした傾向が見えるし、主要な思想家たちはほぼ例外なく言語哲学的な側面を有つ。種々の思想家たちの言語思想に触れることで、イスラーム思想史のかなりの部分が言語思想／言語哲学であることを考察できる。これは、別の言い方をすれば、従来のイスラーム思想史記述に何が欠けていたのかを理解することでもある。</p> <p>本講義は、アルナルデスが扱うイブン・ハズムにおける論理学と文法学と、ジャック・ランガドが扱うファーラービーにおける論理学と文法学が対比される。イスラーム思想界において論理学と文法学の位置づけがさまざまになされるのを目の当たりにすることになる。イスラーム思想において、論理学／文法学の問題がただならぬ問題であることを考察できる。</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[授業計画と内容]

基本的にR・アルナルデス『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』並びにJ・ランガド『クルアーンから哲学へ』の章立てに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい 鋭い質問への対応も含む に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。事前に私の日本語訳を配布するので出来る限り眼を通しておいていただきたい。

- | | | |
|------|----------------------------|--|
| 第1回 | 概説 | フランスのイスラーム思想研究、意味論、井筒俊彦 |
| 第2回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(1) | イブン・ハズムの対人論理(イブン・ハズムの言語哲学概説) |
| 第3回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(2) | ザーヒル法学派とシャーフィイー法学派の対抗 |
| 第4回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(3) | ハディース批判など |
| 第5回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(4) | イブン・ハズム神学(1)イブン・ハズムの論敵たち(ムウタズィラ派とアシュアリー学団) |
| 第6回 | 『コルドバのイブン・ハズムにおける文法と神学』(4) | イブン・ハズム神学(2)イブン・ハズムの批判神学 |
| 第7回 | 『クルアーンから哲学へ』(1) | クルアーンとハディースの言語観/言語の意味論(1) |
| 第8回 | 『クルアーンから哲学へ』(2) | クルアーンとハディースの言語観/言語の意味論(2) |
| 第9回 | 『クルアーンから哲学へ』(3) | アラビア語散文学における言語観/言語の意味論 |
| 第10回 | 『クルアーンから哲学へ』(4) | 法学・神学・神秘主義における言語観/言語の意味論 |
| 第11回 | 『クルアーンから哲学へ』(5) | 文法学・辞書学における言語観/言語の意味論 |
| 第12回 | 『クルアーンから哲学へ』(6) | ファーラービーの言語理論(1)諸言語の形成と諸学における術語形成 |
| 第13回 | 『クルアーンから哲学へ』(7) | ファーラービーの言語理論(2)哲学言語の形成 |
| 第14回 | 『クルアーンから哲学へ』(8) | ファーラービーの言語実践(1)論理学vs.文法学 |
| 第15回 | 『クルアーンから哲学へ』(9) | ファーラービーの言語実践(2)哲学概念の分析 |

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポートのみで評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

[教科書]

使用テキストは、R. Arnaldez, Grammaire et Theologie chez Ibn Hazm de Cordoue: Essai sur la structure et les conditions de la pensee musulman, Paris: Librairie Philosophique J. Vrin, 1956とJ. Langhade, Du Coran a philosophie: La langue arabe et la formation du vocabulaire phisologique de Farabi, Damas: L' Institut Francais d'Etudes Arabes de Damas, 1994.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

西南アジア史学(特殊講義)(3)へ続く

西南アジア史学(特殊講義)(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に仏文テキストと和訳を配布するので講義に備えて読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系74

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	東南アジアのイスラームと中東アラブ地域との関係 Islam in Southeast Asia and its relationship with the Arab Middle East										
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジアは、イスラーム世界の「周縁」に位置しながらも現在では非常に多くのムスリム人口を抱えている。この地域に住む人々のイスラームの信仰はしばしば表層的なものと見做されてきた。しかし、この宗教が東南アジア社会の中で歴史的に重要な役割を果たしてきたことを無視すべきではない。本講義では、東南アジア島嶼部を中心に、前近代から近代までのイスラームの歴史的展開について解説する。特にイスラーム世界の「中心」である中東アラブ地域との関係について、史料に参照しながら検討していく。</p> <p>Southeast Asia, although located on the periphery of the Muslim world, now has a very large Muslim population. The Islamic faith of the inhabitants has often been viewed as superficial. However, we should not ignore the fact that this religion has historically played an important role in Southeast Asian society. In this lecture, I will explain the historical development of Islam from pre-modern to modern times, focusing on the maritime Southeast Asia. In particular, we will examine the relationship with the Arab Middle East, the center of the Muslim world, referring to historical documents.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・前近代から現代までの東南アジアにおけるイスラームの歴史について基礎的な知識を獲得する。 ・東南アジアを事例として、イスラーム世界の中に存在する地域性や多様性、そして中心・周縁の関係について理解する。 <p>Upon the success of completion of this course, students (1) will acquire a basic knowledge of the history of Islam in Southeast Asia from pre-modern times to the present, and (2) will understand the regional characteristics and diversity that exists within the Islamic world, and the relationship between the center and the periphery, using Southeast Asia as a case study.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 東南アジアのイスラームの基礎知識 第2回 西アジアのムスリム商人と東南アジア 第3-4回 東南アジアにおけるイスラーム化の始まり 第5回 ワリ・ソング(九聖人)とジャワのイスラーム 第6-7回 マレー世界の形成と発展 第8回 東南アジア古典文学のなかのイスラーム 第9-10回 アラブ地域との学問ネットワーク 第11-12回 東南アジアからのマッカ巡礼 第13-14回 植民地支配の進展と抵抗運動 第15回 まとめ</p> <p>講義の進み具合や受講者の関心によって内容を変更することがある。</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

- 1: Basic Knowledge of Islam in Southeast Asia
2. West Asian Muslim Traders and Southeast Asia
- 3-4. The Beginning of Islamization in Southeast Asia
5. Wali Songgo (Nine Saints) and Islam in Java
- 6-7 The Formation and Development of the Malay World
- 8 Islam in the Classical Literature of Southeast Asia
- 9-10. Intellectual Network with the Arab region
- 11-12. Pilgrimage to Makkah from Southeast Asia
- 13-14 Progress of Colonial Rule and Resistance Movements
15. Conclusion

The contents may be changed depending on the progress of the lecture and the interests of the students.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加（50点）、レポート（50点）で評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系75

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲葉 穰			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初期イスラーム時代ホラーサーン史の研究 Study on the early Islamic history of Khurasan									
【授業の概要・目的】											
<p>最初期のムスリムの大征服からアッバース朝期にいたるイラン高原およびそれ以東の歴史については20世紀末以降、さまざまに新しい資料が登場し、また多様な宗教運動に関する新たな解釈も提示されてきた。本特殊講義ではそれらの新出史料を紹介するとともに、いわゆるイラン的宗教文化とイスラームの邂逅と衝突について、近年の研究に基づいて考察する。</p> <p>On the various aspects of the Early Islamic Conquests of the Iranian Plateau and further east, several important materials came to be known from the end of the last century, as well as new interpretation of religious movements being presented. In this class, those new materials are to be introduced, and the collision and amalgamation of Iranian religious culture and the Islam are to be considered.</p>											
【到達目標】											
<p>イスラーム教徒の拡大によって一定の領域が平面的に塗りつぶされるという、歴史地図的理解ではなく、より重層的かつモザイク的な政治・経済・文化変容のありかたについての理解を深める。</p> <p>To understand that the expansion of the Islamic polities and cultures were not such as painting flat map in a single color but making more complicated political, economic and cultural mosaic.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週：授業ガイダンス 第2週：イスラーム教徒の大征服と第一次内乱 第3週：第二次内乱と第二次大征服 第4~第6週：新出文書史料から見たムスリムの東方征服 第7~第11週：アッバース革命とイラン的環境 第12~第14週：イラン・イスラーム文化の成立 第15週：まとめ</p> <p>week 1: Guidance week 2: Early Islamic conquest and the First Civil War week 3: The Second Civil War and the Second Conquest weeks 4-6: Islamic conquests in the East seen from the newly discovered documents. weeks 7-11: The Abbasid Revolution and its Iranian milieu. weeks 12-14: Emergence of the Iran-Islamic culture week 15: Wrapping up</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点と期末レポートによって評価を行う。

Evaluation based on the attendance to the classes and short essay at the end of the semester.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

第4週から第14週までは、関連研究書、論文(英語)の会読を行いながら解説するので、予習を必ずしておくこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系76

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相									
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（帝政ロシア支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従って、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週） * 民族史の記述（第3-4週） * ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週） * 独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週） * 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週） * 新しい正史（第13-14週） * まとめ（第15週） 											
なお、参加者の関心次第で、現代ウズベク語またはロシア語の資料を読むことも視野に入れる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

宇山智彦(編著)『中央アジアを知るための60章』(明石書店)ISBN:978-4-7503-3137-9(中央アジア研究の入門書)

小松久男『革命の中央アジア』(東京大学出版会)ISBN:4-13-025027-2(ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」『地域研究論集』Vol. 2, No. 1(1999)』(国立民族学博物館地域研究企画交流センター)(ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」酒井啓子・臼杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』(東京大学出版会)ISBN:4-13-034185-5(ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』(明石書店)ISBN:9784750346373(ウズベキスタン地域研究入門編)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		早稲田大学 文学部 准教授 五十嵐 大介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		マムルーク朝史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>10世紀のイスラーム文明圏は、アッバース朝カリフの弱体化とともに政治的統一性が失われ、各地に軍人政権が登場する、新たな時代を迎える。その中で、軍事奴隷（マムルーク）のクーデターにより成立し、エジプト・シリアという東方アラブ世界（マシュリク）の中心部分を支配したマムルーク朝（1250-1517）は、東方のモンゴル、西方の十字軍といった外敵を退けて軍事的な覇権を確立するとともに、メッカ・メディナの二聖都を保護下に置き、モンゴルによって滅亡したアッバース朝カリフを首都カイロに新たに擁立することで、イスラーム世界の盟主的存在となった。この王朝のもと、エジプト・シリアは経済的繁栄を謳歌するとともに、それ以前からのイスラーム的伝統を受け継ぎながら学術・文化活動が花開いた。本講義は、このようなマムルーク朝史に関する重要なトピックについて、近年の研究動向を踏まえながら、学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>中期イスラーム時代の西アジアの歴史を、イスラーム世界の歴史全体の中に位置づけ、その特徴を理解し、説明できるようになる。 マムルーク朝史を中期イスラーム時代の西アジアの歴史の中に位置づけ、その特徴を理解し、説明できるようになる。 マムルーク朝史研究に関する近年の動向と議論について理解し、説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には以下の授業計画にしたがって進めていくが、内容や順序は固定したものではなく、担当者の方針と受講者の背景や理解に応じて担当者が適切に決める。</p> <p>第1回：イントロダクション（本講義の目的と概要） 第2回：マムルーク朝史とマムルーク朝研究史（概論） 第3回：中期イスラーム時代（1000-1500）の西アジアとマムルーク朝 第4回：アヤロニズムと奴隷軍人論 第5回：マムルーク朝の成立をめぐって 第6回：マムルーク朝体制確立期の諸問題 第7回：政治史から見るマムルーク朝史の時代区分 第8回：「マムルーク関係（Mamluk ties）」をめぐる議論 第9回：「マムルーク化（Mamlukization）」をめぐる議論 第10回：マムルークの家族と女性 第11回：社会経済史から見るマムルーク朝史の時代区分 第12回：地方行政とイクター制 第13回：マムルーク体制とワクフ 第14回：マムルーク社会とワクフ 第15回：まとめ</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートにより評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

アイラ・M・ラピダス 『イスラームの都市社会：中世の社会ネットワーク』（岩波書店，2021年）
ISBN:9784000614689

佐藤次高 『新装版 マムルーク：異教の世界からきたイスラームの支配者たち』（東京大学出版会，
2013年）ISBN:9784130065115

佐藤次高編 『西アジア史1 アラブ（新版世界各国史8）』（山川出版社，2002年）ISBN:
9784634413801

(関連URL)

<https://mamluk.uchicago.edu/msr.html>

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の中で紹介した参考文献を参照すること。関連URLから関連する論文を調べ参照すること。

(その他（オフィスアワー等）)

授業中、わからないことについては積極的な質問を期待する。
メールによる質問も受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系78

科目ナンバリング		U-LET25 36831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代中央アジアのシャリーア法廷裁判研究 A research into shari`a court trials in modern Central Asia									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀から20世紀初頭の中央アジアで作成された法廷文書を史料として、シャリーア法廷裁判のながれ、係争内容について具体的に説明する。</p> <p>This course aims to explain concretely about the process of shari`a court trial and the typical cases settled there by using Central Asian court documents either issued by or submitted to the judges (qadis) during the second half of the 19th and the early 20th centuries.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ シャリーア（イスラーム法）法廷文書の史料としての特性を理解し、自身の研究に活かすことができる。 ・ 史料から歴史的事実を引き出す技術を習得し、自身の研究に活かすことができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) have an adequate knowledge about specific characteristics inherent to Central Asian sharia court documents.</p> <p>(2) gain skills to deduct reliable facts from historical sources.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業ガイダンス、時代背景の説明 第2回 ロシア帝政期中央アジアの司法制度概説 第3回 シャリーア法廷の業務とこれを運営する人々：カーディー、ムフティー、書記 第4回 イスラーム法における裁判 第5回~第7回 裁判文書：訴状、判決文、ファトワー、タズキラ 第8回~第12回 ファトワー文書とそこに引用される法学説の分析 第13回~第14回 各種裁判文書による判決台帳テキストの補完 第15回 授業内容のまとめ、および、授業で扱ったトピックについての討議</p> <p>Week 1: Giving a brief sketch of Central Asian history during the 19th and early 20th centuries Week 2: Explaining legal systems of Central Asia under the domination of Russian Empire Week 3: Qadis, Muftis, scribes: Who ran Central Asian shari`a court? Week 4: The trial within the framework of Islamic law Weeks 5-7: The court documents concerning trials: Mahdar (complaint), Hukm (judgment), Fatwa (legal opinion issued by Muftis), Tadhkira (record of proceedings of a trial) Weeks 8-12: Analyzing the main text of fatwa documents with the citations from legal books found in their margin Weeks 13-14: Reconstructing the process from filing suit to delivery of a judgment in shari`a courts of Russian Turkestan</p>											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

Week 15: Feedback and Discussion

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への取組（50％）、期末レポート（50％）により評価する。

Participation in class (50%)

Final report (50%)

【教科書】

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。

Students will be required to review class notes before attending each lesson.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系79

科目ナンバリング		U-LET25 36840 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習Ⅰ) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史に関する英文文献講読 Reading English text about Western and Southern Asian history									
【授業の概要・目的】											
<p>西南アジア史、イスラーム史の初学者である学部生を対象として、比較的近年に刊行された英語のイスラーム史概説（詳細は「授業計画と内容」を参照）を講読する。イスラーム史に関する基礎的知識を獲得するだけでなく、英語の研究文献においてアラビア語の歴史用語がどのような語に置き換えられているのかを知ることも、本授業の大きな目的の一つである。</p> <p>In this course students read English text on Umayyad and Abbasid history that constitutes a part of 'The New Cambridge History of Islam, vol. 1 (Cambridge University Press, 2010),' the first volume of a multivolume edition of comprehensive history of the Islamicate world. Through reading the text students will gain an adequate knowledge not only about early stages of the development of Muslim history, but also the rules for translating Arabic technical terms into English.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム史に関する海外の研究動向について知り、これを他者に対して説明することができる。 ・イスラーム史に関する英語の研究文献に頻出する専門用語の意味を知り、これに対応するアラビア語その他の現地語における原語を指摘することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) be informed of contemporary research trend in the field of history of the Islamicate world. (2) understand the meaning of technical terms which frequently appear in research literature on the field. 											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・講読対象とする文献は、The New Cambridge History of Islam, vol. 2, Cambridge University Press, 2010.である。 ・各回の授業では、受講者全員がテキストの翻訳を実施する。 <p>Each student will be required to translate the English text into Japanese.</p> <p>Week 1: (講読文献、および、講読箇所の説明と各回の担当者決定) Explaining the rules of this course. Each student will be assigned some part of the text. Weeks 2-4: Gary Leiser, "The Turks in Anatolia before the Ottomans," pp. 301-312. Weeks 5-9: Kate Fleet, "The Rise of the Ottomans," pp. 313-331. Weeks 10-14: Colin Imber, "The Ottoman Empire (Tenth/ Sixteenth Century)," pp. 332-347. Weeks 15-20: Colin Imber, "The Ottoman Empire (Tenth/ Sixteenth Century)," pp. 347-365. Weeks 21-29: Suraiya Faroqi, "The Ottoman Empire: The Age of 'Political Households' (Eleventh-Twelfth/ Seventeenth-Eighteenth Centuries)," pp.366-398. Week 30: (これまで講読した内容についての議論)</p>											
----- 西南アジア史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習 I)(2)

Having discussion on the key issues presented by the authors.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

参加者の受講姿勢と講読担当の内容によって評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

Maribel Fierro (ed.) 『The New Cambridge History of Islam, vol. 2』 (Cambridge University Press, 2010)
Handouts will be shared through Google Drive

【参考書等】

(参考書)

必要な資料は適宜PDFしたうえ、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

【授業外学修(予習・復習)等】

授業では受講生全員が翻訳に参加する。必ず予習をしておくこと。

All Students are required to make an adequate preparation for reading the text so that they can participate in translation work.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET25 36842 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語、アラビア語両語による法学文献講読 Reading Islamic legal texts in both Persian and Arabic									
【授業の概要・目的】											
<p>16世紀のシャーフイー派ウラマーであるIbn Ruzbihanが、ペルシア語で著した統治マニュアル、Suluk al-Mulukを講読する。ペルシア語本文と引用元のアラビア語原文を対照することにより、アラビア語がペルシア語に翻訳される際、アラビア語固有の表現がどのようにペルシア語に移し替えられたのかにつき学習する。</p> <p>In this course students read Suluk al-Muluk, the early 16th century Central Asian governance manual compiled by Ibn Ruzbihan, a Shafiite ulama who fled there to avoid persecution from Shiite Safavids. The work consists of citations from different Arabic lawbooks, which were literally translated into Persian by the author. We can easily find out original Arabic text of each part of the work owing to annotations made by the author about reference sources. Students will read the work in both Persian and Arabic, thereby acquiring knowledge about to what extent Arabic syntax left its traces on translated text.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ペルシア語、および、アラビア語の文法をより深く理解し、歴史的なテキストを正確に読解することができる。 ・イスラーム法学の基本的な術語について正確に理解し、これを他者に説明することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) gain an in-depth understanding about the grammar of both Persian and Arabic and obtain the ability to read historical text written in these languages accurately.</p> <p>(2) have an adequate knowledge about the technical terms used by Islamic jurists.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業の進め方についての説明。講読文献の著者、および、その内容についての解説。</p> <p>第2回~第14回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、ハラージュの徴収方法について述べた箇所の講読。</p> <p>第15回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>第16回~第29回 Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、ハラージュの用途について述べた箇所の講読。</p> <p>第30回 これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。</p> <p>Week 1: Explaining about the author and work Weeks 2-14: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) explaining how to collect kharaj tax Week 15: Feedback and Discussion</p>											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

Weeks 16-29: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) explaining how to use kharaj tax
Week 30: Feedback and Discussion

【履修要件】

アラビア語ないしペルシア語の基礎文法を学習していることが望ましい。

Students are expected to have learned the basic grammar of either Arabic or Persian.

【成績評価の方法・観点】

講読の担当、予習の状況にもとづき、平常点で評価する。

Participation in class and preparation for reading

【教科書】

使用しない
PDF化したファイルを、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、前回の授業時に予告された講読箇所を一通り読んで授業に参加すること。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系81

科目ナンバリング		U-LET25 36844 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>本年度は、マムルーク朝時代後期の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>											
【到達目標】											
アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
アラビア語(フスハー)文法を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。</p> <p>評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に即して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
講読教材および関連資料は配布する。											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系82

科目ナンバリング		U-LET25 36844 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 人文学研究科 准教授 伊藤 隆郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アラビア語古典史料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。</p> <p>前期に引き続き、マムルーク朝時代の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語(フスハー)文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 開講にあたって 授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。</p> <p>第2回-第14回 文献講読 al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。</p> <p>第15回 フィードバック 授業全体に関する質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
<p>アラビア語(フスハー)文法を習得していること。 前期から続けて受講することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価の方法：平常点で評価する。 評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。</p>											
【教科書】											
<p>講読教材および関連資料は配布する。</p>											
----- 西南アジア史学(演習II)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

(その他(オフィスアワー等))

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系83

科目ナンバリング		U-LET25 36850 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		イスラーム地域研究センター 今松 泰 客員准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代トルコ語文法・講読									
【授業の概要・目的】											
現代トルコ語文法の基礎を学び、その後、現代トルコ語で書かれた研究書あるいは論文の講読を行う。 さらに受講者の必要に応じて、アラビア文字表記のトルコ語（オスマン語）文献の講読をおこなう。											
【到達目標】											
現代トルコ語の基礎的な文法事項を確実に習得し、それらの知識を活用してトルコ語の文献を読みこなせるようになることが到達目標である。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 文字と発音 第2回 母音の交替、子音の交替 第3回 数詞、形容詞、複数接尾辞、人称、所有人称接尾辞 第4回 格接尾辞（1） 第5回 格接尾辞（2）、名詞修飾 第6回 代名詞、否定文、疑問文、後置詞 第7回-第9回 動詞 活用 第10回 動詞語幹の派生 第11回 動名詞 第12回 形動詞（分詞、連体形） 第13回 副動詞ほか * 以降の授業では現代トルコ語、さらにはオスマン語のテキストを講読する 第14回-第30回 テキスト講読											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価。 参加者の受講態度と担当した講読の内容をもとに評価する。 文法習得時には、課題を課し、確認のため小テストを行うことがある。											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

文法事項の説明をしている間、予習は特に必要ではないが、毎授業後の復習は必ず行なうこと。
テキスト講読に入ってから、必ず予習を行なうこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系84

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		アラビア語講読									
【授業の概要・目的】											
スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。											
【到達目標】											
アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。											
【授業計画と内容】											
上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、年に1～2点程度の資料を取り上げ、丹念に読み込む訓練を行う。											
以下のように講義を進める。											
1．イントロダクション・テキストの決定											
2～14．テキスト講読											
15．全体のまとめ											
講読の対象としては、以下のような書目が挙げられる。											
これまでに本講義で取り上げてきた主要な書目は以下の通り。											
【用語集】											
クシャイリー「スーフィー派の言表とその意味の書」											
カーシャーニー『スーフィー用語集』											
【伝記】											
ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッバース・アフマド・ティジャーニー」											
タシュキョプリユザーデ(ターシュクブリーザーダ)『オスマン朝のウラマーについての紅いアネモネ』											
イブン・ザイヤート著『スーフィズムの徒へのまなざし』：マグリブの聖者伝											
イブン・アラビー『聖霊』(2018)：アンダルスの聖者伝											
【地理書】											
ナーブルスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』											
【理論書】											
アブー・ハーミド・ガザーリー『宗教諸学の再興』：古典マニュアルの集大成											
アブー・ナジブ・スフラワルディー『修行者たちの作法』：修行論											
アブドゥッラー・ボスネヴィー『叡智の台座注釈』：完全人間論。写本を読む練習を兼ねて											
アフマド・ザルーク『タサウウフの基礎』：理論書											
ジャズリー『信条』：神学書(マグリビー体の練習を兼ねて)											
【詩】											
----- 西南アジア史学(講読)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読)(2)

イブン・アラビー 『欲望の解釈者』：神秘主義詩

1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。

【履修要件】

初級アラビア語を修得していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点によって評価する。

【教科書】

授業中に指示する
テキストは当方で用意し、教室で配布する。

【参考書等】

(参考書)

東長靖 『イスラームとスーフィズム』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0721-4
ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』(創元社) ISBN:978-4-422-21212-8 (豊富な図版が特徴。東長靖監修。)
東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』(山川出版社) ISBN:978-4-634-47475-8 (前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。)
山内昌之・大塚和夫編 『イスラームを学ぶ人のために』(世界思想社)(I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。)
西尾哲夫・東長靖編 『中東・イスラーム世界への30の扉』(ミネルヴァ書房, 2021年) ISBN: 9784623091782 (30のトピックから、現代のイスラーム世界を見る。)
その他、教室で指示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。辞書・参考図書を十分に活用すること。

(その他(オフィスアワー等))

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系85

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ペルシア語講読 Reading Persian historical text									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、ミールホンド（1498年没）が著した著名なペルシア語年代記『Raudat al-Safa』の一部を講読する。講読対象となるのは、アンカラの戦い（1402年）を叙述する箇所である。本授業では、近世のイラン、中央アジアで作成された美文体ペルシア語年代記の読解能力の涵養を目指す。</p> <p>In this course students read some parts of Raudat al-Safa, a famous Persian chronicle compiled by Mirkhwand (d. 1498). The parts that will be read in this course gives the story about the battle of Ankara (1402). The main purpose of the course is to gain the ability to read Persian historical text written in the florid prose style common to almost all chronicles created in pre-modern Iran and Central Asia.</p>											
【到達目標】											
<p>ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。</p> <p>Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 授業ガイダンス、講読作品、および、時代背景の説明 第2回~第14回 同作品中、アンカラの戦いについて叙述する箇所を講読する 第15回 授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答</p> <p>Week 1: Explaining about Mirkhwand and his Raudat al-Safa Weeks 2-14: Reading the parts of Raudat al-Safa concerning the battle of Ankara Week 15: Feedback and Discussion</p>											
【履修要件】											
<p>ペルシア語の基礎文法を習得していること。</p> <p>Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>講読への取組と、事前準備の状況を基準として、平常点により評価する。</p> <p>Participation in class and preparation for reading</p>											
【教科書】											
<p>使用しない 必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。</p>											
----- 西南アジア史学(講読) (2)へ続く -----											

西南アジア史学(講読) (2)

Handouts will be shared through Google Drive

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。目安となる予習時間は、180分程度である。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text (about 180 mins. for each class)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系86

科目ナンバリング		U-LET25 36851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲葉 穰			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古典ペルシア語資料の講読									
[授業の概要・目的]											
13世紀以前に書かれたペルシア語資料を題材に、古典ペルシア語文献の読解方法、分析、活用方法を学ぶことを目的とする。											
[到達目標]											
11世紀、ガズナ朝の書記であったアブー・アルファズル・バイハキーが著した年代記『バイハキーの歴史』を題材に、13世紀以前の古典ペルシア語文献の持つ特徴や、アラビア語文献との関係、あるいはイラン文化とイスラーム文化の接合の有り様について理解することを目的とする。基本的には担当者が和訳と注を作成し、それを出席者全員で共有しつつ、会読を進める。											
[授業計画と内容]											
第一回～二回 『バイハキーの歴史』の背景についての解説 第三回～第十五回 ペルシア語資料の講読（訳注の作成）											
[履修要件]											
近世ペルシア語文法を学んでいること											
[成績評価の方法・観点]											
訳注の準備や発表などを踏まえた平常点80%。期末のレポート20%											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
上記のように出席者に和訳と註釈の準備を求めらるので、予習は必須である。準備なしの出席は認めない。また、自らの担当回を無断で欠席した場合は単位認定しない。											
（その他（オフィスアワー等））											
授業中に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系87

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史学実習 Practice education for Western and Southern Asian history									
【授業の概要・目的】											
<p>学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。</p> <p>The main purpose of this course is to explain students the essential skills necessary to undertake research activity into history of the Islamicate world.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 <p>Upon the successful completion of this course, students will:</p> <p>(1) acquire knowledge about the basic tools required to undertake research activity as dictionaries, encyclopedias, websites, and so on.</p> <p>(2) be able to decide their own topics of research.</p> <p>(3) be able to make a presentation about the contents of a professional paper relating to his/her topic of research.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 後期授業の進め方について 第2回 期末の研究発表に向けての個人指導 第3-5回 日本語論文の内容紹介発表 第6回 期末の研究発表に向けての個人指導 第7-9回 英語論文の内容紹介発表 第10回 期末の研究発表に向けての個人指導 第11-13回 英語論文の内容紹介発表 第14-15回 研究発表</p> <p>Week 1: Explaining the tasks which will be assigned to students in the 2nd semester Week 2: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester Weeks 3-5: Making a presentation about a research essay written in Japanese Weeks 6: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the semester Weeks 7-9: Making a presentation about a research essay written in English Weeks 10: Individual tutoring for a research talk which is scheduled to be carried out at the end of the</p>											
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(実習)(2)

semester

Weeks 11-13: Making a presentation about a research essay written in English

Weeks 14-15: Making a research talk

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。

Participation (50%)

Presentations (50%)

【教科書】

使用しない

必要資料を電子ファイル化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

Students are required to make adequate preparations for each presentation.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系88

科目ナンバリング		U-LET25 36861 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西南アジア史学(実習) West Asian History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 磯貝 健一			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西南アジア史学実習									
【授業の概要・目的】											
学部学生を対象に、イスラーム圏の歴史研究に着手するにあたり、差し当たって必要な基本的知識を説明することを目的とする。また、本授業で得た知識をもとに、受講生が自身の卒業論文の対象となるおおよその時代、地域を決定することも、本授業の目的の一つである。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム圏諸地域の歴史研究に必要な、言語、辞書、事典、工具書、および、主にインターネットを利用した各種文献の検索方法を知り、卒業論文完成に向け、自身の研究に着手することができる。 ・自身の研究テーマの大枠を決定することができる。 ・実際に、自身の研究テーマに関連した専門論文を検索し、その内容についてレジュメ付きで発表することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 各時代、地域を研究するにあたり習得が必要な言語、および、辞書についての説明</p> <p>第2回 日本語および英語による事典、工具書類の説明</p> <p>第3回 インターネットを利用した各種文献の検索方法とその実践</p> <p>第4回～第6回 専門論文の読み方、自身の研究への利用方法、レジュメ化の方法について</p> <p>第7回～第9回 受講生各人が選択した時代、地域について、主に概説書等に基づきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第10回～第12回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が日本語の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p> <p>第13回～第15回 受講生各人が選択した時代、地域について、各々が英語（または、それ以外の外国語）の専門論文を一つ選択し、その内容につきレジュメ付きの発表を実施</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50点）と各人が担当する一人あたり3回の発表の内容（50点）による。平常点は取り組む姿勢（授業時の質疑応答への積極的な参加等）による。											
----- 西南アジア史学(実習)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(実習)(2)

[教科書]

授業の際に必要な資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず前回の復習を行った上で授業に臨むこと。また、各回の発表を行うにあたっては、準備のために十分な時間をとること。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29604 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラブ語(初級)(語学) Arabic				担当者所属・ 職名・氏名		国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 西尾 哲夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		アラビア語の初級									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業は、オンライン形式で実施する。 アラビア語は、西はモロッコから東はイラクまでの中東・北アフリカ諸国で使われており、およそ一億五千万人の母語となっている。またイスラム教(イスラーム)の聖典『コーラン(クルアーン)』はアラビア語で書かれているため、南アジア・東南アジア・中国などのムスリム(イスラム教徒)もアラビア語の知識をもっている。 この授業では、アラビア語の文字の書き方からはじめ、初級程度の文法事項をおしえる。</p>											
【到達目標】											
アラビア文字が読めて書けるようになる。また基本的単語については、弱子音を語根に含む単語についてアラビア語の辞書が引けるようになる。基本的な文章表現について読む・書く・話すができるようになる。											
【授業計画と内容】											
(1) アラビア語についての概説(1回目) (2) アラビア語学習法の概説(1回目) (3) アラビア文字(2回目から5回目) (4) 名詞(3回目) (5) 冠詞(4回目) (6) 名詞の格変化(5回目) (7) 規則複数(6回目) (8) 形容詞の用法(7回目) (9) 疑問文(8回目) (10) 場所の前置詞(9回目) (11) これまでの復習(10回目) (12) 存在文(11回目) (13) 国名とニスバ形容詞(12回目) (14) 数字の書き方と1~10までの数詞(13回目) (15) 不規則複数(1)(14回目) (16) 色の表現(15回目) (17) 動詞完了形(16回目) (18) 辞書の引き方(17回目) (19) 不規則複数(2)(18回目) (20) 11~100までの数詞(19回目) (21) これまでの復習(20回目) (22) 曜日の表現(21回目) (23) 動詞未完形(22回目) (24) 名詞文と動詞文(語順)(23回目) (25) 時間表現(24回目)											
----- アラブ語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

アラブ語（初級）(語学)(2)

- (26) 比較表現(25回目)
- (27) 弱動詞(26回目)
- (28) 動詞派生形(1)(27回目)
- (29) 未来表現(28回目)
- (30) 動詞派生形(2)(29回目)
- (31) これまでの復習と今後の学習方法(30回目)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。出席を重視し、欠席が多い場合には単位を認めない。前期については対面ではなくオンラインで実施する場合は、当該授業資料をダウンロードして学習した場合に出席したものとみなす。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

西尾哲夫 『言葉から文化を読む アラビアンナイトの言語世界』(臨川書店)(とくに現代アラブ世界の言語状況についてふれた第1章)

西尾哲夫・東長靖 『中東・イスラーム世界への30の扉』(ミネルヴァ書房)(中東・イスラーム世界の理解のために必読)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業毎に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系90

科目ナンバリング		U-LET49 39608 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イラン語（初級）（語学） Iranian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山 雅樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イラン語（初級）									
【授業の概要・目的】											
この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。											
【到達目標】											
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。											
【授業計画と内容】											
（前期）											
第1回 イントロダクション、文字											
第2回 発音と表記の注意点											
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞											
第4回 形容詞、エザーフェ、人称代名詞											
第5回 過去形、前置詞											
第6回 現在形、複合動詞											
第7回 現在形、未来形、副詞											
第8回 現在完了形、命令形											
第9回 仮説法、助動詞											
第10回 助動詞、人称代名詞、受動態											
第11回 接続詞											
第12回 関係詞、祈願文、副詞											
第13回 接続詞、複合動詞、過去分詞、現在分詞、その他											
第14回 数詞											
第15回 確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について											
（後期）											
第16～18回 現代文（物語）の読解（1）～（3）											
第19～21回 現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）											
第22～29回 古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）											
第30回 フィードバック（詳細については授業内で指示する）											
前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。 後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。 原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。											
----- イラン語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

イラン語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価（前期と後期の合計で100点）
前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）
後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

各期で4回以上欠席した場合には、単位を認めない。

【教科書】

前期は文法事項をまとめたレジュメを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーをある程度まとめて事前に配布する。

【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。
その他の辞書や文法書など参考文献については、授業内で指示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。
実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系91

科目ナンバリング		U-LET49 19616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
【到達目標】											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

[履修要件]

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

- ・平常点(練習問題への理解度、および理解への積極性、50点)
- ・年度末筆記試験(50点)。

[教科書]

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社)ISBN:978-4393101728

必要に応じて、補助資料(プリント)を配布します。

[参考書等]

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)ISBN:978-4000202220

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系92

科目ナンバリング		U-LET49 39620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
[授業の概要・目的]											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
[到達目標]											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p><前期> 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板実習 - 粘土板を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学の紹介</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判記録を読む</p> <p>第15回 行政文書・裁判記録を読む</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

シュメール語（初級）(語学)(2)

<後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む
- 第12回 シュメール文学作品、王碑文を読む
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

[教科書]

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。
楔形文字の実習の際、粘土やカッターナイフ等を各自用意してもらう必要がある。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系93

科目ナンバリング		U-LET49 19633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(初級)(語学) Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 准教授 小松 久恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語(初級)									
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
前期											
1. 導入【1週】											
2. 文字と発音【4週】											
3. 文法と会話【9週】											
4. 中間試験【1週】											
5. 中間試験のフィードバック【1週】											
後期											
6. 文法と会話【8週】											
7. 文法と絵本・新聞講読【6週】											
8. 期末試験【1週】											
9. 期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
----- ヒンディー語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点（30％）と筆記試験（期末30％、年度末40％）によって評価する。

【教科書】

町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

【参考書等】

（参考書）
辞書については初回の授業で紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系94

科目ナンバリング		U-LET49 39639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号などの聖書テキストの伝統、またラビ文学を含む歴史的な言語文化の変化を概要するとともに、文法の基礎（名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。その際、16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とビニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（初級）（語学）(2)へ続く-----											

ヘブライ語（初級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題や練習問題をする事。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系95

科目ナンバリング		U-LET49 39640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステムと、その文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解については、16 - 17世紀の文法学者の意見にも注目する。											
【到達目標】											
動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含む現代ヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いること。母音記号なしのテキストも多少読めること。											
【授業計画と内容】											
1．名詞文と動詞の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、7．レヴィータ文法（時制と時間）、8．語根 / ギズラー、9．W倒置と北西セム語、10．読解聖書、11．読解ラビ文献、12．読解中世文献、13．読解近代文献、14．読解現代文、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回の授業を要する場合もある。 * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 * * * 学習の区切りで、2~3回の確認クイズをする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、注解レポート（50%）											
-----ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系96

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		山口大学 人文学部 准教授 南雲 泰輔			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		410年のローマ市劫略を再考する									
【授業の概要・目的】											
410年8月24日、「永遠の都」と称された都市ローマは、アラリック率いる西ゴート族によって劫略された。3日間にわたって行なわれたこの劫略は、前390/387年頃のガリア人による劫略ののち、およそ800年間の平和を享受してきた「首都」を震撼せしめた事件であり、帝国各地の同時代人たちにも強い衝撃をもって受け止められた。研究史上ではこの事件をめぐるさまざまな見解が提示されてきたが、現在の学界では、その歴史的意義は必ずしも自明のものとして説明されていない。本講義は、この410年のローマ市劫略について、最新の研究成果を踏まえつつ再考を試みる。											
【到達目標】											
後期ローマ帝国時代の政治史の基本的な展開を理解したうえで、先行研究・史資料・授業内容を踏まえ、自らに固有の視点から、410年のローマ市劫略の歴史的意義を説明することができる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入：弓削達著『永遠のローマ』をめぐる</p> <p>第2回 後期ローマ帝国史と時代区分</p> <p>第3回 「永遠の都」ローマとその歴史</p> <p>第4回 気候変動と帝国の変容</p> <p>第5回 皇帝がいなくなった「首都」</p> <p>第6回 ゲルマン人とローマ人</p> <p>第7回 宮廷の分割と東西帝国の不和</p> <p>第8回 西ゴート王アラリックとイリュリウム問題</p> <p>第9回 406年における「蛮族」のライン渡河</p> <p>第10回 410年のローマ市劫略</p> <p>第11回 拉致されたアウグスタ</p> <p>第12回 キリスト教徒と「異教徒」</p> <p>第13回 「首都」を離れるローマ人</p> <p>第14回 その後の「永遠の都」</p> <p>第15回 総括：「世界」を揺るがした三日間</p>											
<p>授業計画は一部変更になる可能性がある。</p> <p>開講日時は8月下旬の予定である。詳細は、5月上旬にKULASISを通じて連絡する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート(100点)。詳細は授業中に説明する。
なお、成績評価は、到達目標に照らして行なう。

[教科書]

使用しない
資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

弓削達 『永遠のローマ』(講談社(学術文庫)、1991年) ISBN:406158989X (初版:講談社(世界の歴史3)、1976年。)

ブライアン・ワード=パーキンス(南雲泰輔訳) 『ローマ帝国の崩壊〔新装版〕:文明が終わるということ』(白水社、2020年) ISBN:9784560097847

南雲泰輔 『ローマ帝国の東西分裂』(岩波書店、2016年) ISBN:9784000026024

その他、授業中に随時紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:関連文献を読み、授業内容へのイメージを膨らませておく。

復習:授業内容を批判的に復習する。

(その他(オフィスアワー等))

開講日時(8月下旬予定)が採点報告日以降であるため、成績報告は遅れる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 グローバル地域文化学部 教授 水谷 智			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「間-帝国史」の視点からみた日・英帝国における植民地支配と抵抗									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、異なる帝国間の同時代的な関係性を歴史化する「間-帝国史」(trans-imperial history)の視座から、植民地主義とそれへの抵抗の歴史を再考することである。事例として、イギリス帝国と日本帝国およびそれぞれの植民地(特にエジプト・インドと台湾・朝鮮)をとりあげ、議論する。各テーマに2週を割り当て、ディスカッションをとり入れたインタラクティブな授業をおこなう。											
【到達目標】											
帝国史研究および植民地研究についての知識を深めつつ、「間-帝国史」の視点から近代の歴史を問うことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
間-帝国史(trans-imperial history)の理論と方法【第1~2週】											
第1部 間-帝國的協力と植民地統治											
台湾の植民地化の始まりとイギリス人顧問官・W.M. カークウッド【第3~4週】											
朝鮮の保護国化とモデルとしてのイギリスのエジプト支配【第5~6週】											
植民政策の「国際標準」と日本帝国【第7~8週】											
第2部 反植民地主義と間-帝國的緊張											
対立する帝国と独立運動 日本人にとってのインドとイギリス人にとっての朝鮮【第9~10週】											
「反植民地主義的な帝国」(?) 汎アジア主義者と日本の朝鮮統治【第11~12週】											
被支配経験と感情的連帯: インド・朝鮮における抵抗と相互連関【第13~14週】											
総括【第15週】											
【履修要件】											
英語の学術論文を参考文献として提示することがあるが、読む努力をいとわない人が受講者として望ましい。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回の質問・コメントの提出（50％）とディスカッションへの参加（50点）。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<https://kendb.doshisha.ac.jp/profile/ja.1dd6f580b031cf12.html>（「間-帝国史」に関するダウンロード可能な拙論が何本かあります。関心のある人は目を通してみてください。）

[授業外学修（予習・復習）等]

あらかじめ配付された参考文献はできるだけ読む努力をすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系98

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹下 哲文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、セネカ『生の短さについて』を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系99

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹下 哲文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前期に引き続き、セネカ『生の短さについて』を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系100

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア帝国とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下のザカフカス(トランスコーカサス)史を、ジョージア(グルジア)中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とグルジア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>											
【到達目標】											
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2,3回：「半アジア人」</p> <p>第4,5回：露土戦争</p> <p>第6,7回：「ムスリム・グルジア人」の文字と宗教</p> <p>第8,9回：油田とマンガン鉱山</p> <p>第10,11回：マルクス主義サークル</p> <p>第12,13回：義賊と革命</p> <p>第14回：1905年</p> <p>第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系101

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア革命とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>南カフカスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージア(グルジア)の社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南カフカスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>											
【到達目標】											
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>											
【教科書】											
<p>プリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系102

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学部 講師 見瀬 悠			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		外国人の近世フランス史									
【授業の概要・目的】											
<p>近世フランス王国は王権が社団を介して統治する社団編成国家であり、政治的主権者としての国民によって構成される「国民国家」ではなかった。しかし、近世には国王を中心とした国家形成のなかで、国王の支配に服す臣民共同体としてのナシオンと、それに対置される「外国人」の概念が創出され制度化されたことはあまり知られていない。さらに、重商主義的競争を背景とする国家の経済発展への欲求は、技術移転や商業振興のための外国人招聘政策と強く結びつく反面、国家の利益保護のための外国人の排除や、治安維持のための外国人監視、徴税請負契約にもとづく外国人の遺産没収も行われていた。この授業では、近世フランスにおける君主制主権国家の形成と発展を外国人史の観点からとらえなおすことを試みる。それによって、従来の研究で十分に論じられてこなかった、近世フランスにおけるナショナルな帰属のもった意味や重みを再評価することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近世フランス王国の歴史に関する基本的な事項を理解し、説明できるようになる。 ・近世国家の特徴を多角的に説明できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入：先行研究と問題提起 第2回 中世末期における君主制主権国家の形成と外国人 第3回 外国人の法的地位 第4回 外国人の帰化 第5回 重商主義と外国人 第6回 フランス植民地と外国人 : フランス植民地政策 第7回 フランス植民地と外国人 : 排他制と外国人 第8回 外国人の監視と統制：パリの事例を中心に 第9回 外国人遺産取得権の実施 : 司法制度と史料 第10回 外国人遺産取得権の実施 : 対象となった外国人 第11回 外国人遺産取得権の実施 : 外国人の回避戦略 第12回 外国人をめぐる言説 : 臣民共同体からの「自然」な排除 第13回 外国人をめぐる言説 : 啓蒙期のコスモポリタニズムと外国人 第14回 フランス革命と外国人 第15回 総括とフィードバック</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

授業に参加する前提として、近世フランス史の大まかな流れについて概説書などで予習しておくことが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

最終試験（70点）、授業への参加状況（30点）

- ・授業の最後に授業の理解度をはかるためのリアクション・ペーパーを書いてもらうので、その内容により授業への参加状況を判断する。
- ・最終試験（筆記）を実施する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・授業で関連文献を紹介するので、それらを読んで授業内容の理解を深めるよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

質問については、リアクション・ペーパーで受け付けます。メールでの質問も受け付けますので、必要に応じharukamise@osaka-u.ac.jpにメールしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系103

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学 文芸学部 准教授 函師 宣忠			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世ヨーロッパにおける紛争と裁判									
【授業の概要・目的】											
この講義では、中世ヨーロッパの紛争や裁判に関するトピックを取り上げて、史料のあり方に着目しながら「メディアとコミュニケーション」という観点から具体的に検討していく。過去のヨーロッパ社会を生きた人々は、争いや諍いにどのように対処していたのか。あるいはいかに裁かれたのか。法と裁判のあり方（ひいては紛争と紛争解決のあり方）は、その時代の社会の構造や人々の価値観を映し出す。紛争の記録や裁判記録など関連する史料を読み解きながら、当時の社会について理解を深めたい。また現代の日本社会との比較を通じて、私たちが当たり前に取り扱っている現代社会のありようを見つめ直すきっかけをもちたい。											
【到達目標】											
<p>歴史的な知識の習得：中世ヨーロッパ社会の歴史過程について基本的な知識を習得する。</p> <p>歴史学的なまなざしの獲得：歴史的な史料の性質を踏まえて、そこから読み取れる内容について判断できるようになるとともに、歴史を学ぶ意味について考えを深める。</p> <p>法的思考の涵養：法の根本的な価値や考え方を理解し、社会的判断力を培う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン：中世とは何か？</p> <p>第2回 中世における記憶と記録</p> <p>第3回 紛争のなかのヨーロッパ中世</p> <p>第4回 紛争と紛争解決1：神判・宣誓・決闘裁判</p> <p>第5回 紛争と紛争解決2：フェーデと神の平和</p> <p>第6回 紛争と紛争解決3：中世都市と暴力</p> <p>第7回 中世におけるキリスト教と異端</p> <p>第8回 異端審問と権力1：異端審問とは何か？</p> <p>第9回 異端審問と権力2：審問記録の作成・保管・利用</p> <p>第10回 ジャンヌ・ダルク裁判1：ジャンヌ・ダルクとその時代</p> <p>第11回 ジャンヌ・ダルク裁判2：審問記録を読む</p> <p>第12回 近世への展望1：国王裁判と恩赦嘆願</p> <p>第13回 近世への展望2：魔女裁判と拷問による自白</p> <p>第14回 まとめ：中世史とは何か？</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業中の小レポート：50%</p> <p>（各回の授業中に小レポートを課す）</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

期末レポート試験：50%

(講義内容の理解を前提に、所定の論点に関する論述式のレポートを課す)

[教科書]

使用しない

講義内容に関連する資料を授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)

服部良久ほか編 『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世] 』 (ミネルヴァ書房、2006年) ISBN:978-4623045921

上垣豊編 『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』 (ミネルヴァ書房、2020年) ISBN:978-4623087785

各回の講義内容に関連する文献については授業中に適宜紹介する。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予習：概説書などを読み、中世ヨーロッパ史に関する基礎的な知識を身につける。

復習：授業内容を振り返り、講義の要点を整理するとともに、授業中に紹介された文献を可能な限り読み、理解を深める。

(その他 (オフィスアワー等))

毎回の授業終了後に、質問や相談を受けつけます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系104

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		第二次世界大戦再考									
【授業の概要・目的】											
<p>「20世紀史に決定的な切れ目を記した」(イアン・カーショー)と評される第二次世界大戦が、現代世界を強く方向づけたことは論を俟たない。第二次世界大戦を最新の研究水準に則して理解することは、現代世界に生き、それを乗り越えようとする人々にとって、不可欠の基礎的教養といってもよい。容易ならざる課題ではあるが、近年の研究成果を援用して、きわめて複合的な第二次世界大戦=「20世紀ヨーロッパの苦悩に充ちた歴史の震央」(カーショー)の全体像の構築を試みたい。</p>											
【到達目標】											
<p>高度な複合性を特徴とする第二次世界大戦をトータルに把握し、この戦争がその後の現代世界の展開に及ぼした甚大な影響を理解する能力を身に着けること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) 第二次世界大戦の基本的性格 (3回) (2) 前史 (2回) (3) 第二次世界大戦の展開 1939年9月～1941年12月 (3回) (4) 第二次世界大戦の展開 1941年12月～1943年2月 (3回) (5) 第二次世界大戦の展開 1943年2月～1945年8月 (3回) (6) 総括 (1回)</p> <p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期・後期の授業を通年で受講することが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末のレポートによって評価する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない プリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

自分の関心に合わせて、第二次世界大戦関連の書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系105

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中立国の第二次世界大戦：アイルランドに則して									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業を受け、第二次世界大戦というグローバルな動乱の中で中立のスタンスをとることの意味を、アイルランド（厳密には北アイルランドを除くエール）の経験を通じて考える。イギリスとアメリカから執拗な参戦圧力がかけられ、ドイツによる侵攻が懸念され、国内では厳しい検閲の実施を余儀なくされ、物資不足の深刻化に悩まされ、等々、中立を維持するためにアイルランドはさまざまな難問への対処を求められた。それでもなお中立を貫いたことにはいかなる意味があったのか、後期の授業の中核的な問いはこれである。</p>											
【到達目標】											
戦時における中立というスタンスに伴う困難とその可能性を理解する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> (1) 第二次世界大戦の中立国（1回） (2) アイルランド自由国からエールへ（1回） (3) 「緊急事態」の到来と中立宣言（1回） (4) ナチズムとIRA（1回） (5) 侵攻の脅威と参戦圧力（2回） (6) 対アメリカ関係（1回） (6) 「友好的中立」と戦争協力（2回） (7) 検閲国家（2回） (8) 国民生活（1回） (9) 北アイルランドの大戦経験（1回） (10) 戦後の孤立（1回） (11) 総括（1回） 											
授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。											
【履修要件】											
前期の授業を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートによって評価する。											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次の文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

小関隆『アイルランド革命、1913-23：第一次世界大戦と二つの国家の誕生』（岩波書店、2018年）

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系106

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食をめぐる研究の方法 2 明治大正期の食 3 アジア太平洋戦争までの食 4 戦後の食 5 牛乳の歴史学 6 品種改良の歴史学 7 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p> <p>ポール・ロバーツ 『食の終焉』</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系107

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 食糧戦争としての第一次世界大戦 2 有機農業の歴史 3 毒ガスと農薬の歴史 4 トラクターの歴史 5 戦時期の農村女性たち 6 食糧戦争としての第二次世界大戦 7 フィードバック 											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』</p> <p>藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』</p> <p>藤原辰史 『ナチスのキッチン』</p> <p>藤原辰史 『カブラの冬』</p> <p>ポール・ロバーツ 『食の終焉』</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系108

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ローマ帝国論：ファーガス・ミラーの仕事とその影響 I									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、ファーガス・ミラー（1935-2019）の幅広いローマ帝国史研究を出発点として、その研究史上での意義とその後の研究動向に与えたインパクト、さらにはミラーにたいする批判を幅広く紹介しながら、ローマ帝国史研究の重要な問題にたいする理解を深めることを目的とする。具体的には、ローマ共和政の本質、ローマ帝国支配の属州への影響、ローマ皇帝論、ローマ帝国とギリシア人の関係、ローマ帝国下のユダヤ人とオリエント世界、が主要な論点となる。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業を通じて、ローマ帝国史研究に多大な貢献をおこない、いくつかの分野で現在まで継続するトレンドを生み出したファーガス・ミラーの研究の概要を理解し、その意義と問題点を的確に把握できるようになる。さらに、ミラー以降の研究動向を学ぶことで、歴史学における学説史形成のプロセスを理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. ローマ共和政論（5回） 3. ローマ皇帝論（5回） 4. ローマ帝国支配のインパクト（3回） 5. まとめ・フィードバック（1回） 											
【履修要件】											
<p>受講にあたって、古代ギリシア語やラテン語、および西洋古代史に関する知識は前提とはしていない。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>レポート試験をおこなう。講義内容に関するレポート試験をおこない、これに基づいて授業の理解度を評価する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された文献を可能な限り参照し、授業に使用したレジュメなどをしっかりと復習すること。

（その他（オフィスアワー等））

後期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「ローマ帝国論：ファergus・ミラーの仕事とその影響Ⅱ」も連続して受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ローマ帝国論：ファーガス・ミラーの仕事とその影響 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、ファーガス・ミラー（1935-2019）の幅広いローマ帝国史研究を出発点として、その研究史上での意義とその後の研究動向に与えたインパクト、さらにはミラーにたいする批判を幅広く紹介しながら、ローマ帝国史研究の重要な問題にたいする理解を深めることを目的とする。具体的には、ローマ共和政の本質、ローマ帝国支配の属州への影響、ローマ皇帝論、ローマ帝国とギリシア人の関係、ローマ帝国下のユダヤ人とオリエント世界、が主要な論点となる。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業を通じて、ローマ帝国史研究に多大な貢献をおこない、いくつかの分野で現在まで継続するトレンドを生み出したファーガス・ミラーの研究の概要を理解し、その意義と問題点を的確に把握できるようになる。さらに、ミラー以降の研究動向を学ぶことで、歴史学における学説史形成のプロセスを理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. ローマ帝国下のギリシア人（6回） 3. ローマ帝国下のユダヤ人（2回） 4. ローマ帝国とオリエント（2回） 5. 後期ローマ帝国（2回） 6. まとめ・フィードバック（2回） 											
【履修要件】											
<p>受講にあたって、古代ギリシア語やラテン語、および西洋古代史に関する知識は前提とはしていない。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>レポート試験をおこなう。講義内容に関するレポート試験をおこない、これに基づいて授業の理解度を評価する。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された文献を可能な限り参照し、授業に使用したレジュメなどをしっかりと復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

前期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「ローマ帝国論：ファergus・ミラーの仕事とその影響Ⅰ」も連続して受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系110

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世ポーランド・リトアニア共和国の文化と社会 多様性とコミュニケーションの視 点から									
【授業の概要・目的】											
<p>近世のポーランド・リトアニア共和国は、バルト海南岸から黒海北方のステップ地帯にかけて広がる領域を支配する複合的な国家であった。その国土は東西のキリスト教圏の境界線上に位置しており、住民のなかにはキリスト教徒以外の宗教の信徒も含まれていた。16世紀には、宗教改革の波及によって、宗派的な多様性はさらに高まった。宗教的・言語的・階層的に多様なこの地域の人びとは、どのように社会に統合され、共存していたのであろうか。また、彼らのあいだのコミュニケーションは、どのようになされていたのであろうか。この講義では、具体的な事例の考察をとおして、こうした問題を考えるための手がかりを提示したい。</p>											
【到達目標】											
<p>ポーランド・リトアニアにおける具体的な事例に触れることをとおして、ヨーロッパ東部の近世（16・17世紀）の社会と文化について、宗教・言語・コミュニケーションの視点からみた歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような内容を取りあげる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多宗教・多言語国家としてのポーランド・リトアニア共和国（3回） 近世ポーランドの社会成層観（3回） メルクリウシュ・ポルスキ ポーランド語による最初の新聞（3回） 恋文と新聞のあいだ ポーランド王権のメディア戦略（2回） 文芸共和国とポーランド・リトアニア（3回） フィードバック <p>は宗派と言語、 は階層の視点からポーランド・リトアニア共和国内部の多様性と社会的統合について概観する。 ～ はコミュニケーションの視点からヨーロッパ東部の近世の特徴を考える。のフィードバックの時間に本講義の内容にかんする質問を受け付ける。</p>											
【履修要件】											
<p>受講にあたって、言語的・歴史的に特別な知識をもっていることを前提とはしていない。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。 論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

とくに使用しない。授業内容にかかわる資料をオンラインで配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や、ヨーロッパ近世史・東欧史の概説書などで、その都度、確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

後期の同じ曜日・時限に開講される特殊講義「環大西洋革命とポーランド」を連続して受講すると、16～18世紀のポーランド・リトアニアの歴史を通観することができる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET26 36931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		環大西洋革命とポーランド・リトアニア									
【授業の概要・目的】											
<p>18世紀後半は、大西洋をはさんで、アメリカ大陸とヨーロッパ大陸の双方で、政治地図が大きく塗りかえられた時代である。アメリカ大陸では、イギリス領13植民地が本国の支配に武力で抵抗し、アメリカ合衆国として独立した。ヨーロッパ大陸の西方ではフランス革命によって旧体制が崩壊し、東方ではポーランド・リトアニア共和国が周辺の3国によって分割されて消滅した。これらの一連の変化は相互に関連しており、その全体を総称して「環大西洋革命」とも呼ぶ。</p> <p>本講義では、タデウシュ・コシチューシコ（1746～1817）とユゼフ・パヴリコフスキ（1767～1829）という2人の人物の生涯をたどりながら、啓蒙期の知的交流、アメリカ独立革命・フランス革命とポーランド・リトアニアの変革の動き、分割と抵抗が連鎖する経緯を追ってみたい。</p>											
【到達目標】											
この講義をつうじて、ヨーロッパ東部の視点から18世紀後半の一連の変革の歴史的意義を見つめ直し、近世から近代への転換期についての歴史的理解を深めることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような内容を取りあげる。</p> <p>日本人にとっての「コシチューシコ」 『佳人之奇遇』から『天の涯まで』まで 「環大西洋革命」論について 系譜と問題点</p> <p>18世紀のポーランド・リトアニア共和国 社会構造と国制 コシチューシコの生い立ち ヨーロッパ啓蒙の東と西 コシチューシコがフランスで学んだこと コシチューシコの「アメリカ」(1) コシチューシコの「アメリカ」(2) パヴリコフスキの政治思想(1) 人民君主主義 祖国の改革と危機 4年議会から第2次分割へ 「自由・全体・独立」 コシチューシコ蜂起とその帰結 パヴリコフスキの政治思想(2) 王のいない共和政 ナポレオンとコシチューシコ 農奴制と奴隷制 コシチューシコの世界思想 英雄崇拜と神格化 ポーランド人の記憶のなかのコシチューシコ フィードバック(講義の内容についての質問に答える)</p>											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

受講にあたって、言語的・歴史的に特別な知識をもっていることを前提とはしていない。

【成績評価の方法・観点】

学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。
論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。

【教科書】

とくに使用しない。授業内容にかかわる資料をオンラインで配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や、ヨーロッパ近世史・東欧史の概説書などで、その都度、確認しておくとう理解が深まるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

前期の同じ曜日・時限に開講される「近世ポーランド・リトアニア共和国の文化と社会」を併せて受講すると、16～18世紀のポーランド・リトアニア史を通観できる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系112

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習I） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 I（西洋古代史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代史の基本的な歴史的事象と代表的な歴史学的論点を理解することで、自身の研究を遂行できるようになる。学部3回生にあっては、卒業論文の研究テーマの選択や一次史料・二次文献の収集・分析の方法の基礎を習得できる。4回生以上は、自身の卒業論文研究をさらに深化させることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。</p> <p>前期の演習では、古典期・ヘレニズム期の経済史を刷新したAlain Bresson, <i>The Making of the Ancient Greek Economy</i> (2016) を講読する。講読にあたって、一次史料の分析を組み合わせることで、基礎的な歴史の知識を養うと同時に、これまで学界で議論されてきた重要な論点の意義と将来性を見抜く能力を獲得する。各受講生は、この演習での経験をもとに、各自の研究の深化を図ってほしい。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. テクスト講読（13回） 3. まとめ・フィードバック（1回） 											
【履修要件】											
<p>古代ギリシア語やラテン語の読解能力、および西洋古代史の専門的知識は必須の履修要件ではない。西洋古代史の分野で卒業論文を執筆することを考えている学生の出席を授業の前提とする。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。</p>											
----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習I）(2)

[教科書]

使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

配布したテキストの事前の予習が不可欠である。相当の勉強時間が必要になるかもしれないが、この作業を通じて、自身の研究テーマに関する外国語文献を読み通す力と自信を手に入れることができる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系113

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習I） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 I（西洋古代史演習）									
【授業の概要・目的】											
この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。											
【到達目標】											
西洋古代史の基本的な歴史的事象と代表的な歴史学的論点を理解することで、自身の研究を遂行できるようになる。学部3回生にあっては、卒業論文の研究テーマの選択や一次史料・二次文献の収集・分析の方法の基礎を習得できる。4回生以上は、自身の卒業論文研究をさらに深化させることができる。											
【授業計画と内容】											
おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。 後期の演習では、受講生が順に各自の研究報告をおこなう。その際、それぞれのテーマに関係の深い文献を、受講生全員で講読する。											
1. 受講生の研究報告と関連文献の講読（14回） 2. まとめ・フィードバック（1回）											
【履修要件】											
古代ギリシア語やラテン語の読解能力、および西洋古代史の専門的知識は必須の履修要件ではない。西洋古代史の分野で卒業論文を執筆することを考えている学生の出席を授業の前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。											
【教科書】											
使用するテキストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 西洋史学（演習I）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習I）(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

配布したテキストの事前の予習が不可欠である。相当の勉強時間が必要になるかもしれないが、この作業を通じて、自身の研究テーマに関する外国語文献を読み通す力と自信を手に入れることができる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系114

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習II） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		甲南大学 文学部 教授 佐藤 公美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 II （西洋中世史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、ヨーロッパ史に関係する欧米の相対的に新しい英語研究文献を読解し議論する。これにより英語で専門研究文献を精読する力を養うとともに、現在の歴史学方法論、解釈理論、史料論、および研究上の諸論点を学び、理解を深め、ヨーロッパ史についての基本的な知識を身に着ける。本演習では中世史の文献を扱う。</p> <p>今回のテーマは前近代史における「個人」と「行為」である。</p> <p>歴史学の中核には、歴史を動かす主体は何かという問がある。個人か、集団か、構造か。それらの関係はどのようなものか。社会的な動物としての人間の理解にとって、「個」と「個」を超えた「つながり」の諸形態の関係の理解は本質的な重要性を持ち、それゆえに前近代にさかのぼる長期の歴史の中で問われなければならない永遠のテーマである。だがその時私たちの前に立ちはだかるのが「前近代の個人」を考えることは可能なのかという問題だ。</p> <p>今回の演習では、この問いから出発して、最新の研究成果に向き合い、歴史研究の思考力と知識と技術を磨きながら、参加者各自が新たなヨーロッパ史像を考えることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語による西洋史学の専門文献の読み方を習得する。 ・ 授業で扱うテーマを中心に、ヨーロッパ史に関する歴史学研究上の諸論点を理解する。 ・ 専門的な文献と史資料の理解に基づいた議論を行い、適格な説明や問題提起を行うことができるようになる。 ・ 各参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業は総合人間学部、大学院人間・環境学研究科、文学研究科の授業と共通。英語文献精読のテキストとして以下のものを用いる。</p> <p>I. Epurescu-Pascovici, Human Agency in Medieval Society, 1100-1450, The Boydell Press, 2021.</p> <p>近代を「個人の確立」の時代とみなす長い伝統と、史料上の困難のために、中世の個人は長い間集団に埋没した存在であると考えられてきた（あるいは史料の限界がそのように対象を扱うことを強いてきた）。だが本当にそうなのか。この古くて新しい問に切り込む本書の武器は二つある。社会学における行為理論の積極的導入と、近年有力な史料類型として注目されるエゴ・ドキュメントの利用である。これらを手掛かりに、史料に確かな土台を置きつつ理論と実証を統合する方法も探っていく。</p> <p>授業は基本的に以下の計画にそって進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 取り上げる文献の概要と方法論、研究状況についての導入的説明を行う。また中世史を中心にヨ</p>											
----- 西洋史学（演習II）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習II）(2)

ヨーロッパ史研究の基本的な道具を紹介し、授業の進め方の確認と担当の分担を行い、第2回・第3回に用いる導入用文献の配布を行う。

第2回～第3回 行為理論とエゴ・ドキュメントの史料論の概要について主に日本語の導入的文献を読解し議論を行う。

第4回～第14回 文献Human Agency in Medieval Society, 1100-1450の読解・発表・議論を行う。受講生の関心と必要に応じて、適宜補助的な資料の配布と読解、説明、議論を行う。

第15回 フィードバック

【履修要件】

ヨーロッパの歴史や文化に関心を持ち、英語の研究文献を読む意欲を有すること。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

【教科書】

I. Epurescu-Pascovici 『Human Agency in Medieval Society, 1100-1450』（The Boydell Press, 2021）
ISBN:9781783275762（テキストとなる文献の入手については別途指示する。補足資料は随時配布する。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

文献の予習は必須。随時紹介・配布する参考となる文献や資料も読んでおくこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

演習では主体的に関わっただけの成長が得られるので、しっかり文献を読み込み準備をした上で、積極的に臨んでください。また、ぜひとも討論を大切にしてください。意見や疑問をぶつけあい共有することで、一人では決して得られないものにたどり着くことができます。共に学ぶためお互いに貢献し合ってほしいと思います。

質問その他は授業の前後の時間に受け付ける他、以下のアドレスへのメール連絡にも対応します。

hitomi@konan-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系115

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅱ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		甲南大学 文学部 教授 佐藤 公美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習Ⅱ（西洋中世史演習）									
【授業の概要・目的】											
卒業論文の作成を目的として各参加者が自らの研究課題を定め、研究方法を学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・各演習参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。 ・3回生は自らの研究課題を選択をして史資料や文献を収集、分析するとともに、史料の類型や性質を学び、卒業研究へ向けての準備をする。 ・4回生は卒業論文のための研究を深化発展させる力を身に着ける。 											
【授業計画と内容】											
<p>参加者各自が設定したテーマに沿った個人研究の口頭報告と、参加者全員による質疑応答と討論、助言や指導を行う。</p> <p>また、場合によっては研究の技術と知識習得のための共通課題として、史料論の学習や史資料研究の実習にも一部の時間を充てる。</p> <p>総合人間学部、大学院人間・環境学研究科、文学研究科の授業と共通。</p> <p>基本的に以下の計画のそって授業を進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 参加者各自の興味や研究課題を確認し、授業の進め方の確認と発表の割り当てを行う。</p> <p>第2回～14回 受講生各自の研究発表 個人研究発表と質疑応答・討論を行う。受講生数や個々人の研究の現状に応じて、場合によっては史料論の学習、先行研究の紹介と批判的検討、史料の精読などに時間を割り当てる。</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
ヨーロッパの歴史や文化に関心を有すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。											
----- 西洋史学（演習Ⅱ）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習II）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各自の研究テーマに沿って計画的に史料や文献の読み込み、分析、整理、考察を行い、研究を進めておく。また、口頭報告の準備には十分な時間をとること。

（その他（オフィスアワー等））

卒業論文は大学生活（の一部）の集大成であり、世界にたった一つのあなたの研究成果です。演習では、参加者それぞれの「たった一つ」を対話の中でともに育て磨き上げてゆきます。積極的に臨み、議論による共有と創造を楽しんでください。質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系116

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近世史演習）									
【授業の概要・目的】											
近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヨーロッパの近世はしばしば「印刷革命」の時代と呼ばれるが、この時代に生じたメディア環境の変革は、活版印刷術の発明と普及という技術的な次元にとどまらなかった。情報の産出・保存・流通の様式と規模が根本的に変化したのであり、それともなって政治・経済・学術・文化のあり方にも転換が生じた。これらの変化の総体を「情報革命」としてとらえ直し、多角的に論じた次の本をとりあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や考察の特徴について議論する。</p> <p>Paul M. Dover, The Information Revolution in Early Modern Europe, Cambridge University Press: Cambridge, 2021.</p> <p>・</p> <p>参加者全員による討論をつうじて、ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、近世史を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるか、この時代を理解するためにはどのような視点や研究の手法が有効か、といった問題を、さまざまな角度から検討する。</p> <p>イントロダクション（第1回）に続けて、各回（第2回～第15回）に上記の本を読み、内容を理解したうえで、近世ヨーロッパ史にかかわる諸問題について議論する。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【成績評価の方法・観点】

授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いにもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・ 毎回、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・ 議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系117

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅲ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近世史演習）									
【授業の概要・目的】											
<p>近世のヨーロッパ史上の個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。必要に応じて近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献をとりあげて読解し、議論する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。 ・受講生各自が研究発表を行なうことにより、各受講生の専門的な研究を深化させるとともに、発表に説得力をもたせるにはどのような工夫が必要かを考え、実践する経験を積む。 ・関連する英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回以降： 参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う。 また、関連するテーマのについて英語による文献を全員で読解し、議論する。 参加者の研究発表には第2回から偶数回を、文献の読解・議論には第3回から奇数回をあてる予定であるが、受講生の人数によって変更することもありうる。</p> <p>フィードバックについては、授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>研究発表、討論への参加の度合い、授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。</p>											
----- 西洋史学（演習Ⅲ）(2)へ続く -----											

西洋史学（演習Ⅲ）(2)

【教科書】

使用するテキストの入手については、別途指示する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・受講生各自が関心のあるテーマについて個別発表を行なうので、そのための研究を各自で進めておくことが必要である。
- ・文献を読む回については、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
- ・議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系118

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近代史演習）									
[授業の概要・目的]											
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、まとまった分量の欧米の研究文献を精読することを課す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、本演習では、1～2回目にイントロダクションを行ったうえで、3～13回に、大きくまた斬新なテーマを多方面から詳細に扱っている研究文献Linda Colley, <i>The Gun, the Ship and the Pen: Warfare, Constitutions and the Making of the Modern World</i> (Profile Books, 2021)を、分担を決めて読んでいく。そして14～15回で総括をする。こうして、広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
各回の英語文献の予習は必須。内容理解を深めるために、関連する日本語文献も復習を兼ねて適宜読み進めていくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系119

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		西洋史学（演習Ⅳ） European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金澤 周作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習（西洋近代史演習）									
[授業の概要・目的]											
この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、個別の自由発表を行うことを課す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代の諸事象について、歴史的な意識を持って考えられるようになる。 ・歴史的な諸論点を理解することができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティブを持たざるを得ないだろう。そこで、1回のイントロダクションの後、2～14回に、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらい、批判的に議論をし、幅広い地域の諸テーマについて皆で理解を深め、15回目に総括する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
自由報告を行うための準備はおこたりにく進めるものとし、演習での指摘を活かして勉学を継続すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
受講者に対するこの演習の効果は、自分の報告のためにどれだけしっかり準備したか、そして他の報告にどれだけ批判的に介入し質問や提言などの形で貢献したかに左右される。ただ漫然と読んでまとめる、聞いて理解するというだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系120

科目ナンバリング		U-LET26 46947 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(演習Ⅴ) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲 文学研究科 教授 金澤 周作 文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学演習 (卒論演習)									
[授業の概要・目的]											
卒業論文の研究テーマについて、参加者が中間報告をおこない、教員3名と受講者の全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、卒業論文の完成度を高めることを目標とする。西洋史学専修4回生は必修。											
[到達目標]											
卒業論文は、文学部での勉強を集大成するものであり、西洋史学専修においても、専門とする時代や領域の違いはあれ、西洋史学の学問的な達成を示す場と位置づけている。この授業の目的は、重要な意義を持つ卒業論文作成に向けて、質の高い論文となるように、教員の助言と参加者全員の討論を通じて、卒論執筆予定者が学んでいくことである。 何を問題として取り上げるか、何を素材として論じるのか、先行の研究がどのような学説を展開し、それにはどのような問題が含まれているのか、史資料の分析の結果浮かび上がった歴史的諸事実や様相をどのように解釈すべきか、得られた結論はより広い研究領域の文脈の中でどのように位置づけられるか、おおむね以上のような点をしっかりと理解し、史資料の分析を通して独自性を備えた自らの学説を手にすることが、本授業の具体的な目標となる。また、問題設定から分析、そして結論に至るまでの過程を、適切な日本語で表現することも、卒業論文において達成すべき課題の一つであり、そうした能力を、中間報告への教員のコメントを聞きながら、受講生が習得することも、この授業の達成すべき目標である。											
[授業計画と内容]											
授業参加者は、第1～30回の授業の中で原則として2回(前期・後期に各1回)、自身の研究の成果を発表する。前期の発表では、卒業論文の研究テーマを設定した上で、そのテーマに関する研究状況を調査して問題点を抽出し、今後の研究の計画を提示することを課題とする。後期の発表では、自ら設定した研究の課題について、史資料や研究文献を踏まえて検討し考察した内容について報告して、卒業論文の概要を提示することを課題とする。授業参加者には、互いの研究発表を聞くことを通じて西洋史学上の様々な研究テーマに関する理解を深めると同時に、討論に積極的に参加し、各自の研究発表について疑問点や問題点を指摘し合うことによって、卒業論文の質を向上させていくことが求められる。 なお、フィードバックについては、その時間に教員が研究室に待機し、授業内容に関わる質問に来た学生に対して解説する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
成績については、担当する2回(前期・後期の各1回)の研究報告や授業での討論への参加を基に総合的に評価する。卒業論文執筆に向けて、西洋史学研究の基本を習得した上で研究が適切に実践さ											
----- 西洋史学(演習Ⅴ)(2)へ続く -----											

西洋史学(演習Ⅴ)(2)

れ、質の高い論文の執筆へと進んでいるか、その達成度を評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

本演習は、卒業論文の準備のための授業である。したがって、卒業論文の執筆に向けて授業時間外に十分な学習を積み重ねることが、授業に参加する前提である。また、授業後は、自分の報告時はもちろんのこと、他の受講者の報告の時も、授業で指摘された重要点を自らの研究の状況に照らし合わせ取り込み、研究を改訂していく作業が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系121

科目ナンバリング		U-LET26 26950 LJ38									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 富井 眞			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>考古学における理論的な側面と自然科学的分析の側面で大きな成果をあげている、欧州の新石器文化についての概説書を主な対象とする。そして、欧州先史時代研究における考古資料等の認識と解釈の仕方に親しむ作業を通じ、当該文化期の実態に関する考古学的解釈、諸外国の考古学研究研究者との意見交換に備えるべく術語の用法、解釈の枠組みをめぐる理論的背景、を理解する。講義の基本的な枠組みは、テキストの輪読と、いわゆる理論考古学に関する分野の内容を扱う小テスト。夏季学休期間の課題として、英語論文一本の全訳がある。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧州先史考古学の現代的方向性を理解する。 ・ その理解をもとに、海外における古代の物質文化に対する理論的研究に親しみ、考古資料から過去の事象や社会や精神文化を探るのに有効ないくつかの方法について、自身の将来の研究に活かす可能性を意識する。 ・ 考古学の基礎的術語の英語表現を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクション 基本文献や辞書などを紹介し、授業の進め方について説明する。テキスト進行に先立つ第2回以降の英文書籍抜粋プリントを配布する。</p> <p>第2～6回 考古学の基本原理に関する英文書籍の抜粋プリントの精読 専門書たるテキストに先立ち、考古学の基本的な概念・方法に関する英語表現に慣れるために、考古学の概説書から部分抜粋した英文を読み進める。なお、進捗に応じて、回数に多少の前後は生じ得る。</p> <p>第7～29回 テキスト『Europe in the Neolithic』の精読 <その他(オフィス・アワー等)>に示した授業方法にしたがってテキストを精読していく。第20回前後までの前半期は、構文把握を重視した全文訳をする。後半期は、段落の要約を重視したうえで、論理構成を意識しながら、訳していく。</p> <p>第30回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>考古学の基礎的な概念や方法・作業仮説などを理解していないと履修に困難を来すので、履修の前提として、考古学入門書を読破する程度の作業は済ませておくこと。</p>											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

総合評価。 学年末試験。 平常点評価（テキスト訳、術語解説、今回分及び翌週提出分の小テスト、夏季課題）。比重は、 60%で 40%。平常点は、到達目標の達成度に基づいて評価される。

欠席数によっては、夏季論文課題や学年末試験問題の量が多くなる。また、夏季課題未提出の場合には、学年末試験問題の量が多くなる。

なお、講義に関する内容で発言を求められた際に、「わかりません」という回答のように自身の見解を明示しない消極的姿勢は、平常点での大きな減点対象となる。

[教科書]

Alasdair Whittle 『Europe in the Neolithic: The Creation of New Worlds』（Cambridge University Press）
ISBN:0521449200

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 講義で読むところは予読を済ませておくこと。
- ・ 小テストの翌週提出では、内容の理解を反映して日本語として意味の通る訳文を完成させること。
- ・ 夏季学休期間の課題では、英語論文一本を全訳する。

（その他（オフィスアワー等））

テキストの読み進め方は、文章や段落ごとに和訳担当者を決める1人1段落方式を基本とするが、分量・内容に応じて数文単位になることもある。担当者の指名は講義当日におこなう。進行読量は、内容如何で変動幅が大きいですが、1日で5段落程度まで進むこともある。日本語訳だけでなく、内容的に理解できていることが大切なので、テキストの内容について下調べも必要になる。また、述語や重要事項などについて、適宜、調べ物作業を課すことがあるが、その際には、出席者分の資料を用意すること。

そのほか、読解力維持と＜授業の概要・目的＞の理解向上とを目的として、理論考古学や考古遺産などに関する小テストを、隔週程度の頻度でおこなう。小テストは、指定時間内は下線部訳のみだが、下線部を含めた全文訳を翌週までの課題とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系122

科目ナンバリング		U-LET26 26955 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 佐藤 夏樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、Eric V. Meeks, <i>Border Citizens - The Making of Indians, Mexicans, and Anglos in Arizona</i>, (University of Texas Press, 2007)を読む。</p> <p>同書は、米墨国境地帯という特殊な場所において先住民、メキシコ系、白人がどのような社会関係を構築し、また、先住民、メキシコ系、白人という人種、エスニックカテゴリーが作りあげられていったのかを検証している。国境地帯という特殊な地域は近年の歴史研究において注目を集めている。本研究もそうした歴史学の流れにのったものといえる。</p> <p>本授業ではそのうち、著者の問題意識や同書の問題設定を整理したIntroduction及び、研究の結論を整理したConclusionを読み、時間が許す限り他の章を読んでいく。</p> <p>同書の精読を通じて、アメリカ現代史に関する知識を得るだけではなく、歴史学の方法論的な視座、知識を獲得してもらうこと、そして、英語で記された学術書を読む際の読み方を学んでもらうことが、本授業の目的である。</p> <p>授業に際しては、その場で指名して、1段落程度を訳してもらう予定である。従って、予習は毎週必須である。また、毎回授業内で進んだ部分の和訳を課題として提出してもらう予定である。</p> <p>本授業は講読の授業であるが、読解する上で有益であると考えられる背景知識については、英書講読という授業の本旨から外れない範囲で、授業中に適宜解説する時間を設ける。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の学術書を一人でも読み進めることができるようになる。 ・ 英語の学術文献を正確に読解できるようになる。 ・ テキストの歴史的背景を理解する能力を習得する ・ 文章を読解するために必要な道具やそれを用いて調べる方法について習得する 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業ガイダンス 教科書のおおまかな内容や、授業の進め方、予習の仕方、発表の仕方、課題と評価方法等について説明する。</p> <p>第2～13回：教科書の精読。進度は受講者の英語力等によって調整する。 授業は、参加者全員が予習をしていることを前提に、その場で指名されたものが該当箇所を訳すことで進行する。</p> <p>第14回：第13回まで読解してきた内容について、振り返り、学んだ内容を整理する。切りの良いところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てる可能性もある。</p>											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

第15回：フィードバック

フィードバックの内容については、授業中に指示する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回の課題内容、発表内容）

[教科書]

Eric V. Meeks 『Border Citizens the Making of Indians, Mexicans, and Anglos』 (University of Texas Press, 2007) ISBN:978-0-292-71698-8 (担当教員がコピーを配布する。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に予告された範囲の予習を必ず済ませること。
予習の際は、辞書を用いて読んでいくだけでなく、関連する内容について適宜自分で調べながら、教科書に書かれている内容に対する理解を深めつつ読み進めることが望ましい。

(その他（オフィスアワー等）)

履修定員を40名とし、履修人数制限を行うため、履修を希望する者は履修人数制限科目申込期間にKULASISから申し込むこと。他学部聴講（文学研究科生含む）および非正規生の履修は認めない。
なお、以下の条件順で抽選を実施し、履修を許可する。

西洋史学、科学哲学科学史、メディア文化学、現代史学専修所属の4回生

西洋史学、科学哲学科学史、メディア文化学、現代史学専修所属の3回生

歴史基礎文化学系、基礎現代文化学系所属の2回生

- 以外の文学部生

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系123

科目ナンバリング		U-LET26 26955 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 成田 千尋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>Thomas U. Berger, "War, guilt, and world politics after World War II"(Cambridge University Press, 2012)の第五章"The Geopolitics of Remembering and Forgetting in Asia, 1991-2010: Toward and Expanded Model"を読む。本書は第二次世界大戦後のドイツ、オーストリア、日本を事例とし、各国政府が戦争責任といかに向き合ってきたかということ、各地域の政治状況も踏まえつつ、特にその歴史叙述(historical narrative)に焦点を当てて考察するものである。この授業では、1990年代以降の東アジアの事例を分析した第五章を精読する。このことを通じて、英語の読解能力を身に付けるとともに、ヨーロッパとの比較という観点から、アジアにおける歴史認識問題について新たな知見を得ることを目的とする。また、初回の授業で、第一章で扱われている歴史叙述に関する3つのアプローチについて説明し、それまでの章の理解を前提とする部分については、各回において適宜説明を加える。前年度は、韓国に関する部分を中心に読み進めたが、今年度は中国に関する部分を主に扱う。</p>											
【到達目標】											
英語の学術文献を正確に理解するための読解能力を身に付けるとともに、1990年代以降の東アジアにおける歴史認識をめぐる議論について、ドイツ・オーストリアの事例との比較から理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業ガイダンス テキストのおおまかな内容、授業の進め方、予習の仕方、評価方法などについて説明する。</p> <p>第2～14回：文献の精読 第五章の初めから、毎回各受講者が順番に一文ずつ訳読するかたちで読解を進める。</p> <p>第15回：授業まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(80%)、学期末の小レポート(20%)</p> <p>小レポートの内容については、授業中に説明する。</p>											
【教科書】											
<p>Thomas U. Berger 『War, guilt, and world politics after World War II』(Cambridge University Press, 2012) ISBN:9781107021600 担当教員がコピーを配布する。</p>											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の前に、該当範囲のテキストを予習しておくこと。該当範囲は授業中に指定する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系124

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ヤン・アスマンの記憶論を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、おもに西洋史学の分野で必要とされる、学術的なドイツ語の読解能力を養成することを目的とする。利用するテキストは、Jan Assmannによる文化的記憶に関する諸著作のなかでも、特にDas kulturelle Gedächtnis: Schrift, Erinnerung und politische Identität in frühen Hochkulturen (1992)とする。文化的記憶が歴史学全般に大きな影響を及ぼしてすでに久しいが、本授業ではAssmannの著作の講読を通じて、文化的記憶という概念が古代世界にどのように適用できるのかを理解することを目標とする。</p>											
【到達目標】											
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。さらに受講生は、歴史学全般に大きな影響を与えている概念である文化的記憶について、その意義と具体例を学ぶことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回-第13回 テキスト講読</p> <p>第14回 授業中試験</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
ドイツ語の基礎文法を既習していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50パーセント）と授業中試験（50パーセント）で総合的に勘案する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストの指定範囲を事前に予習すること。また、同時にドイツ語文法・語彙の習熟に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系125

科目ナンバリング		U-LET26 26956 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ヤン・アスマンの記憶論を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、おもに西洋史学の分野で必要とされる、学術的なドイツ語の読解能力を養成することを目的とする。利用するテキストは、Jan Assmannによる文化的記憶に関する諸著作のなかでも、特にDas kulturelle Gedächtnis: Schrift, Erinnerung und politische Identität in frühen Hochkulturen (1992)とする。文化的記憶が歴史学全般に大きな影響を及ぼしてすでに久しいが、本授業ではAssmannの著作の講読を通じて、文化的記憶という概念が古代世界にどのように適用できるのかを理解することを目標とする。</p>											
【到達目標】											
<p>本授業を通じて、受講生は学術的なドイツ語に親しみ、必要とされる文法と語彙の基礎知識を獲得することができる。さらに受講生は、歴史学全般に大きな影響を与えている概念である文化的記憶について、その意義と具体例を学ぶことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回-第13回 テキスト講読</p> <p>第14回 授業中試験</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
ドイツ語の基礎文法を既習していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50パーセント）と授業中試験（50パーセント）で総合的に勘案する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストの指定範囲を事前に予習すること。また、同時にドイツ語文法・語彙の習熟に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系126

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の前半（序文、I-IV章）を講読する。											
Nicolas Offenstadt, L'historiographie, PUF: Paris, 2011.											
本書は Que sais-je? シリーズの1冊で、歴史学と歴史叙述にかかわる基本的な諸問題について解説した入門書である。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション											
第2～14回 訳読と解説											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系127

科目ナンバリング		U-LET26 26957 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の後半（V-VIII章）を講読する。											
Nicolas Offenstadt, L'historiographie, PUF: Paris, 2011.											
本書は Que sais-je? シリーズの1冊で、歴史学と歴史叙述にかかわる基本的な諸問題について解説した入門書である。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション											
第2～14回 訳読と解説											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系128

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下の文書をテキストとする予定である。											
(1833) [ゲルツェン「コペルニクス											
の太陽系の分析的解明」]											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション											
第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

歴史基礎文化学系129

科目ナンバリング		U-LET26 26958 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
【授業の概要・目的】											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
【到達目標】											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
【授業計画と内容】											
前期に引き続き、以下の文書をテキストとする予定である。											
(1833) [ゲルツェン「コペルニクス											
の太陽系の分析的解明」]											
受講に際しては、イントロダクションで前期読了分の要約等をおこない、 後期のみ受講者にも支障がないよう配慮する。											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更している可能性もある。 その場合は初回授業までにPandA等で告知する。											
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、火曜4限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系130

科目ナンバリング		U-LET26 26959 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(前期)									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀のイタリアを概観したSimona Colariziの“Storia del Novecento italiano”の第3章：Il crollo dello stato liberale (1919-1922)の冒頭から精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえに、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずでず。</p> <p>本書の文章は明晰なイタリア語散文であり、これを精読することによって伊語テキストの読解力を効率よく培うことができるでしょう。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・平易なイタリア語文献を自力で読解できるようになること。 ・イタリア近現代史の基礎知識を習得すること。 											
【授業計画と内容】											
以下の予定で授業を進めていきます。											
<p>初回(イントロダクション)</p> <p>授業の進め方、小テスト、評価方法について説明します。あわせて使用テキストと講読する章を紹介し、またテキストの一部を実際に読みながらイタリア語の読解にあたって注意すべき点を確認する予定です。</p> <p>2回～14回</p> <p>必要に応じて文法事項を確認しながら読み進めます。文法の知識にしたがって正確に読解することを重視します。重要な専門用語や固有名詞については適宜説明を入れる予定です。</p> <p>15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回提示する簡単な和訳問題(別名小テスト)をもとに評価します。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習がすべての授業です。原文にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに把握することに努めてください。授業終了後は、読み違えた箇所、文法知識の曖昧なところを見直しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系131

科目ナンバリング		U-LET26 26959 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>ルイーダ・サルヴァトレッリのイタリア史の概説書“Sommaro della storia d'Italia”から、第9章<Papato, Angiò, e Signorie>を精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずで</p> <p>また著者サルヴァトレッリの文章はオーソドックスなイタリア語散文であり、これを精読することで伊語テキストの読解力を効率よく身につけることができます。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語文献を自力で読み解くことができるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、小テスト、評価方法について確認をします。あわせて後期の講読テキストについて簡単に説明をします。</p> <p>2回～14回(講読) 文法の知識にしたがって正確にイタリア語を読み進めます。重要な文法事項についてはその都度確認をします。また専門用語や固有名詞については適宜補足説明をする予定です。</p> <p>15回(フィードバック)</p>											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習がすべての授業です。原文にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに理解することを心がけてください。授業終了後は、読み違えた箇所、文法知識の曖昧なところを見直しておきましょう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系132

科目ナンバリング		U-LET26 36961 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(講読) European History				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ポーランド書講読									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。 ・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本を講読する。											
Andrzej Chwalba, Wojciech Harpula, Polska-Rosja. Historia obsesji, obsesja historii, Wydawnictwo Literackie: Krak#243w, 2021.											
本書はポーランドとロシアの関係史のなかから争点となりがちな問題を取りあげて、ポーランドのジャーナリストとポーランド近現代史の専門家が語り合った、対話形式の本である。授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド・ロシア間の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系133

科目ナンバリング		U-LET26 36960 PJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋史学(実習) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲 文学研究科 教授 金澤 周作 文学研究科 准教授 藤井 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		西洋史学(実習)									
【授業の概要・目的】											
この授業は、学生が西洋史の卒業論文を作成するために必要となる研究能力を、知識と技術の両面から身につけることを目的に開講する。具体的な史料(外国語)の分析法、研究情報の収集手順から西洋史研究の方法論や史学思想、さらには論文における議論の作法まで、具体的に学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋史学の基本的な問題視角を理解することができる。 ・ 研究をはじめするために必要なツールや情報源の基礎的な活用方法を習得できる。 											
【授業計画と内容】											
授業は、専任教員3名のリレー方式で実施される。具体的な内容は、以下の通りである。それぞれイントロダクションと総括の回を含めて9~10回になる(全30回)。											
(1)図書館で西洋史の専門書や学術雑誌に触れることから始めて、研究の具体的な手順や論文の構成、議論のあり方などを学ぶ。											
(2)歴史学(または隣接分野)でしばしば用いられる基本的な概念や考え方について、テキストを読みながら学ぶ。											
(3)実証研究の入門として、外国語で書かれた史料に触れ、そこからどのようなことが読み取れるかを考える。											
(4)研究文献や史料に関する情報収集の方法をマスターすることをめざす。雑誌や文献要覧など冊子体の情報から、web上の様々な専門分野別の史資料サイトまで、実際に自分の仮の研究テーマとキーワードを設定して調査、検索し、有益な文献情報リストを一定のフォームに従って作成する。											
----- 西洋史学(実習)(2)へ続く -----											

西洋史学(実習)(2)

【履修要件】

西洋史学専修学生の必修科目で、3回生で受講することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

到達目標に掲げた点の達成度を評価する。研究視角から具体的な作業の手続きや技術に至るまで一渡り学習することで、京都大学の学士課程に相応しい西洋史学研究の基礎を習得しているかどうか、成績評価の観点となる。

【教科書】

金澤周作監修 『論点・西洋史学』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623087792

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

この授業で習得する知識・技術は、学生各人の卒論研究に直結する。授業課題の研究論文・研究書を予習として読み、報告やレポート提出をこなすだけでなく、この授業で学んだ方法を復習しながら自身の研究に適用し、4回生の卒論演習での報告を目標に、自らの専門研究を進めることが重要である。

（その他（オフィスアワー等））

この授業では、課題をこなすだけでなく、授業時において他の受講者と積極的に議論する姿勢が求められる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系134

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		武寧王陵の考古学									
【授業の概要・目的】											
1971年に発見された武寧王陵は、百済考古学のみならず、東アジアの考古学研究に少なからずの影響を与えてきた。本講義では、武寧王陵とその出土遺物について個別に検討する中で、その歴史的意義について検討をおこなう。											
【到達目標】											
東アジア考古学における武寧王陵の歴史的意味について学ぶ。 東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角の基礎を身につける。											
【授業計画と内容】											
おおむね以下のような順序で講義を進める											
第1回 武寧王陵を学ぶ意味											
第2回 百済史の中における武寧王											
第3回 武寧王陵が発見されるまで											
第4回 武寧王陵の墓制・葬制(1) - 出土状況と墓誌の分析を通して											
第5回 武寧王陵の墓制・葬制(2) - 夫婦合葬の伝統をめぐって											
第6回 横穴式セン室の出現とその影響(1)											
第7回 横穴式セン室の出現とその影響(2)											
第8回 木棺をめぐる諸問題(1)											
第9回 木棺をめぐる諸問題(2)											
第10回 飾履をめぐる諸問題											
第11回 冠をめぐる諸問題											
第12回 耳飾をめぐる諸問題											
第13回 陶磁器をめぐる諸問題											
第14回 東アジア世界からみた武寧王陵											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価(小レポートなど)約30%、学期末レポート 約70%											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の講義で紹介する論文を是非よんで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系135

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朝鮮古蹟調査事業の展開と「日本」考古学史									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮半島における近代的考古学の調査研究は、20世紀の初めから敗戦を迎えるまで、日本人研究者によって進められた。そしてその調査研究成果は、日本「内地」における考古学にも少なからずの影響を与えている。本講義では、調査に参加した研究者の動向を中心として朝鮮古蹟調査事業を批判的に検討していく中で、「日本」考古学史について受講者と共に考えていきたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮考古学の歴史についての基本的な知識を身につける ・東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究するための視角を身につける ・朝鮮考古学史の諸問題を学んだことを通して、受講者が扱う地域・時代における学史研究についての理解を深めていくことができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>おおむね以下のとおり講義をおこなう。</p> <p>第1回 朝鮮考古学史を学ぶ意味 第2回 朝鮮半島の地理的・歴史的環境 第3回 朝鮮総督府古蹟調査事業の概要(1) 第4回 朝鮮総督府古蹟調査事業の概要(2) 第5回 濱田耕作・梅原末治による調査研究(1) 1918年度調査 第6回 濱田耕作・梅原末治による調査研究(2) 1920年度調査 第7回 濱田耕作・梅原末治による調査研究(3) 1921年度調査 第8回 今西龍による調査研究(1) 1906年度・1907年度調査 第9回 今西龍による調査研究(2) 1913年度・1914年度調査 第10回 今西龍による調査研究(3) 1916年度・1917年度調査 第11回 鳥居龍蔵による調査研究(1) 第12回 鳥居龍蔵による調査研究(2) 第13回 有光教一による調査研究 第14回 戦後の日本における朝鮮考古学研究 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
講義で紹介する遺跡・遺物や参考文献について、できる限り目を通して理解を深めて欲しい。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

レポート試験70%
平常点評価30%(講義についての小レポートなど)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小方 登			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理情報処理の考古学への応用									
【授業の概要・目的】											
<p>地形データ（デジタル標高モデル：DEM）や空中写真・衛星画像の遺跡探査や歴史景観復原などへの応用事例を取り上げ、説明する。このような研究を外国で行う場合、地形図や空中写真等のデータの入手性に制約されがちであったが、近年はグローバルなデータも利用可能となったので、中国やシルクロード地域を対象地域として重点的に取り上げる。DEMや衛星画像を分析するため、地理情報システム（GIS）としてQGISを利用する。</p>											
【到達目標】											
<p>地形データ（DEM）や空中写真・衛星画像の遺跡探査や歴史景観復原などへの応用について、理解を増進することを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1) 1995年に公開された米国偵察衛星写真（CORONA衛星写真）の仕様について説明し、応用可能性を検討する。この衛星写真は高解像度であるほか、撮影時期が古い（1960年代）という点でも利用価値の高いものである。CORONA衛星写真は幾何的歪みが大きいので、適切な幾何補正が必要である。QGISのジオリファレンス機能を利用して幾何補正の方法を実習する。（1, 2, 3回）</p> <p>2) 中東地域に典型的にみられるテル（遺丘）の景観について、CORONA衛星写真を利用した既往研究を紹介し、検討する。（4回）</p> <p>3) 中央アジア乾燥地域のオアシスに見られる都市・集落遺跡を検討する。まず、中国・内モンゴル自治区のエチナ・オアシス（漢代の居延）について、辺塞や屯田の分布と形態を考察する。都市・軍事施設や灌漑施設（用水路）の痕跡のあり方について考察する。（5, 6回）</p> <p>4) 次に、タリム盆地東南部の現オアシス（且末およびミーラン）に隣接して存在する集落遺跡について、衛星画像から判読される用水路網の復原を通して考察する。（7, 8回）</p> <p>5) また、ウズベキスタン・サマルカンド地域における都市・集落遺跡の分布や形態を論ずる。これらには、テパ（遺丘）の形態を取るものと、城壁などの囲郭の形態を取るものがある。（9, 10回）</p> <p>6) 地中海地域におけるフェニキア・ポエニ（カルタゴ）文化に基づく都市の立地とプランについて検討する。これらは海上貿易に基礎をおいていたので、立地のポイントは港湾にあった。これらの都市が、ローマ帝国にどのように引き継がれたかについても考察する。（11, 12回）</p> <p>7) 渤海国の都城などを事例として、7～9世紀の東アジア都城に見られる共通の特徴（日本の平城京・平安京に見られる条坊制など）について検討する。（13, 14回）</p> <p>この授業は実習ではないが、衛星画像やDEMを用いるにあたり、QGISなど無料で利用できるGISソフトウェアの使用法について紹介する。</p> <p>フィードバックについて フィードバック期間あるいはそれ以外でも、授業内容に関する質問等があれば、随時受け付ける。以下に記したオフィスアワー以外の面談は、事前にメール等で日時を決めることが望ましいが、気軽に相談してほしい。</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート試験による（80％）。これ以外に随時小テストを行う（20％）。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/> (小方研究室ホームページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

メディアセンターの端末や自宅のパソコンにおいて，Google Earthの閲覧などを通して，授業で扱う内容を復習すること。GISソフトウェアQGIS，地形データSRTM/AW3D30，LANDSAT衛星画像は，インターネット上で無料で利用できる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー：月曜11:00～12:30

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系137

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡村 秀典			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古鏡の研究									
【授業の概要・目的】											
中国には三千年の漢字文化があり、伝世文献のほか、甲骨・金文・簡牘などの出土文字資料が近年ますます増加している。本講義では、そうした史資料を参考にしながら、銅鏡を中心に古代に生きた人間の営みを考える。											
【到達目標】											
考古資料の外形とその変化を追求するだけでなく、中国古代のさまざまな史資料を参考にしながら、それを作り使った人間の営みを探求し、人文学としての考古学を展望する。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。主に中国古代の銅鏡について概説し、考古学から古代文化とその中世への展開を考える。											
第1回 本講義の視座と問題意識											
第2回 銅鏡のはじまり											
第3回 銅鏡の鑄造											
第4回 銅礼器と銅鏡											
第5回 鏡はどのように使われたのか											
第6回 銅鏡の型式学的研究法											
第7回 戦国時代の銅鏡											
第8回 前漢時代の銅鏡											
第9回 前漢鏡の銘文(1) 楚辞の影響											
第10回 前漢鏡の銘文(2) 陰陽五行思想											
第11回 前漢鏡の銘文(3) 家の観念											
第12回 前漢鏡の紋様 四神の出現											
第13回 王莽鏡論											
第14回 まとめ - 中国古代の銅鏡(1)											
第15回 まとめ - 中国古代の銅鏡(2)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
【教科書】											
使用しない											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

岡村秀典 『鏡が語る古代史』 (岩波新書、2017年) ISBN:4004316642

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から歴史だけでなく、思想文化にも関心を持ち、異文化に対する理解を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系138

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡村 秀典			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古鏡の研究									
【授業の概要・目的】											
中国には三千年の漢字文化があり、伝世文献のほか、甲骨・金文・簡牘などの出土文字資料が近年ますます増加している。本講義では、そうした史資料を参考にしながら、銅鏡を中心に古代に生きた人間の営みを考える。											
【到達目標】											
考古資料の外形とその変化を追求するだけでなく、中国古代のさまざまな史資料を参考にしながら、それを作り使った人間の営みを探求し、人文学としての考古学を展望する。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。主に中国古代の銅鏡について概説し、考古学から古代文化とその中世への展開を考える。											
第1回 本講義の視座と問題意識											
第2回 マンネリズムに陥る「尚方」											
第3回 「青蓋」の志 淮派の形成											
第4回 「名工杜氏」伝											
第5回 自立する鏡工たち											
第6回 民間に題材を求めた画像鏡 呉派の成立											
第7回 淮派の受容した画像鏡											
第8回 四川における広漢派の成立											
第9回 画紋帯神獣鏡の出現											
第10回 うつろう鏡工たち 東方にひろがる神獣鏡											
第11回 会稽派の登場											
第12回 呉の神獣鏡											
第13回 魏晋の鏡											
第14回 まとめ - 中国古代の銅鏡 (3)											
第15回 まとめ - 中国古代の銅鏡 (4)											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

岡村秀典 『鏡が語る古代史』 (岩波新書、2017年) ISBN:4004316642

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から歴史だけでなく、思想文化にも関心をもち、異文化に対する理解を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系139

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		農学研究科 教授 杉山 淳司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		わが国固有の用材観や木の文化に触れながら、木材の仕組みや分析により得られる情報について学習する。									
【授業の概要・目的】											
<p>木材は樹木として長い間自らの体を支え、また材として我々の文化や生活を支えてきた。今日では環境保全はもとより、持続可能な資源としてもますます注目が高まっている。本講義では、木材の多様かつ丈夫な仕組みを歴史的、考古的な木製品や建築物と関連させて学習する。また、ルーペや顕微鏡による木材識別実習や大学周辺の野外樹木識別実習や建造物見学(合せて3ないし4回)などを通して、木材そのものや木製品調査に必要な手法を学習する。</p>											
【到達目標】											
<p>木材の形成、物性、利用について概観することで、われわれの用材観を考察する基礎的な知識を養う。 木材組織と樹木観察実習を通して、標準的な木材に関する知識やそれらの識別法について自主的に学べる能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と進め方。 2. 木材とは 3. 木材科学の基礎 4. 樹木のみわけかた(吉田構内) 5. 樹木のみわけかた(吉田構内) 6. 樹木のみわけかた(吉田山) 7. 針葉樹材・広葉樹材の巨視的特徴 8. 針葉樹材・広葉樹材の解剖学的特徴 9. 樹種識別の手法のいろいろ 10. 年輪年代・年輪気候のはなし 11. 歴史的建造物の木材 12. 遺跡から出土する木材 13. 楽器や工芸に見る木材 14. 木材のデータベースとその利活用について 15. フィードバック(質問事項に対する回答) <p>それぞれのトピックで完結するのではなく相互に関連させながら講義をすすめる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への積極性 20点）、小レポート（2回, 20点x2）ならびに期末レポート（40点）により評価するが、独自の工夫がみられるものについては高い点を与える。

[教科書]

対面授業の場合：

テキストについては印刷物等を適宜配布する。また、実習に必要な観察用サンプルやルーペを配布する。

対面授業ができない場合：

Pandaシステムにテキストを掲示する。また、実習用のキットについては受け取り日時と場所を指定するか、郵送とする。

[参考書等]

（参考書）

自習用参考書として：

林 将之 葉で見分ける樹木 小学館
佐竹他 フィールド版 日本の野生植物 木本、平凡社
佐伯 浩 この木なんの木 海青社
尼川大録、長田武正、検索入門 樹木 、樹木 、保育社
中川重年 検索入門 針葉樹、保育社
山崎隆之 一度は拝したい京都の仏像 学研新書
鈴木三男 日本人と木の文化、八坂書房
小原二郎 木の文化 鹿島出版会

[授業外学修（予習・復習）等]

適宜講義中に指示する。具体的には：

- 1) 身の回りの木製品の観察とその報告。
- 2) 樹木の観察とその報告。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系140

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		理学研究科 教授 中川 尚史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		考古学(特殊講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>「自然におけるヒトの位置」を知るために、野生霊長類，とくに系統的に人類にもっとも近縁な大型類人猿の社会，生態，行動に関する知見を中心に，形質人類学，生態人類学，比較認知科学の知見を交えて，人類の進化史を検討する。講義の中心的テーマは、社会の進化、人間家族の起源、性の進化、文化の起源、脳と心の進化、攻撃性、協力行動、言語の起源などについて解説し、最近論議されている説を検討する。</p>											
【到達目標】											
人類の社会、生態、行動面での特徴を、その進化過程とともに理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.日本の霊長類学の誕生と人類進化論研究室、霊長類の分類とヒトの位置、人類進化論概説～導入部として 2.社会構造概説、父系社会とその進化(その1) 3.父系社会とその進化(その2)、重層社会とその進化 4.性行動とその進化 5.大脳化を支えた食 6.社会的知性と大脳化の社会仮説(その1) 7.社会的知性と大脳化の社会仮説(その2) 8.共感性と心の理論 9.道具使用と社会行動の文化(その1) 10.道具使用と社会行動の文化(その2) 11.狩猟と肉食，集団間闘争 12.互惠性と食物分配，協力行動，向社会的行動 13.言語の起源(その1) 14.言語の起源(その2) 15.フィードバック 											
【履修要件】											
人類学第2部も受講することが望ましい。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

絶対評価（素点）

平常点（30点）、および学期末に1回のみ行うレポート試験（70点）により評価します。レポート試験は、レポートの課題に則していなければ、単位は認められませんので注意してください。

[教科書]

使用しない

授業中にプリントを配布し、それに沿って行います。また、映像資料も極力使用して、フィールド観察から得られた結果であることを体感してもらえますようにします。

[参考書等]

（参考書）

中川尚史 『"ふつう"のサルが語るヒトの起源と進化』（ぷねうま舎）ISBN:978-4-906791-51-4

西田利貞 『人間性はどこから来たか』（京都大学学術出版会）ISBN:4876980799

山極壽一 『人類進化論 霊長類学からの展開』（裳華房）ISBN:9784785352172

R. ボイド・JB. シルク 『ヒトはどのように進化してきたか』（ミネルヴァ書房）ISBN:9784623058983

河合香史（編著） 『集団-人類社会の進化』（京都大学学術出版会）ISBN:9784876989379

中川尚史・友永雅己・山極壽一 『日本のサル学のアした：霊長類研究という「人間学」の可能性』（京都通信社）ISBN:9784903473529

西田利貞・上原重男（編） 『霊長類学を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4582546234

中川尚史 『サバンナを駆けるサル』（京都大学学術出版会）ISBN:9780195171334

中川尚史 『食べる速さの生態学』（京都大学学術出版会）ISBN:4876983046

中川尚史 『サルの食卓-採食生態学入門』（平凡社）ISBN:4582546234

井上英治・中川尚史・南正人 『野生動物の行動観察法：実践 日本の哺乳類学』（東京大学出版会）ISBN:9784130622233

辻大和・中川尚史 『日本のサル 哺乳類学としてのニホンザル研究』（東京大学出版会）ISBN:9784130602334

上記以外は授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

復習としては、講義ノートの整理しながら、授業中に分からなかった点をクリアにし、次の時間に質問するなり、自分で調べるなりして解決するよう努めること。予習としては、同じテーマが続く授業の場合に、前回の内容を思い出しておくことが肝要です。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に指定しません。メールでアポをとったあと研究室に来てください。メールアドレスは、
nakagawa@jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系141

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		理学研究科 教授 中務 真人			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人類学 第2部									
【授業の概要・目的】											
人間は他の生物と異なり、過去、現在、未来を認識することができる。しかし、諸君は生物としての人間（ヒト）の成り立ちについてどれほど正確な知識を持っているだろうか。この講義を通じて、ヒトの進化についての理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの進化に関する基本事項を理解し、ヒトの特性の進化過程を正確に説明できる。 ・課題（レポート等）に対して積極的に取り組む能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の課題について講義を行う予定である。ただし授業理解の程度、最新の研究状況の進展などに対応してテーマの区切り・回数を変えることがある。</p> <p>授業 15回（フィードバック含む）・定期試験</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 化石による進化研究 (2) 動物界におけるヒトの位置 (3) 霊長類の誕生、暁新世プレシアダピス類 (4) 始新世曲鼻類の進化 (5) 始新世・漸新世の真猿類 (6) 前期中新世類人猿 (7) 中期・後期中新世類人猿 (8) 初期猿人 (9) アウストラロピテクス類 (10) 後期鮮新世・前期更新世の人類進化 (11) 中期更新世とヒト的特徴の進化 (12) 後期更新世化石人類 (13) 後期更新世文化 (14) 汎地球種としてのヒト (15) フィードバック 各自学習内容を点検し、質問のある学生は時間内に理学2号館 3 1 1 に来ること。 											
【履修要件】											
人類学第1部もあわせて履修することが望ましい。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期途中に課すレポート（30点）と学期末の試験（70点）により評価する。試験の形態は新型コロナウイルス流行の状況を見て、授業中に連絡する。

[教科書]

使用しない。
適宜資料を配付する。

[参考書等]

（参考書）

ロバート・ポイド他 『ヒトはどのように進化してきたか』（ミネルヴァ書房）ISBN:978-4-623-05898-3

[授業外学修（予習・復習）等]

基本的に復習につとめることが重要である。予習が必要な場合は、前回の講義において指示する。復習のため、講義の概要、参考文献の題目を各回に配布するので、それを用いて理解度を確認すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーは特に定めない。質問等は講義後に尋ねること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系142

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鏡と国家形成									
【授業の概要・目的】											
<p>弥生・古墳時代の銅鏡にたいして、研究者の関心はもちろん、世間の関心も高い。三角縁神獣鏡が出土すると、新聞などで大きく報道される。テレビや一般書などにおいて当該期の鏡は、巫女的な人物やスピリチュアルなイメージで理解される傾向が強いが、実際に鏡は政治性の高い器物であった。本講義では、弥生時代から古墳時代にいたるまでの銅鏡をとりあげ、国家形成理論のひとつ「権力資源論」を導きの糸にしなが、ら、「イデオロギー」「経済」「政治」「領域」「社会関係」の側面から、鏡が日本列島の国家形成に決定的な役割をはたしたことを明示する。</p>											
【到達目標】											
<p>銅鏡という特定の器物から国家形成という広大な歴史事象に迫るための、考古学的な手法や手順を理解できるようになる。器物がはたす社会的役割への感性を涵養できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. イントロダクション【1週】 2. 弥生～古墳時代の鏡【4週】 甕棺墓、中国鏡、青銅器、前方後円墳、三角縁神獣鏡、倭製鏡 3. 国家形成の論理【1週】 4. 鏡とイデオロギー操作【2週】 凶像、沖ノ島、副葬/非副葬鏡 5. 鏡の配布【3週】 邪馬台国、倭王権、同範鏡論、威信財論 6. 鏡の保有【2週】 首長墓系譜、人骨 7. 鏡と国家形成【2週】 倭国、国家形成、都市国家/領域国家 * 計15週実施する。 * 事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

弥生～古墳時代に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系143

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古墳と政治秩序									
【授業の概要・目的】											
<p>ここしばらく古墳が世間で人気を博している。その巨大さと前方後円墳を頂点とする複数の墳形、そして広域分布するありようを手がかりに、築造期である古墳時代の政治構造を究明する研究が推進されてきた。</p> <p>本講義では、「古墳と政治秩序」に関する既往の研究の到達点と問題点を承けて、最新のデータと編年案に即して、古墳の階層構成 被葬者像 古墳の機能的役割 などに焦点をあてつつ、古墳の政治史的意義の解明につとめる。</p>											
【到達目標】											
<p>古墳は墳形・付帯施設・埋葬施設・副葬品・外表施設などからなる複合体であり、しかも古墳は局地・小地域・地域・列島広域でさまざまな存在様態を示す。このような複雑な古墳のありようを認識するための分析視点を学びとり、歴史的な問題に迫る学問的方法を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. イントロダクション【1週】</p> <p>2. 古墳と政治史【4週】 前方後円墳体制、前方後円墳秩序、前方後円墳国家、首長墓系譜、在地首長制論</p> <p>3. 大和・河内の巨大前方後円墳群【2週】 古市古墳群、百舌鳥古墳群、大和古墳群、佐紀盾列古墳群、馬見古墳群</p> <p>4. 畿内の大型古墳群【2週】 玉手山古墳群、弁天山古墳群、向日丘陵古墳群</p> <p>5. 畿内の階層構成【1週】</p> <p>6. 各地の階層構成【3週】 東国の古墳、西国の古墳</p> <p>7. 古墳と政治秩序【2週】 国造、県主、帝紀、国家形成</p> <p>* 計15週実施する。 * 事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより成績を評価する。											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系144

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都橘大学 文学部 准教授 中久保 辰夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代の地域社会と東アジア交流									
【授業の概要・目的】											
<p>日本列島各地の古代社会は、中国大陸や朝鮮半島各地の地域社会とともに東アジア世界を形成し、人的交流や物資流通を媒介として関係を結びつつ、歩んできた。</p> <p>この授業は、Glocalな視点から古代の地域社会と異文化受容に関する考古学研究の基礎的な知識を提示する。講義で扱う時代は、「倭の五王」の時代から遣隋使や遣唐使が活躍する時代であり、最新の発掘調査成果とともに研究の最前線を紹介する。そして、東アジア交流が日本古代社会に与えた影響について、考古資料から考察する方法を体得できるようになることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古代東アジア世界の異文化交流に関する幅広い知識を獲得し、国際的な視座と地域に根差した視点という複眼的な視野を身につけることができる。 ・ 古墳時代から平安時代を中心とした考古学の基礎知識を得ることができる。 ・ 日本古代対外交流に関する研究最前線を知ることができるとともに、考古資料の観察眼が習得できる。 											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画で講義を進める予定であるが、各項目の講義の順序は固定したのではなく、受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。</p> <p>第1回：ガイダンス 考古学的手法による地域史の叙述 第2回：遺跡の盛衰を把握するための基礎（1） 古墳時代土器編年の現状と課題 第3回：遺跡の盛衰を把握するための基礎（2） 飛鳥・奈良時代土器編年の現状と課題 第4回：遺跡の盛衰を把握するための基礎（3） 平安時代土器編年の現状と課題 第5回：古環境復元の最前線と集落研究 第6回：「倭の五王」の時代と地域社会の変容（1） 第7回：「倭の五王」の時代と地域社会の変容（2） 第8回：物部氏の盛衰と布留遺跡（1） 第9回：物部氏の盛衰と布留遺跡（2） 第10回：考古学からよむ『播磨国風土記』（1） 第11回：考古学からよむ『播磨国風土記』（2） 第12回：考古学が復元する古代食の世界と東アジア交流 第13回：唐風文化と国風文化（1） 第14回：唐風文化と国風文化（2） 第15回：東アジア交流と地域社会</p> <p>それぞれのトピックで完結するのではなく相互に関連させながら講義をすすめる。 フィードバックは、各授業で受講生からの質問等にこたえる形で行います。</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（授業中課題の回答内容、小テスト） 約40%
学期末レポート 約60%

[教科書]

使用しない
適宜、資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

菱田哲郎『須恵器の系譜』（講談社,1996年）ISBN:978-4062651103
兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室『『播磨国風土記』の古代史』（神戸新聞総合出版センター、2021年）ISBN: 978-4343011312

（関連URL）

<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>(講義中に紹介する遺跡の発掘調査報告書を探し、閲覧する際に参考になります。)

[授業外学修（予習・復習）等]

感染対策を十全に行ったうえで、博物館や資料館にある古墳出土品や集落遺跡出土古代土器を熟覧すると、講義の内容がより深く理解できると思いますので、おすすめします。

（その他（オフィスアワー等））

質問などは、メールなどで受け付けることも可能です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系145

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 助教 文学研究科 助教		吉井 秀夫 下垣 仁志 富井 眞理 内記	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		East Asian Origins: Ancient History and Material Culture									
[授業の概要・目的]											
<p>In this special lecture, we offer an overview of various archaeological studies about the prehistoric and ancient East Asia, with the results of our researches and studies. We also examine the characteristics of the archaeological studies of the East Asia in Japan, by comparison of the studies in Europe and the US. The department of archaeology in Kyoto University has excavated archaeological sites in Japan, Korea, and China, and has gathered various artifacts from all areas of the world. These archaeological data will be introduced in this special lecture.</p> <p>Study Focus: Visual, Media and Material Culture; Knowledge, Belief and Religion. Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.</p>											
[到達目標]											
<p>By the end of this special lecture, student will get familiar with the artifacts of East Asia, and have general understanding of the issues about the prehistoric and ancient archaeology in East Asia.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>This special lecture will be offered in accordance with the following general structure. The detailed plan for each class will be announced in the introduction.</p> <p>1 Introduction (1 week) Introduction of the special lecture.</p> <p>2 History of the East Asian archaeology in Japan (3weeks) This section will outline the history of archaeological investigations, studies and gathering artifacts in Japan, Korea and China by Japanese archaeologists,</p> <p>3 Prehistory in Japan (3weeks) This section will outline the history of the study of Japanese prehistory, and focuses on the material culture of Mesolithic (called “Jomon” period) as well as Paleolithic and Early Neolithic, with showing some researches to exploit the potential for contributing to the world prehistory.</p> <p>4 Archaeology of daily life cultures in prehistoric and ancient Japan(3weeks) This section will outline prehistoric and ancient daily life cultures (clothes, foods and toilet) from structural remains and artifacts excavated in Japan.</p>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

5 The Eastward Transmission of Buddhist Culture from Archaeological Perspective (3weeks)

In order to assemble knowledge about “origins” of Buddhist culture, Kyoto University has conducted researches in Buddhist sites in China and Central Asia. In the lectures, how Buddhist cultures were transferred into East Asia will be discussed on the basis of archaeological information obtained by Kyoto University.

6 Discussion (1 week)

7 Feedback(1week)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Attendance and participation: 40%, Course Essay:60%

【教科書】

使用しない
Not used.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する
To be announced in class

【授業外学修(予習・復習)等】

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the reference papers and books announced in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所 大賀 克彦 特任講師			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		玉の考古学									
【授業の概要・目的】											
<p>玉は時代や地域を問わずに出現する極めて遍在的な考古資料であるとともに、広く世界との繋がりを示す資料である。また、近年の研究の進捗により、従来の認識が劇的に更新されつつある題材でもある。この講義では、弥生時代から古墳時代の日本列島において生産された、もしくは流通した玉類の分類的な検討を行ったうえで、その流通や消費の様相から、社会構造の生成や変容について考察することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>弥生時代から古墳時代の日本列島において生産された、もしくは流通した玉類に関して分類的な位置付けを行うことが可能になるとともに、玉類の生産や流通がどのように社会構造を生成もしくは変容させたか説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
講義は以下の内容で行う。											
<ul style="list-style-type: none"> 第1回 玉の研究方法 第2回 ガラスの材質分類と生産地 第3回 弥生時代における玉生産の開始と「碧玉」製管玉の流通 第4回 弥生時代中期後半における玉の生産と流通 第5回 玉生産における鉄器の導入と生産体制の再編 第6回 インド・パシフィックビーズの大量流入と紀元一世紀の社会変革 第7回 玉流通の地域性と弥生墳丘墓 第8回 翡翠製勾玉の変遷と倭王権 第9回 古墳時代前期の威信財システムと玉生産 第10回 威信財システムの更新と王権膝下の玉生産 第11回 雄略朝の復古再生 第12回 玉生産におけるニューモード 第13回 磐井の乱以降の対外交渉 第14回 玉の生産・流通と新式群集墳 第15回 古代的玉生産への移行 											
【履修要件】											
特になし											
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----											

考古学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30％）および学期末のレポート（70％）により成績を評価する。

[教科書]

使用しない
必要に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

河村好光 『倭の玉器』（青木書店，2010）ISBN:978-4-250-21001-3

谷澤亜里 『玉からみた古墳時代の開始と社会変革』（同成社，2020）ISBN:978-4-88621-835-3

[授業外学修（予習・復習）等]

博物館等において、出土資料を実際に見ておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

講義後に質問を受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系147

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		南山大学 人文学部 准教授 上峯 篤史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		石器研究の思考と実践									
【授業の概要・目的】											
<p>石器はその時間的・空間的な普遍性とは裏腹に、研究資料としての扱い方や可能性についての理解が浸透しておらず、石器研究は敷居が高い独特な研究領域を作っているようにとらえられる向きがある。この苦手意識の払拭こそ、この授業が目指すところである。授業では、日本とその周辺の石器文化（旧石器・新石器）を遍く取り上げながら、考古資料としての石器からどのような手続きで、どのような情報を抽出できるのかを論じる。具体的な研究事例にもとづいた解説と、授業担当者が持参する石器を使った実習を通じて、旧石器・新石器（縄文・弥生石器）に関わる基礎知識と、石器研究に通底する考え方を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>国内外の石器文化の大まかな特徴、地域性や変遷の概略を説明できるようになる。 既存の石器研究論文を、立論の根拠や方法に注目して批判的に読めるようになる。 石器研究における実験考古学的手法やフィールド調査の意義を、具体例をあげて説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>（開講日時はKULASISを通して連絡）</p> <p>第1回石器研究の方法 第2回石器の観察法 第3回石器製作技術の復原 第4回技術研究の可能性 第5回世界の旧石器文化 第6回東アジアの旧石器文化 第7回日本の旧石器文化 第8回近畿地方の縄文・弥生石器 第9回石器の使用実験 第10回石器使用痕の観察 第11回表面痕跡研究の可能性 第12回石器石材と地質環境 第13回旧石器時代遺跡の年代決定 第14回旧石器時代遺跡の堆積学 第15回石材原産地遺跡の最新研究</p>											
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----											

考古学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業後に課すレポート(50%), 平常点(授業への取り組み状況, 50%)で評価する。

[教科書]

教科書は使用しない。授業前に, レジюме等を提供する。

[参考書等]

(参考書)

松藤和人 『日本と東アジアの旧石器考古学』(雄山閣) ISBN:9784639021186

上峯篤史 『縄文石器: その視角と方法』(京都大学学術出版会) ISBN:9784814001453

佐藤宏之 『旧石器時代: 日本文化のはじまり』(敬文舎) ISBN:9784906822300

その他, 授業時に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

各日の授業内容は関連しているため, 毎日の復習につとめ, 翌日の講義に備えてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

この機会に石器を学んでみよう, という意欲のある学生を歓迎する。

担当者の研究活動については, 以下のURLを参照のこと。

<https://site-1725902-9497-6180.mystrikingly.com/>

オフィスアワーの詳細については, KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

歴史基礎文化学系148

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 千葉 豊 文学研究科 助教 伊藤 淳史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		鴨東地域の考古学 - 発掘調査の成果から -									
[授業の概要・目的]											
<p>京都大学の吉田キャンパスは、ほぼ全域が遺跡の上に位置している。現在の文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センターの前身の組織も含めた40年余にわたる発掘調査によって、重要な考古情報が膨大に蓄積されている。本講義では、大学の位置する比叡山の西南麓、鴨川東方一帯の鴨東と呼ばれる地域の歴史を、こうした発掘調査の成果から再構成するとともに、それらの考古学研究上の意義について認識を深める。</p>											
[到達目標]											
<p>考古学の最も基礎的な目的である、遺跡・遺物から歴史を復元していく研究手法の特性やひろがりについて理解できるようになる。また、その理解を通じて、自らが学び生活する地域の文化財についての重要性を認識するとともに、考古学調査者や研究者として実証的に資料を取り扱い活用する実践力を養うことができる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下に記す大別テーマに関して、それぞれ1～4週の授業を計画する。講義に際しては、構内の遺跡を実際に訪れる野外臨検や、実物資料を前にした議論などを随時とり入れ、各自の意見も求めながら理解や問題意識を深めていく形態を予定する。</p> <p>第1講 イン트로ダクション（千葉・伊藤） 第2講～第5講 比叡山西南麓の旧石器・縄文時代（千葉） 活動の舞台と最古の人類文化 比叡山西南麓の縄文遺跡 遺跡を群としてとらえる 比叡山西南麓の縄文遺跡 集落の移り変わりとその特質 京大構内の縄文遺跡を歩く 第6講～第8講 弥生時代研究と鴨東地域の調査成果（伊藤） 弥生時代のはじまりをめぐる諸説と弥生前期水田の発掘調査 中期弥生土器の地域色と京都大学構内出土の土器群 初期倭王権成立期の京都盆地と鴨東地域の状況 第9講 古墳時代の鴨東地域 副葬品や供献遺物にみる吉田二本松古墳群の特質（伊藤） 第10講 奈良～平安時代の鴨東地域 平安京郊外の開発と鑄造遺構発見の意義（伊藤） 第11講～第12講 中世考古学の進展と京都大学構内遺跡（伊藤） 中世土師器（かわらけ）・陶磁器編年の現状と課題 中世遺跡と文書史料でさぐる鴨東の開発と活動者たち 第13講～第15講 近世・近代の鴨東地域 土地利用の変遷（千葉） 江戸時代の鴨東地域の特質 都市近郊農村としての展開 考古資料と美術作品 乾山焼と連月焼 考古資料にみる近代化の波 幕末藩邸の設置から京都帝国大学まで</p>											
----- 考古学(特殊講義) (2)へ続く -----											

考古学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回講義の発言や意見表明などからうかがわれる参加意欲で評価する）

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

指示された論考や報告書は必ず熟読し内容を把握しておくこと

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 向井 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏塔と仏舎利の考古学									
【授業の概要・目的】											
<p>古代インドでは、釈迦の入滅後、その舎利（遺骨）を分配して各地に仏塔が建立されたと伝えられている。文献史料によれば、漢代には仏教が中国へと伝えられ、おそくとも三国時代には仏舎利も伝来していたという。ただし、現在のところ中国では、4世紀以前にさかのぼる仏舎利の遺物やその埋納遺構は確認されておらず、5世紀中葉の北魏の舎利容器が考古学的に確認できる最古の実例となっている。塔下に埋納された舎利とその荘厳具は、仏教にかかわる諸文化のなかでも、かなり保守的な側面をもつ一方で、6～7世紀になると塔下の舎利埋納施設は大きな変化をとげる。この講義では、仏塔への仏舎利埋納を手がかりとして、インド・ガンダーラから中国への仏塔伝来、そして朝鮮半島・日本列島への東伝の具体的様相をさぐる。それにより、アジア地域に通底する仏舎利埋納の伝統と、中国や日本の仏塔の特質を明確にすることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>仏教東伝の過程においては、中国に伝来し、中国で変容をとげた仏教文化が、東アジア各地へとひろがっていった。この講義では、仏塔への舎利埋納を主要な題材として、仏教寺院の中国的変容、そして朝鮮半島から日本列島への伝播と変容の過程を理解することを目標としている。また、この時代の仏教寺院を研究するためには、考古資料のみならず、文献史料・図像資料をあわせて検討することが必要であり、歴史考古学・美術考古学の方法論や課題を学ぶことを本講義のもうひとつの目標としたい。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> 仏塔と仏舎利の研究の諸問題 インド仏塔の舎利埋納 ガンダーラ仏塔の舎利埋納 中国に伝来した仏舎利 東晋・南朝の舎利埋納と舎利容器 北魏興安二年舎利石函の図像学 北魏太和五年石函の調査と研究 東魏・北齊仏塔の舎利埋納 百濟仏塔の舎利埋納 新羅仏塔の舎利埋納 隋代仏塔の舎利埋納 地宮の成立 仏塔と墓塔 法門寺の発見 仏塔と仏舎利の伝来 											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点20%と学期末レポート80%をあわせて評価する

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

向井佑介『中国初期仏塔の研究』（臨川書店，2020年）ISBN:9784653044390

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系150

科目ナンバリング		U-LET27 37031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 向井 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジア仏教寺院の空間構造									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初期仏教寺院の伽藍配置が仏塔を中心とした構成であったことは、文献史料にもとづく諸先学の研究によって指摘されており、近年実際に発掘された南北朝時代（5～6世紀）の仏教寺院も確かに塔を中心としたものが多い。しかし、北朝末から隋唐時代（6～10世紀）になると、都城寺院の大規模化にともなって寺院の内部構造は複雑になり、伽藍配置も多様化していく傾向がみとれる。一方、古代日本では、塔を中心とした飛鳥寺式・四天王寺式から塔と金堂を並置した法隆寺式・法起寺式、金堂前に二塔を並置した薬師寺式へと変化していったことが知られているが、その意味についてはさまざまな説が出され、その議論は決着していない。この講義では、インドから中国、そして朝鮮半島と日本列島への仏教寺院東伝の過程を明確にするとともに、寺院の空間構造という視点から、東アジア仏教寺院の特質をさぐることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>インド・ガンダーラから中国へと伝来した仏教寺院は、中国伝統建築と結合し、新たな寺院建築の様式を生み出した。東アジアの仏教文化は、インド文化と中国文化との融合を大きな特色としつつも、朝鮮半島から日本列島への伝播の過程でそれぞれの地域の独自要素も発現している。この講義では、インド・ガンダーラから中国、朝鮮半島、日本列島へと仏教寺院が東漸するにしたがって、その空間構造にいかなる変化が生じたのか、近年の考古学的調査によって明らかになってきた東アジア各地の寺院の具体的様相とその意義を理解することを目標とする。同時に、仏教寺院を中心とした歴史考古学や美術考古学・建築考古学の方法と成果について理解を深めることを目指す。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> 仏教寺院の東方伝播をめぐる問題 インド仏教寺院の空間構造 ガンダーラ仏教寺院の伽藍配置 中国初期仏教寺院の伽藍配置 北魏仏教寺院の伽藍配置 雲岡石窟の寺院建築構造 北魏洛陽永寧寺の九重塔 東魏・北齊寺院の建築と伽藍配置 新発見の南朝仏教寺院 高句麗仏教寺院の伽藍配置 百濟仏教寺院の伽藍配置 新羅仏教寺院の伽藍配置 法隆寺式伽藍配置の源流 双塔寺院の成立過程 東アジア仏教寺院の特質 											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点20%と学期末レポート80%をあわせて評価する。

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

向井佑介『中国初期仏塔の研究』（臨川書店，2020年）ISBN:9784653044390

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系151

科目ナンバリング		U-LET27 37040 SJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(演習Ⅰ) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		三回生演習									
【授業の概要・目的】											
考古学の方法論や基礎知識を身につけることを目的とする。授業では、考古学に関わる重要な論文を熟読し、その内容や論理構成を分析・紹介し、現在の考古学における主題や方法論を批判的に摂取する。また状況に応じて、考古資料を実際に観察・記録・報告する実習もおこなう。											
【到達目標】											
<p>学術論文を熟読し、その内容・論理構成を正しく理解できるようになる。</p> <p>学術論文の検討を通して、考古学における基本的な方法論を身につける。</p> <p>考古資料を正しく観察・記録・報告する技術を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>発表者は与えられた課題論文や自ら選択した論文の内容を、基礎となる考古資料とあわせて紹介し、論文の論理構造や問題点を指摘する。出席者は発表内容に関して質問し、異論を提示する。また状況に応じて、考古資料を実際に観察・記録・報告する実習もおこなう。受講者数によって変動するが、おおむね以下のように進める予定である。</p> <p>前期</p> <p>第1回 ガイダンス（授業計画の説明および報告順序の決定）</p> <p>第2回 講義（演習の進め方について）</p> <p>第3～14回 課題論文の報告および討論</p> <p>第15回 夏期課題の分担を決定</p> <p>後期</p> <p>第1～3回 夏期課題の報告および討論</p> <p>第4～15回 課題論文の報告および討論</p>											
【履修要件】											
授業に出席し発表を担当することが前提となる。											
【成績評価の方法・観点】											
課題である論文をどれだけ明確に分析し理解できているか、また他の受講者の報告に対して活発に議論できているかを評価する。また必要に応じて課するレポート課題も評価の際の参考とする。											
----- 考古学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

考古学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない
発表に際しては、各自レジュメを準備すること。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
発表内容に関する参考書は、発表者が検索すること。教員も随時紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の課題論文を読むことはもちろんのこと、他の受講者の課題論文も読むこと。また、各自で考古学の基本的な方法論に関する書籍・論文を読み、理解を深めること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系152

科目ナンバリング		U-LET27 37042 SJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(演習II) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 下垣 仁志			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、担当者(受講者)による発表とその後の討議をつうじて、考古学の具体的な方法論と知識を身につけるとともに、発表と討論の作法を習得する。さらに、学部生は卒業論文に向けて自身の研究テーマを絞り、大学院生はみずからの研究をいっそう深化させることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>考古資料や関連文献から情報をひきだし、具体的な方法論に即して考察を構築する手法を習得できるようになる。発表内容を理解したうえで、より高次の議論へと発展させるための討論の作法を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>年間を通じて、考古学に関する発表と討論の技術を磨いてゆく。前期は、各自の問題意識と関心にあわせ、研究発表と課題論文の発表などを課す(参加人数に応じて後者を省略する場合もある)。後期は、受講者が各自の研究関心に沿ったテーマを設定し、それに関する研究報告と討論をおこなう。初回に受講人数に合わせて発表予定を組むので、万障繰りあわせて出席すること。 * コロナ禍の状況次第では、授業方式を非対面などに切り替える事態も起こりうる。変更時には可及的速やかに連絡をするので、受講生は授業関連の連絡をこまめにチェックすること。</p> <p>受講者数によって変動するが、おおむね以下のように進める予定である。</p> <p>【前期】 第1回 前期の授業計画の説明・報告順序の設定など 第2～15回 報告および討論</p> <p>【後期】 第1～15回 各自の研究テーマに関する報告および討論</p>											
【履修要件】											
<p>考古学の専門性がかなり高くなるので、考古学実習をすでに履修したか、履修予定の学生であることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>発表内容・討議への参加度合い・レポートの出来栄などから総合的に評価する。発表者の無断欠席は、単位認定を放棄する行為とみなす。</p>											
----- 考古学(演習II)(2)へ続く -----											

考古学(演習II)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

与えられた課題をこなし、発表・レポート作成に結実させるべく、関連遺物・遺跡の積極的な観察・踏査をおこなうこと。また各自、博物館見学・現地説明会見学・資料調査・発掘調査に積極的に参加・関与することで、テーマの発見と考古学への知見を深められたい。

(その他(オフィスアワー等))

課題をクリアすべく、できるだけ多くの文献にあたり知識を深められたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系153

科目ナンバリング		U-LET27 37045 SJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(演習Ⅲ) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉井 秀夫 文学研究科 教授 下垣 仁志 文学研究科 准教授 千葉 豊			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		卒業論文指導									
【授業の概要・目的】											
卒業論文作成を目的とした研究に関する中間発表をおこない、教員や他の出席者からの批評を受け、よりよい論文の完成をめざす。各人が、研究の進捗状況にしたがって、段階的に成果を発表する。											
【到達目標】											
授業での中間発表およびそれに関する質疑応答をもとに、卒業論文を書き上げる。											
【授業計画と内容】											
5月の連休頃までに各自研究テーマを確定する。前期末までの発表では、そのテーマにかかわる研究史や問題点を整理し、夏休みを中心とした作業計画・研究計画を提示する。後期前半には、夏休み中におこなった資料収集成果やその分析成果の途中経過を整理・発表する。後期後半の報告では、論文目次案を提示した上で、研究成果を総括する。受講者数により日程は調整するが、おおむね以下の通りで進める予定である。											
前期											
第1回 ガイダンス											
第2～8回 研究テーマの検討											
第9～15回 第1回報告											
後期											
第1～7回 第2回報告											
第8～15回 第3回報告											
【履修要件】											
卒業論文の作成と提出が前提となる。 本演習とは別に、忘れずに卒業論文の登録をすること。											
【成績評価の方法・観点】											
演習時の発表内容によって評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 考古学(演習Ⅲ)(2)へ続く -----											

考古学(演習Ⅲ)(2)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

卒業論文を書き上げるために、できる限りの時間を用いて資料収集・遺物の実見と検討・分析などの作業を進めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはとくに設けないが、卒業論文作成に関する相談は常時対応する。電話やメールなどで、教員のアポを取ること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系154

科目ナンバリング		U-LET27 27050 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(講読) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 富井 眞			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英書講読									
【授業の概要・目的】											
<p>理論的な側面と自然科学的分析の側面で大きな成果をあげている、欧州の新石器文化についての概説書を主な対象とする。そして、欧州先史時代研究における考古資料等の認識と解釈の仕方に親しむ作業を通じ、当該文化期の実態に関する解釈、諸外国の考古学研究者との意見交換に備えるべく術語の用法、解釈の枠組みをめぐる理論的背景、を理解する。</p> <p>講義の基本的な枠組みは、テキストの輪読と、理論考古学等に関する小テスト。夏季学休期間の課題として、英語論文一本の全訳がある。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧州先史時代研究の現代的方向性を理解する。 ・ その理解をもとに、海外における古代の物質文化に対する理論的研究に親しみ、考古資料から過去の事象や社会や精神文化を探るのに有効ないくつかの方法について、自身の将来の研究に活かす可能性を意識する。 ・ 考古学の基礎的術語の英語表現を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 基本文献や辞書などを紹介し、授業の進め方について説明する。テキスト進行に先立つ第2回以降の英文書籍抜粋プリントを配布する。</p> <p>第2～6回 考古学の基本原理に関する英文書籍の抜粋プリントの精読 専門書たるテキストに先立ち、考古学の基本的な概念・方法に関する英語表現に慣れるために、考古学の概説書から部分抜粋した英文を読み進める。なお、進捗に応じて、回数に多少の前後は生じ得る。</p> <p>第7～29回 テキスト『Europe in the Neolithic』の精読 <その他(オフィス・アワー等)>に示した授業方法にしたがってテキストを精読していく。第20回前後までの前半期は、構文把握を重視した全文訳をする。後半期は、段落の要約を重視したうえで、論理構成を意識しながら、訳していく。</p> <p>第30回 フィードバック</p>											
----- 考古学(講読)(2)へ続く -----											

考古学(講読)(2)

[履修要件]

考古学の基礎的な概念や方法を理解していないと履修に困難を来すので、履修の前提として、考古学入門書を読破する程度の作業は済ませておくこと。

[成績評価の方法・観点]

総合評価。 学年末試験。 平常点評価（テキスト訳、術語解説、今回分及び翌週提出分の小テスト、夏季課題）。比重は、 60%で 40%。平常点は、到達目標の達成度に基づいて評価される。

欠席数によっては、夏季論文課題や学年末試験問題の量が多くなる。また、夏季課題未提出の場合には、学年末試験問題の量が多くなる。

なお、講義に関する内容で発言を求められた際に、「わかりません」という回答のように自身の見解を明示しない消極的姿勢は、平常点での大きな減点対象となる。

[教科書]

Alasdair Whittle 『Europe in the Neolithic: The Creation of New Worlds』（Cambridge University Press）
ISBN:0521449200

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・講義で読むところは予読を済ませておくこと。
- ・小テストの翌週提出では、内容の理解を反映して日本語として意味の通る訳文を完成させること。
- ・夏季学休期間の課題では、英語論文一本を全訳する。

（その他（オフィスアワー等））

テキストの読み進め方は、文章や段落ごとに和訳担当者を決める1人1段落方式を基本とするが、分量・内容に応じて数文単位になることもある。担当者の指名は講義当日におこなう。進行読量は、内容如何で変動幅が大きいですが、1日で5段落程度まで進むこともある。日本語訳だけでなく、内容的に理解できていることが大切なので、テキストの内容について下調べも必要になる。また、述語や重要事項などについて、適宜、調べ物作業を課すことがあるが、その際には、出席者分の資料を用意すること。

そのほか、読解力維持と＜授業の概要・目的＞の理解向上とを目的として、理論考古学や考古遺産などに関する小テストを、隔週程度の頻度でおこなう。小テストは、指定時間内は下線部訳のみだが、下線部を含めた全文訳を翌週までの課題とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史基礎文化学系155

科目ナンバリング		U-LET27 27060 PJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(実習) Archaeology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 文学研究科 文学研究科 文学研究科 文学研究科	准教授 助教 教授 助教 教授	千葉 伊藤 吉井 富井 下垣	豊 淳史 秀夫 眞 仁志
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		考古学実習									
【授業の概要・目的】											
考古資料は基本的に唯一無二であるが、写真や実測図にもとづく叙述によって、研究者の間である程度までは資料を共有できる。本講義では、考古資料をおもに実測図で表現するテクニックを取得する。考古資料には土器・石器・金属器・瓦など各種あり、ものによって図法や表現法が微妙に異なる。できるだけ多くの資料を実測して、それらを身につけるのが授業の目的となる。											
【到達目標】											
さまざまな考古資料の実測図を作成するための基本的な技術を身につける さまざまな考古資料を適切に観察・記述できるようにする											
【授業計画と内容】											
前期 第1回 ガイダンス 第2～5回 須恵器 第6～8回 弥生土器 第9～10回 縄文土器施文法 第11～12回 縄文土器 第13～14回 野外測量 第15回 フィードバック 後期 第1回 レイアウト 第2回 トレース 第3～6回 金属器 第7回 鏡 第8～10回 石器 第11～14回 瓦 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
実測道具・製図道具の数や教室のスペースなどの関係で、受講可能な人数は15人までとする。											
----- 考古学(実習)(2)へ続く -----											

考古学(実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

すべての授業に出席することを前提とし、授業の節目に提出した実測図とレポートにより評価する。

[教科書]

使用しない

実測作業の基本となる実測道具の一部は受講生の実費負担となる。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

実習中に実測した遺物のレポート作成を通して、実習で学んだことを整理し、さらに関連文献を読むことにより、理解を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはとくに設けない。各課題を消化しないと次のステップに進めないので、時間外授業にも教員は対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容